

情報処理

教養科目/2単位/1前期開講/スクーリング授業

日 時	1日目 令和3年6月6日(日) 9:30~18:20 2日目 令和3年6月12日(土) 9:30~18:20 3日目 令和3年6月13日(日) 9:30~18:20	該 当 時間割	B
	[スクーリング受講中止届の提出について] 令和3年5月28日(金) 必着		
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス7号館(岡山県高梁市伊賀町8)		

■ 担当教員	今村 俊介
■ 使用テキスト	テキスト:『実践に役立つ情報処理 基礎から応用まで 2020年度版』 著 者:立田 ルミ(著), 今福 啓(著), 堀江 郁美(著) 出 版 社:日経BP 出 版 年:2020/3/19 I S B N:978-4822292416
■ 参考テキスト	適宜プリントを配布する

講義概要・一般目標

情報のデジタル化, コンピュータ開発の歴史, コンピューティングの要素と機構, ハードウェア, ソフトウェア, 文書作成, プレゼンテーション, ネットワーク, 情報検索, コンピュータによる問題解決, セキュリティ, 情報モラル, 情報システムの利用と社会問題などについて学習する。講義の内容に対応してパソコンを使用して適宜演習を行う。講義の最終回にテキスト内容に準じた筆記テストと Excel による確認テスト(実技)を行い、全体のまとめとする。

到達目標

知識として、コンピュータの基礎概念(コンピュータの基本構成、論理回路、2進数・10進数の基数変換)とネットワークリテラシー(ネットワークの構成要素、暗号化理論、情報セキュリティ基本方針)を理解する。また、実技として基本アプリケーション(Word、/Excel/PowerPoint)の特徴を理解し、加えてWebページの作成と初歩のプログラミング作成を行う。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

専門学校でのコンピュータ・インストラクターの経験を生かして、現代社会に必要な情報処理能力の意義や意味、それを教育現場で実践できる方法を体感的に理解できるカリキュラム作成に留意した授業を行っている。

学修の進め方

[スクーリングまでの事前学修事項]

テキストは一通り通読しておいて下さい。分からないところはそのまま構いません。
可能であれば、キーボード入力がスムーズにできるよう練習していただくと助かります。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

試験問題の解答を後日サイトに掲示しますので、確認の上、不明な点があれば質問の書き込みをお願いします。また、授業内容以外でも質問があれば受け付けますので積極的に活用をお願いします。

〔テキストの概要と学修のポイント〕

試験問題の解答を後日サイトに掲示しますので、確認の上、不明な点があれば質問の書き込みをお願いします。また、授業内容以外でも質問があれば受け付けますので積極的に活用をお願いします。

〔テキストの概要と学修のポイント〕

1 コンピュータサイエンスへのいざない

この章では、コンピュータの基礎概念を理解する。具体的には、ハードウェアとソフトウェアの区別、ソフトウェアの種類とその分類、情報システムとネットワークを概観する。

2 レポートを書く準備

この章では、文書・音声・画像情報の構成と処理の仕組みを理解する。また、今日における情報収集の方法の種類と効果的な設定や活用を考察する。

3 データ集計とグラフ作成

この章では、データ集計とその運用について理解する。Excel によるデータ集計とグラフ作成の基本を確認する。

4 データ分析と印刷

この章では、前章を受けてデータ分析の概念と仕組みを理解する。また、印刷する場合の注意点にも触れ、出力方法の最適化も確認する。

5 調査内容の発表

この章では、PowerPoint スライド作成の基礎を実技によって理解する。また、実際の発表方法のポイントについても確認する。

6 キャッシュフロー計算

7 制約のある問題の効率的な答えを求める

この2章を通して、Excel によるデータ分析の基礎を実技によって理解する。分析の結果をわかりやすくモデル化することのメリットについても説明を行う。

8 Web ページの作成

この章では、Web ページ作成の基礎を実技によって理解する。Web ページ記述言語とは何か、実際の作成を行う際に押さえておく留意点とは何かについても説明を行う。

9 初歩のプログラミング

この章では、前章の Web ページ作成から一歩進んで論理的な考え方をプログラミング作成によって確認する。

〔フィードバック〕

スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行ないます。

学修指導

1 日 目	講義 1 情報とは何か、コンピュータとは何かを理解する
	講義 2 コンピュータの歴史と情報処理の仕組みを理解する
	講義 3 文書作成の基本を理解する（講義と実技）
	講義 4 デジタル文書の特徴と活用方法を理解する（講義と実技）

	講義5 ポイントを絞った実用的な文書の作成（実技）
2 日 目	講義6 インターネットの歴史と基本的な仕組みを理解する
	講義7 ソーシャルネットワーキングサービスの現状を理解する
	講義8 データ分析とデータ処理の基本を理解する（講義と実技）
	講義9 実際のデータ処理に必要な機能を理解する（講義と実技）
	講義10 自動的なデータ処理を含む文書の作成（実技）
3 日 目	講義11 ネットセキュリティの考え方と対応を理解する
	講義12 問題解決のための ICT 技術の活用を理解する
	講義13 プレゼンテーションの基本を理解する
	講義14 課題作成を通して実際の発表の技法を理解する
	講義15 Web ページ作成とプログラミング初歩を通してコンピュータの論理を理解する
	講義16 科目単位認定試験（筆記と実技）

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

特に事前課題はありません。

教室の OS と Office は、Windows10、Office2016 です。

実技を行ないますので、Windows10 および Word2016・Excel2016・PowerPoint2016 の基本操作を理解して出席いただくと学習がスムーズに進むものと思います。

（授業内で基礎レクチャーは行いますので、その点は安心してご参加下さい）

〔準備するもの〕

テキスト、筆記用具以外は特にありません。

〔その他〕

作成したデータの持ち帰りを希望される方は、USB メモリをご持参下さい。

生涯スポーツ論

教養科目/2単位/1・2・3・4年前期開講/テキスト授業

■ 担当教員	久保園 明美
■ 使用テキスト	テキスト：生涯スポーツの理論と実際 改訂版 著者：日下裕弘 他著 出版社：大修館書店 出版年：2015年(第2刷 2015年9月1日) ISBN：978-4469266986
■ 参考テキスト	テキスト：小学校学修指導要領解説 体育編 著者：文部科学省 出版社：東洋館出版社 テキスト：幼稚園教育要領 平成20年3月告示 著者：文部科学省 出版社：教育出版

講義概要・一般目標

日本の体育・スポーツ行政は、文部科学省が管轄している。

平成9年に保健体育審議会がまとめた答申「ライフステージ別の生涯スポーツ」には、21世紀のわが国の生涯スポーツの基本的な考え方、指針、方策が示されている。その中には、生涯スポーツをエリックソンのライフサイクル論や一般的な発育発達論及びその他の健康・スポーツ科学などを総合的に考慮し、人生を大きく4つに分け、それぞれのスポーツライフのあり方が提示されている。さらに、そうした個人のスポーツライフを生涯にわたるスポーツ課題に結びつけ、それを家庭・学校・地域・民間・企業・行政が一体となって組織的に支援していくことの重要性が指摘されている。

本講義では、生涯スポーツの意義を学ぶことを通じて実践していく必要性を学修していく。

到達目標

到達目標としては、生涯にわたってスポーツに親しむ意義や、身体的・情緒的・精神的・社会的などのプラスの効果について理解を深める

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

- ① 日本レクリエーション協会公認「レクリエーション・コーディネーター」「福祉レクリエーション・ワーカー」として子供から高齢者・障害児(者)までレクリエーション活動の指導、普及を行う。
- ② 岡山県レクリエーション協会、岡山市レクリエーション協会の委員として地域のレクリエーション活動を支援し、生涯スポーツの普及を行う。また、指導者養成講習会の講師として活動を行う。
- ③ 日本スポーツ協会(旧：日本体育協会)の公認指導者として、地域のスポーツ少年団や成人の団体において球技の指導を行う。

◎ 上記の実務経験などを基に、子供から高齢者、障害児(者)における生涯スポーツの意義や重要性をテキストに沿って学生等に理解させたい。

学修の進め方

〔添削課題の進め方と留意点〕

テキストは第1章から第5章までとなっています。このテキストを熟読し、その上で照らし合わせながら進めて下さい。問題はすべての章から出題されていますので、問題文がどの章の内容になっているかを考えながら進めると効果的です。

また、論述問題では字数に気をつけながら要約して述べるよう注意して下さい。

〔フィードバック〕

フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキスト解説と学修のポイント〕

第1章

① 総論 生涯スポーツの理念と構図

「生涯」「スポーツ」という概念は、人間の生（生命）・生活・人生（生涯）をより豊かにするための身体活動や運動を総称したものである。そこには遊び、スポーツ、余暇活動、健康運動といったさまざまな身体活動が含まれることから、ここでは理念とE・H・エリクソンのライフサイクル論（アイデンティティ論）について学ぶ。

② 総論 ライフステージ別生涯スポーツの実現方策

幼児期から成人（老年）後期までの各ライフステージにおける発育発達と遊びやスポーツのかかわりを学ぶ。あわせて、我が国のスポーツ施策「スポーツ基本法」「スポーツ基本計画」、中央教育審議会「子どもの体力向上のための総合的な方策について」（答申）、オリンピック、パラリンピック、スポーツ庁についても学修する。

第2章

① 子どもと遊び

昔の子どもと現代の子どもの環境について、比較しながら親のかかわり方や遊びの変化を基に、現在の教育事情や家庭生活の問題点を学ぶ。

② 子どもと遊戯スポーツ

ここでは、子どものスポーツについて、大人の論理で行われる業績主義的な競争や勝利者や効率だけが価値をもち、称えられることに警鐘を鳴らしている。そして大人の支援、共援による「有能感」を育てることの重要性について学ぶ。

③ 遊びの諸理論

ここでは、遊びについてのさまざまな理論や分類についてふれる。また、安全、安心を保障された時空間で遊ぶ子どもの状態について学ぶ。

④ 乳幼児期の運動教育

ここでは、豊かな生（ライフ）をめざす生涯スポーツにとって、乳幼児期の運動遊びは基底的な重要性をもつ、ということを経に、運動自体がもつ楽しさ、喜びによる人間としての成長の意義を学ぶ。また、スポーツ少年団の事例から、学童期における運動の功罪についてふれる。

⑤ 子どもと「遊び」、「遊戯スポーツ」の実際

ここでは、遊びの中でも自然遊び・外遊び・季節の遊び・伝承遊びについてふれ、日本ならではの特色を学ぶ。また、現代社会の中で、遊ばない・遊べない子どもの増加において、大人による「しかけ」づくりの必要性を学ぶ。

第3章

① 青年とスポーツ・スポーツの本質

ここでは、青年期に行われるスポーツの効果について学ぶ。身体的・心理的・社会的成長に寄与し、自分の可能性をとことん追求できるのが青年期の特徴である。また、スポーツの本質要素として「遊び」「競争」「全身的な運動」「組織性」にふれると共に、「フロー理論」や「フェアプレイ精神」といったスポーツ文化についても学修する。

② 障害者とスポーツ

ここでは、障害者スポーツの意義についてふれ、ノーマライゼーション（ノーマライゼーション）の思想のもと、人間にとってスポーツとは何か、人間にとって目標や夢をもち、それに向かって努力することの大切さ、また充実した生の重要さを学ぶ。

③ 青年の「スポーツ」の実際

ここでは、生涯にわたってスポーツを愛し、実践し続け、その豊富な体験から自らのスポーツ・アイデンティティを築きあげた人物の中で、野球界の飛田穂洲氏とイチロー氏にふれる。

第4章

① 成人と「地域スポーツ」

ここでは、成人期として、自分のライフスタイルをできるだけ活動的にする主体的・継続的な健康スポーツ（体力づくり）ファミリースポーツ・交流スポーツを推奨していることにふれる。また、地域（コミュニティ）スポーツの年代ごとの特徴と「総合型地域スポーツクラブ」について学修する。

② 成人と「レジャー・スポーツ」の実際

ここでは、レジャー・スポーツについて諸外国の先進事例を学ぶ。ヨーロッパでは、生活における労働（学業）とレジャーの位置づけが社会システムとして制度化されており、スポーツクラブも100年以上古い歴史と伝統を有している。日本の現状と課題新しいスポーツ価値について学修する。

第5章 高齢者と「生きがい（健康・楽しみ・仲間）スポーツ」

高齢期の運動・スポーツの基本は「無理なく、規則正しく、そして楽しく」である。自分にあった軽めの、楽しい運動・スポーツを継続して行うことが大切である。この章では、「仲間と楽しみながら、気楽に」健康スポーツに親しむことの重要性について学修する。

対人関係論

教養科目/2単位/1年前期開講/スクーリング授業

日 時	1日目 令和3年7月17日(土) 9:30~16:40 2日目 令和3年7月18日(日) 9:30~16:40 3日目 令和3年7月24日(土) 9:30~16:40 4日目 令和3年7月25日(日) 9:30~16:40	該 当 時 間 割	D
	〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年7月9日(金) 必着		
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10号館(岡山県高梁市伊賀町8)		

■ 担当教員	栗田 喜勝
■ 使用テキスト	テキスト：指定しない(スクーリング時に資料を配布)
■ 参考テキスト	テキスト：「ワークショップ人間関係の心理学」 著 者：藤本忠明他編 出 版 社：ナカニシヤ出版(書店販売・注文可)

講義概要・一般目標

心理学は一般的に「行動の科学」として認知されているが、その研究アプローチは多岐にわたる。中でも個人心理学は、環境との相互作用を行う個体(個人)に注目して知覚や感情、思考などについて科学的に究明してきたが、社会心理学は、個人と他者との相互作用の観点から、社会の中の個人の行動を科学的に理解しようとする学問体系であるといえる。そこで本講では、個人、集団に影響を及ぼす種々の心理的要因について具体的にに取り上げ考察する。

到達目標

「社会における人と人との相互作用」と「社会的適応」をテーマとして、人々の具体的な日常生活場面における対人行動の特徴を理解することにより、よりよい人間関係のあり方について考察を深めることができるようになる。

評価方法

科目単位認定試験と授業中の発表を合わせて評価します。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

障がい児施設・児童養護施設において主任児童指導員・副園長として児童・保護者の人間関係改善、社会的適応援助に従事した。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

本授業では、対人関係について心理学的考察を行うが、夫婦、家族、親子、子ども同士の間関係等をテーマとした新聞記事や小説、TVドラマ等を視聴し、対人関係における言葉の影響力や人の感情の動き等について考えてみてほしい。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

スクーリングにおける学びをより確かなものにするためには、スクーリング時に配布した資料に再度

目を通すとともに、紹介した文献や図書等を通じて補完学修・発展学修に主体的に取り組む必要があります。特に本授業は人間関係の改善に資するための学びを目指すものでもあるので、各自の日常の人間関係の具体的な状況や課題について学ぶ姿勢が大切です。

〔フィードバック〕

スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行いません。

学 修 指 導

1 日 目	講義 1 心理学における対人関係の位置づけ
	講義 2 社会心理学の研究対象としての対人関係
	講義 3 社会的認知のメカニズムについて
	講義 4 社会的相互作用について
2 日 目	講義 5 社会的欲求と適応行動について
	講義 6 対人関係とストレスについて
	講義 7 対人関係とフラストレーションについて
	講義 8 対人関係と対人認知
3 日 目	講義 9 印象形成について
	講義 10 対人関係と感情
	講義 11 社会的態度と行動について
	講義 12 社会的態度とステレオタイプ
4 日 目	講義 13 社会的態度と偏見
	講義 14 社会的態度変容について
	講義 15 講義のまとめ
	科目単位認定試験

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

特になし

〔準備するもの〕

筆記用具（講義資料は当日配布します）

〔その他〕

特になし

地域福祉論

専門教育科目／2単位／2年前期開講／テキスト授業

■ 担当教員	黒宮 亜希子
■ 使用テキスト	テキスト：新版 よくわかる地域福祉 (やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ) 著者：上野谷加代子ほか(編著) 出版社：ミネルヴァ書房 出版年：2019年 ISBN：4623085929 (9784623085927)
■ 参考テキスト	指定なし

講義概要・一般目標

地域福祉の歴史的展開および現在の地域福祉活動・事業の内容とその主体，それらを支える関連法制度・政策を中心に学ぶ。

地域福祉を社会福祉の一分野として捉えるのではなく，福祉サービス利用者の地域における自立生活を支援するための理念・技術について深く理解することが求められる。

さらには，地域福祉の具体的な推進方法や，地域福祉の推進主体である人材や集団・組織，それぞれの役割などについても理解することを目標とする。

到達目標

到達目標として5つを挙げる。

- ①地域福祉に関する基礎的な概念・用語の理解
- ②地域福祉に関する基本的な政策・法令の理解
- ③地域福祉に関わる人々や団体・組織の役割を知る
- ④地域福祉に関する実践例の理解
- ⑤地域福祉に関する近年の動向を知る(子ども・災害分野)

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

障がい者施設等での実務経験を活かした，地域における幅広い地域福祉実践について。

学修の進め方

・社会福祉領域の中でも，特に「地域福祉」に関する基本的な用語を基に出題している。

添削課題は，基本的に各単元において重要な語句である太字部分及び左右見開きに解説が加えられている用語を元に出題している。難解な用語は重要語句の前後の文章を読み込むことで理解が深まるであろう。

・学修の流れとしては，①テキストを章ごとに読み込み全体を理解する，②添削課題を読み，どの章のどの単元から出題されているかを確認する，③添削課題の問いに対し，テキストを確認しながら用語や文章を記入する，以上3ステップで学修を進められたい。

・フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを残します。

学修指導

〔テキスト解説と学修のポイント〕

I 地域福祉とは

本章では、地域福祉とは何か、また地域福祉の機能（働き）とは何かを、各市町村（松江市・西宮市・宝塚市・名張市）の実践例を通して理解する。

II 地域福祉の理念と概念

本章では、以下の2つの項目を中心に学ぶ。①地域福祉の理念（考え方、目標など）、②地域福祉を構成する基礎的な概念の理解（社会的包摂、ボランティアリズム、協働・パートナーシップ、エンパワメント等）。

III 地域福祉の発展

本章では、イギリス、アメリカ、北欧、日本における地域福祉の基礎的な歴史について学ぶ。日本については戦前、戦後、1990年以降に分けてそれぞれ学習を進める。

IV 地域福祉の政策展開

本章では、地域福祉の政策的な展開の流れを学ぶ。「地域特性に応じた地域福祉の展開」、「地域生活移行」、「共生型サービス」、「権利擁護」らがキーワードである。

V 地域福祉の推進方法

本章の目的は、地域福祉を推進するための方法論の理解である。

その中でも、「ニーズキャッチ」、「アセスメント・プランニング」、「ソーシャルサポートネットワーク」、「組織化」、「多職種連携」、「福祉教育」らが主なキーワードである。

VI 地域福祉の推進主体 ①地域福祉を推進する人々

本章は、地域福祉に関わる「人材」について学ぶことを目的とする。

地域福祉推進の主体となる、「コミュニティソーシャルワーカー（CSW）」、「ボランティアコーディネーター」、「地域住民・ボランティア」、「民生委員・児童委員」ら、それぞれの役割と活動の実際について学ぶ。

VII 地域福祉の推進主体 ②地域福祉を推進する団体/組織

本章では、地域福祉の推進主体となる団体や組織の役割について学ぶ。

具体的には、「社会福祉協議会」、「町内会・自治会」、「社会福祉施設」、「ボランティア・NPO」らを中心に学ぶ。

VIII 子どもと地域福祉

本章では、子どもと地域福祉の関わりについて学習を深める。キーワードは、「子育て支援」、「子どもの居場所」、「貧困と子ども」らである。

IX 災害と地域福祉

本章では、近年各地に頻発する災害とその支援方法について学ぶ。特に、災害支援のプロセスと支援方法、災害ボランティアらを学習の中心とする。

X 地域福祉計画と実際

本章では「地域福祉計画」について学ぶ。地域福祉推進のためには、住民らの主体的な関わりや活動の積み重ねが重要である。そのためになぜ地域福祉計画が必要なのか、どのように計画を策定するのか、方法論・計画プロセスも併せて学ぶ。

XI 地域福祉と評価方法

本章では、地域福祉分野における「評価」について基礎的な学習を進める。なぜ今、評価が必要なのか、背景を理解した上で、複数の評価方法について学ぶ。

ボランティアコーディネーター論

専門教育科目/2単位/2年後期開講/テキスト授業

■ 担当教員	米良 重徳
■ 使用テキスト	テキスト：学生のためのボランティア論 著者：岡本榮一 他編 出版社：社会福祉法人大阪ボランティア協会出版部
■ 参考テキスト	テキスト：ボランティアマネジメント 自発的行動の組織化戦略 著者：桜井政成 著 出版社：ミネルヴァ書房

講義概要

大きく3つのセッションに分けて学習をする。第1セッションはいわゆる導入部分にあたるが、ボランティア総論的な部分である。ボランティアとは何か、人はなぜボランティア活動に魅せられるのかが問われる。第2セッションは具体的なボランティア活動の社会的な意義について学ぶ。具体的な生活の場面でボランティア活動がどのように有効的に機能するのか幾つか事例を紹介しながら学びを深めていく。第3セッションが本講義の結論的部分でもあり、メインの内容となる。ボランティア活動を効果的に進めていくにはボランティアコーディネーターの存在が不可欠である。ボランティアコーディネーターはどのようにコーディネーションを行っていくのかまたボランティアコーディネーターを擁するボランティアセンターの機能はどのようなものであるかについて学びを進めていく。

到達目標

本講義の到達目標はまずボランティアの存在意義を知るようになることである。社会のニーズが多様化していく中でまちづくりはこうした社会的課題を1つ1つ解決していくことから始まるが、今や行政だけではもう十分なまちづくりはできにくく、住民の主体的な関わり即ちボランティア的な働きが不可欠である。そのことに思いが至ることがまず第1歩である。次にこのボランティア活動を効果的に進めるためにボランティアコーディネーターの存在が必要であることに気づいて、そのボランティアコーディネーターの支えになったり、自らボランティアコーディネーターとして働くような動機づけがなされれば、本講義の最終到達目標が達成されることになる。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

教員生活に入る前、財団法人神戸 YMCA, 財団法人岡山 YMCA にて 33 年間の実務経験が有り、これらの知見を踏まえ、ボランティア活動全般に関する内容を体系的に学修できるよう添削課題を作成しました。

学修の進め方

3問の添削課題に沿って、学びを進めて下さい。各問のポイントについて説明します。

1. 第1問について

ご自身の基本的な考え方を問う問題です。従って必ずしも正解があるとは限りません。いろんな考え方があっても確認できればと思います。学びのスタートです。

2. 第2問について
指定テキスト「学生のためのボランティア論」の始めから順番に問題を設定しています。従ってテキストをよく読んで、正解を探して下さい。
3. 第3問について
総合的に考えて、答を文章にまとめて下さい。
4. フィードバック
フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキスト解説と学習のポイント〕

第1章 ボランティア=自ら選択するもう一つの生き方

自ら課題を選択するもう一つの生き方、それがボランティアの特徴です。それは「おもしろそうだ」とか「おかしいぞ」といった気づきから始まります。最近は活動の多様化が進んでいます。ボランティアリズムは、このような多様なボランティア活動を支える理念であり理想なのです。あなたと一緒に、この不思議な魅力をもつボランティア活動の「窓」を開けてみませんか。

第2章 その時そこにボランティアがいた

歴史の中に出現するボランティアとはどんな人たちなのでしょう。またどんな役割を果たしていたのでしょうか。そして私たちに何を教えてくれるのでしょうか。

第3章 ヒトはなぜボランティアをするのか

「他人の役に立ちたい」気持ちと、「自分が得たい」気持ち。どちらもあるのが人間ではないでしょうか。タダで働くヒトの心を分析すると、いろいろなことが見えてきます。

第4章 「公共」は、誰が担うのか

暮らしやすい世の中は、お役所が作るものと思いませんか。それは、一見気楽に見えて、実は自由や創造性に欠ける社会かもしれません。本当に暮らしやすいのではない社会かもしれません。公共は、誰が創っていくのでしょうか。

第5章 ボランティア活動が生み出す新しい価値

ひとりひとりの、小さいけれど自発的な意思がネットワークされ、それがさざ波となり、やがて大きなムーブメントになり、1つの価値を生み出す、という現象が情報ネットワークの世界で生まれています。価値は、権威をもつ人、ヒエラルキーのトップにいる人だけが生み出すものではなくったのです。マイクロソフト帝国に勝る価値を生み出したのは誰でしょうか。

第6章 地域の課題を発見してみる

まちを歩いてみましょう。気になること、困ったことはありませんか。わたしたちのまちのくらしにはいくつもの課題があることが分かります。そうした課題の解決を図るのはそこに住むわたしたち自身です。

第7章 市民の視点から解決を探る

いろいろな事例を紹介します。子どもの学びと成長の場は「学校」だけですか。大学生の力を地域に還元してみましょう。高齢期の「食」の問題から地域の人たちの協働空間づくりを考えました。理想の老人ホームがないなら自分たちで作ってみました。

第8章 ボランティアは「教育」にどうかかわるか

ボランティア活動が教育の現場でも見られるようになりました。教育の手段としてボランティア活動が活用されるようになりました。また、地域のボランティアが学校の中で活動するケースが増えてきました。さらに生涯学習の一環としてのボランティア活動が認知されるようになりました。

第9章 新たな自治の創造

最近「まちづくり」という言葉がよく使われるようになりました。私たちのまちは私たち自身の

手で創るという考え方が広がっているからです。ボランティア活動は「まちづくり」そのものです。

第10章 足元から地球へ

環境破壊や貧困，紛争が有限の地球を危険な状態に貶めています。地球を守るためにまずは自分自身を変えそして地域を変えそして自分の国を変えることで世界が変わることになります。ひとりが変われば，世界が変わるという信念を持って行動する市民パワーが求められています。

第11章 ボランティアマネジメント

ボランティアがしっかりとした成果を出すためにはボランティアコーディネーターの存在が不可欠です。ボランティアは自発性に基づいて活動するためとかく摩擦を起こしがちです。ボランティアマネジメントに長けたコーディネーターの差配が必要な理由がここに 있습니다。

第12章 インタミディアリとしてのボランティアセンター

最近 NPO 運動を推進するために中間支援組織の存在がクローズアップされています。ここで言うインタミディアリです。行政や企業その他 NPO 同士のネットワークの核となる存在です。まさしくコーディネーション機能がその中核にあります。ボランティア活動を円滑に進めるためにボランティアセンターがその役割を担います。

子育て支援論

専門教育科目／2単位／1年後期開講／テキスト授業

■ 担当教員	栗田 喜勝
■ 使用テキスト	テキスト：子育て・子育て支援学（2014年増刷版） 著者：寺見陽子 編著 出版社：保育出版社 出版年：2014年増刷（初版2011年） 販売所：教育情報出版直販のみ（TEL06-6658-8741） ISBN：978-4-938795-93-1
■ 参考テキスト	テキスト：実践子ども家庭福祉論 著者：栗田喜勝 他編著 出版社：中央法規出版（書店販売・注文可）

講義概要・一般目標

今日の子どもを取り巻く生活環境の大きな変容の中で、家庭や地域における子育て力の低下により生じている様々な子育て問題について学ぶとともに、各種の制度・政策による子育て支援プランについて概説し、子育て支援の役割を担う援助者に求められる専門性について考察する。本講を受講することにより、家庭や地域社会における子どもの育ちの保障、次世代育成支援や子ども家庭福祉の現状や課題について学ぶとともに、各種児童福祉施設や機関における子育て支援の実践や専門職の役割についても学ぶことができる。

到達目標

家庭や地域社会における子どもの育ちの保障をテーマとして、次世代育成支援や子ども家庭福祉の現状や課題について学ぶことにより、各種児童福祉施設や機関における子育て支援を担う保育者の専門性について理解することができる。

評価方法

開講期の途中（中間期）に添削課題による中間評価を行い、一定の学修成果の認められる者（添削課題の正答率が50%以上）に対して期末の科目単位認定試験を行い評価する。

オフィスアワー（学生の問い合わせ・相談に応じる時間）

Web学修支援システムを使用して実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

障がい児施設・児童養護施設の主任児童指導員・副園長として児童の発達支援と保護者に対する子育て支援を実践した。

学修の進め方

〔添削課題出題の意図及び課題の進め方（学び方）について〕

本科目の添削課題については、専門知識修得状況確認のための①正誤解答式課題、②用語補充式課題、ならびに思考力・考察力確認のための③論述式課題の三部からなっており、多面的に学修内容の理解度を確認できるように構成されています。したがって、課題に取り組むためには、使用テキストの各章を熟読して、学びのキーワードとその意味について理解するとともに、章のテーマ・主題について考察を深めることが求められます。

〔フィードバック〕

フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを記載し返却します。

学修指導

〔テキスト解説と学修のポイント〕

第1章 子育て・子育ての原風景

この章では、子どもが育つ、子どもを育てるということについて、産育習俗やさまざまな国や民族の子育ての基底に流れる子育て観、子ども観、家族観を比較概観し、その原点を考える。

具体的な学修内容としては、①日本における子育ての習俗と歴史、②日本の子育て・子育てにみられる親子関係と家族観、③さまざまな民族の子育て・子育て、④習俗・歴史にみる子育て・子育ての基本について学ぶ。

第2章 現代社会の子育て・子育て

ここでは現代社会における近代化、都市化の進行は、社会・経済の構造、人々の生活意識や価値観を変化させてきた。この章ではそうした変化が子どもの育ちや保護者の子育てにどのような影響をもたらしたかについて考察する。

学修内容としては、①心理的危機を生み出した生活環境・人間関係の変化、②グローバル化がもたらした社会構造の変化、③家庭・地域の教育力の低下とその背景、④子育ての変容と子育て不安、⑤少子化対策と子育て支援施策等について学ぶ。

第3章 子育て支援の基本

この章では、保護者の子育て支援の基本は、健全に育つ子ども権利を前提として、保護者の生活支援、子育てと仕事の両立支援、適切な親子関係の形成、家族や地域の教育力の向上、子育て環境やネットワークづくりの必要性について学ぶ。

学修内容については、①子どもの人権と福祉、②少子化と女性をめぐる社会システムの改革、③男女共同参画とワーク・ライフ・バランス、④子育てと仕事の両立と子育て不安の解消、⑤養育力の向上と家庭・地域の教育力の再生について学ぶ。

第4章 保護者支援の視点と展開

保護者支援の視点として、保護者の生活状況や意識、子育てニーズを把握し、気持ちを受容したかわりとともに、そのストレスを軽減する支援、養育性を高める支援、就労と子育てを両立させる支援、子育て生活への経済的支援、不適切な養育への支援などについて考察する。

具体的には、①保護者支援の意義、②保護者の育児不安とストレス軽減への支援、③保護者のアイデンティティと養育性の獲得支援について、④保護者の就労と子育ての両立支援、⑤保護者の生活支援、⑥不適切な養育への対応と地域連携について学ぶ。

第5章 乳幼児期・学童期の子どもを支援する視点と展開

子どもの育ちは、子どもが環境と自発的にかかわり、関係づくりをしていく過程で促される。子どもの生活環境づくり、仲間とのかかわり、保護者や他の大人による子どもの気持ちや育ちを見通したかわりや援助の必要性について学ぶ。

学修内容としては、①子どもの発達と育ちをみる臨床心理学的視点と援助の意義、②乳幼児期の子どもの発達と親子関係、③学童期の子どもの発達と親子関係、④乳幼児期・学童期の子どもの養育・教育と大人の役割、⑤子どもの人権とその擁護について学ぶ。

第6章 課題を抱えた子どもとその保護者の支援

子どもは、必ずしも順調とはいえない育ちを見せる場合もある。そのようなとき、保護者の悩みは大きくなる。育ちに課題や障がいを抱えた子どもへの対応と、その保護者の心理を理解した適切な支援のあり方を学ぶ。

学修内容については、①子どもの発達しょうがいの理解、②発達の課題や障がいのある子どもの保護者の心理と理解、③療育と特別支援、④専門機関との連携、⑤多様なインフォーマルサポートとその視点等について学ぶ。

第7章 家族へ支援

家族は、情緒的絆で結ばれた第一次集団であり、生活における情緒的安定と経済的基盤をつくり、子どもという次世代の育成を行う場である。子どもが育つ場として、また、保護者が親として生きる場として、そのあり方について考察する。

学修内容については、①家族の定義、②現代の家族の変容と課題、③家庭支援と家族援助の基本、④父親参加とファミリーサポート、⑤ひとり親家庭の支援等について学ぶ。

第8章 次世代育成支援の視点と展開

子育て支援は、子育て中の保護者とその子どもへの支援とともに、将来、母親や父親になる若者（中高生や大学生）への支援も重要な課題である。子育てを終えた人や祖父母世代など多世代の人々が地域でサポートする体制づくりの重要性について学ぶ。

具体的には、①若者支援に求められるもの、②多様な世代の子育て支援、③行政・企業・関係機関との連携について学ぶ。

第9章 子育て支援の実践に生かす諸理論と視点

子育て支援は、専門的な方法によらないインフォーマルなサポートが功を奏することも少なくない。しかし、支援の意義や効果を確かめたり、支援方法の妥当性を検討するためには、ある程度見通しを持ったあり方を考えておく必要がある。カウンセリングやソーシャルワークなどの子育て支援に関連する領域の知見を学び、子育て支援に生かす方法を考える。

内容としては、①ソーシャルサポートとしての子育て支援、②子育て支援に生かすカウンセリング基礎技術と心理療法、③子どもの発達とアセスメント、④対人援助技術とコミュニケーションスキル、⑤ソーシャルワークとケアマネジメント等について学ぶ。

第10章 支援システムの構築とネットワークづくり

子育て支援は、専門機関では計画的な支援が実施されるが、一般的には、緩やかな計画か、ノン・プログラムで、出会いや交流を目指した支援が多い。この章では、支援計画を構築する方法について、事例を通して具体的に学ぶ。

学修内容としては、①育児・保育におけるニーズの把握、②支援計画とプログラムの作成、③インターベンションとエヴァリュエーション、④地域資源の活用と専門機関との連携について学ぶ。

第11章 子育て支援の実際

これまでの子育て支援の基本と実際について、さまざまな機関や施設などで行われている子育ての実際を具体的に理解する。

具体的には、児童館、保健センター、保育所、幼稚園、放課後子ども教室(学童保育)、療育センター、子育て支援センター、大学等における子育て支援について学ぶ。

第12章 子育て支援における専門性

子育て支援は、「支援するーされる」関係ではなく、ともに育ち合う関係づくりが重要である。また、人の心にかかわる対人援助活動であり、支援にかかわる人の、人間を尊重し、真摯に向き合う姿勢や豊かな人間性が求められることを学ぶ。

学修内容としては、①豊かな人間性と支援者の資質、②自己洞察と自己決定、③受容と共感、④プライバシーの保護と守秘義務、⑤実践と理論の統合等について学ぶ。

子ども家庭福祉/児童家庭福祉

専門教育科目/2単位/1年後期開講/テキスト授業

■ 担当教員	栗田 喜勝
■ 使用テキスト	テキスト：子ども家庭福祉論 シリーズ・福祉を知る3 2版 著者：山縣 文治 出版社：ミネルヴァ書房 出版年：2018年3月
■ 参考テキスト	テキスト：社会福祉小六法 2017[平成29年版] 著者：ミネルヴァ書房編集部 出版社：ミネルヴァ書房

講義概要・一般目標

講義概要としては、子育て家庭に対する支援の意義や支援体制、支援のあり方、現状などを理解する。保育士の専門性を活かした支援のあり方や、保護者との連携・協力の必要性、子育てやその支援を通して保護者や地域がエンパワーメントすることの大切さを知る。保育士に求められる基本的態度や保育士の倫理、援助スキルを理解する。また、地域の社会資源を知り、その連携や協働の必要性を理解する。また、1990年代以降、社会環境は激しく変化し、少子高齢社会も進行している。子ども及びその家族の生活は大きな影響を受け、子どもにふさわしい生活が見えにくくなっている。貧困、虐待、障害、非行、子育て不安など、現実には起こっている子どもや家族の生活問題（福祉問題）の現状及びその対応策を学ぶとともに、子どもにふさわしい生活（ウエルビーイング）とはどのような生活か、それを実現するために、私たちは、子どもにかかわる専門職として何ができるかということを考えてい。

到達目標

この講義は以下のことを到達目標とする。

- 1 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。
- 2 子ども人権擁護について理解する。
- 3 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。
- 4 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。
- 5 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。

評価方法

科目単位認定試験により評価する。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施する。

担当する授業科目に関連した実務経験

障がい児施設・児童養護施設の児童指導員として児童の発達支援および保護者に対する子育て支援を実践した。このような経験を踏まえ、保育者の専門性を活かした子育て家庭に対する支援の実践について実践例を交えた授業を行い、履修学生の理解を深めさせる。

学修の進め方

- 1 まず、テキスト『子ども家庭福祉論』を『学修の手引き』及び『社会福祉小六法』と照らし合わせながら、関心を持った箇所、気になった箇所に目印をつけたり、要点をノートに書き取ったり等、理解しながら読む。
- 2 テキストの理解できなかった箇所を再度読み、自分で調べてみる。該当する法律と参照したり、テ

キストの章末に記載されている参考文献等を読んで調べる。インターネットを利用すると手軽に調べやすいが、インターネットの情報には、注意をすることが必要である。

- 3 調べた結果を整理して、納得できなければメモをしておき、科目担当教員に質問をする。
- 4 添削課題は、自分の学びと理解度の程度を確かめるためのステップである。これだけの内容を知っておれば、科目認定試験に合格するという類のものではなく、通信教育での自分の学びの程度を知る一つの手がかりだと考えればよい。学ぶ内容の範囲は広く、深いので、添削課題に内容の全てを網羅することは出来ない。添削課題がそれまでの自分の学びでは理解できなければ、テキスト、参考文献等で調べて学び、解答するとよい。
- 5 添削課題によって、自分の理解の程度が確認できたら、テキスト、添削課題解答解説を手がかりにして、さらに学びを発展させる。添削課題に関連する内容だけではなく、自分が重要だと考える内容についても学習する。
- 6 単位認定試験を受験し、自分の学びの程度を確認する。
- 7 フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを記載し返却します。

学修指導

テキストの学修のポイントを以下に示す。

第Ⅰ部 子ども家庭福祉とは何かを知る

第1章 少子高齢社会と子ども家庭福祉問題

学修のポイント

- 少子高齢社会の中で子どものおかれている現状を理解する。
- 子どもの育つ環境や家庭の生活問題について認識する。
- なぜ子どもの生活問題が起こるのかを考える。

第2章 子ども家庭福祉の基本的考え方

学修のポイント

- 児童福祉と子ども家庭福祉の違いを理解する。
- 基本的枠組みを構成する4つの基本要素を理解する。
- 社会情勢によって変化する子ども家庭福祉の基本理念とウェルビーイングについて理解する

第3章 子どもという存在と子ども家庭福祉

学修のポイント

- 「子ども」と「保護者」、その関係について理解する。
- 児童観の変遷について理解する。
- 「人権」と「権利」について理解する。
- 児童の権利について理解する。

第4章 子ども家庭福祉の展開

学修のポイント

- 子ども家庭福祉は社会福祉の一分野である。社会福祉の始まりの様子（原初状態）、及び、4つの福祉の形態を理解する。
- わが国の子ども家庭福祉の発展過程を社会状況と関連させて理解する。
- 産業革命期のイギリスの救貧法、新救貧法、バーナードホームの処遇と子ども観、入所生活とホスピタリズム等を理解する。

第5章 子ども家庭福祉の制度

学修のポイント

- 子どもの福祉にかかわる主な法律の概要を学ぶ。
- 子ども福祉を实践する機関や施設の機能と役割について理解する。
- 子ども福祉を实践するための財政を学ぶ。

第Ⅱ部 子ども家庭福祉の実際

第6章 子ども家庭福祉の援助

学修のポイント

- 相談を受ける者（援助者）としての基本的な心がまえを学ぶ。
- 保育士の倫理綱領とその子ども観を学ぶ。

○社会福祉援助は、基本的な援助プロセスに従って行なうので、そのプロセスを理解する。

○子ども家庭福祉は多くの職種によって支えられていることを理解する。

第7章 母子保健・子どもの健全育成と子ども家庭福祉

学修のポイント

○母子保健とは、妊娠期から幼児期の子どもと母の心身の健康を支援する施策であることを理解する。

○子どもや家庭を取り巻く環境の変化に伴い、施策の目的や内容、対象が大きく変わっている。その変化の過程を学ぶ。

○「健やか親子21（第2次）」を理解する。

○子どもの健全育成とは、一般の子どもたちに対する施策である。主な健全育成施策を整理する。

第8章 地域子育て支援と子ども家庭福祉

学修のポイント

○子ども及び家族の福祉は、社会状況との関連によって変化するという視点をもって学ぶ。

○地域子育て支援の取り組みと経過、その内容について理解する。

第9章 就学前の拠点型保育・教育と子ども家庭福祉

学修のポイント

○就学前の子ども及び家族の福祉は、社会状況との関連によって変化するという視点をもって学ぶ。

○保育所、幼稚園、幼保連携型認定こども園を中心にその変化や現状を理解する。

○サービスメニュー（社会制度）は大人社会の要請にそって多様になっているが、それが子どもの福祉にとって適切なのかどうかを常に意識しておく。

第Ⅲ部 さまざまな状況にある子どもを支える子ども家庭福祉

第10章 社会的養護と子ども家庭福祉

学修のポイント

○社会的養護問題とは何かを理解する。

○社会的養護問題は子どもの生存権にかかわることを認識する。

○社会的養護のあり方を考える。

第11章 虐待を受けている子どもと子ども家庭福祉

学修のポイント

○子ども虐待（保護者及び施設職員等による虐待）の実態を把握する。

○子ども虐待への対応を学ぶ。

第12章 情緒障児・少年非行と子ども家庭福祉

学修のポイント

○情緒障害、発達障害、知的障害の定義と対処方法の違いを理解する。

○非行少年の対応に対する児童福祉法、少年法の取り扱い及びその関係について理解する。

第13章 子どもの貧困・ひとり親家庭と子ども家庭福祉

学修のポイント

○子どもの貧困の現状を知り、支援策について学ぶ。

○ひとり親家庭の現状を知り、支援策について学ぶ。

第14章 障害のある子どもと子ども家庭福祉

学修のポイント

○障がいのとらえ方（国際生活機能分類）について理解する。

○障がいのある子どもとその家族の現状と福祉施策、その内容を理解する。

終章 子ども家庭福祉サービスの動向と展望

学修のポイント

○社会状況の変化とともに変容する社会福祉、子ども家庭福祉施策を、その時代の国民生活を支える制度として理解する。

○基礎構造改革の意義を、第4章を振り返りながら理解する。

○子ども家庭福祉の課題について整理しておく。

心理学概論Ⅰ／心理学Ⅰ

専門教育科目／2単位／1年前期開講／テキスト授業

■ 担当教員	土居 正人
■ 使用テキスト	テキスト：心理学・入門 心理学はこんなに面白い 著者：サトウタツヤ・渡邊芳之 著 出版社：有斐閣アルマ 出版年：2019 ISBN：978-4-641-22138-3
■ 参考テキスト	テキスト：心理学 著者：無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治 著 出版社：有斐閣 出版年：2004年 ISBN：4-641-05369-3

講義概要・一般目標

心理学Ⅰおよび心理学Ⅱをとおして、心理学全般について解説する予定です。したがって、心理学Ⅰでは、特に心理学でも最も基礎的なこと、つまり、心理学とはどのような学問か、心理学の課題、心理学の研究法、心理学の生物学的基礎、行動の動機付け、感覚・知覚 学習、記憶、知能、人格等について解説します。

心理学というと、「読心術」のようなものを学ぶ学問だと考えている人もいますが、この科目にそのようなことを期待するとがっかりします。心理学は、「人間の行動について科学的に研究する学問」です。なお心理学で言う「行動」とは、歩くとか、話をするなどの外から観察可能な表に現れる行動だけをさすのではなく、思考、感情それに生理的反応（精神的な理由による発汗、心拍の変化など）を含めたものを意味します。

それから心理学の定義にある「科学的に研究する」ということについてですが、「科学的に研究する」というと、一般的には、自然科学などにみる厳密な実証的研究方法を指すことが多いと思いますが、心理学では、研究対象が、どうしても客観的な形で捉えにくいけど、人間の行動を理解するうえで非常に重要な「行動の質的な側面」を研究しなければならないことも、しばしばあります（たとえば感情の動きなどのような）。したがって、心理学の研究では自然科学的な厳密な研究手法だけでは対応できないところもあります。

そのようなことから心理学特有の研究手法もとられますが、心理学で用いられる主な研究手法を具体的に述べると、自然観察、実験、アンケート、面接法、心理検査法などです。これらの研究手法の他に、臨床心理学などでは、症例研究（一人の事例について詳細に検討するもの）という方法がとられます。

これから心理学を学ぶにあたって、まずは、上に述べたことをしっかり把握してください。心理学は人の行動を研究対象とするだけに研究テーマは無限にありますし、また身近な私たちの行動を研究対象とする学問だけに非常に興味を持てる学問です。

それでは、じっくり心理学について勉強し、心理学とはどのような学問なのかを具体的に理解してください。

到達目標

心理学は、人間行動の理解を目指し、人間の行動を科学的に研究する学問です。そのために心理学では、どのような側面から、どのような研究方法をもってアプローチしているのか、そして現在どのような研究領域が展開しているのか、その概略を体系的に理解することを目指します。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

これまでに私は心理臨床現場における臨床経験（児童精神科、小中高校のスクールカウンセリング、大学学生相談、適応指導教室、児童相談所の夜間・休日相談）を積ませていただいたことから、臨床心理学全般の実務経験を有していると考えています。また、心理学部心理学科（通学生）の授業科目では、「心理検査実習」、「臨床の倫理」、「心理学理論と心理的支援」、大学院では「臨床心理学研究法特論」、「投影法特論」など、臨床的な講義を担当してきました。それ以外にも、「学習心理学」や「人格心理学」、「心理学実験実習」、「心理統計」、「社会と統計」、大学院では「心理統計法特論」などの基礎的な分野も担当してきました。

これらの知見を踏まえて、心理学全般に関する内容を体系的に学修できるよう課題を作成しました。

学修の進め方

・添削課題出題の意図、及び課題の進め方

心理学は日常にも応用できる学問です。自分の日々の生活を思い浮かべながら、学修を進めていくことをお勧めします。なお、解答解説には日常で、どのように使われているかについても解説しています。皆さんも、「この法則は日常ではどのようにして使えるだろうか」と考えながら読み進めていってほしいと思います。

課題について、教科書を読みながら必要な個所を埋めていきましょう。ただ埋めるだけでなく、理解しながら課題に取り組んでもらいたいと思います。

・添削課題をまとめるにあたっての留意点

心理学の中でも重要な所を重点に問題を作成しました。必要な個所は覚える必要がありますが、それ以外のところにもとても役に立つ知識でありますので、ぜひ覚えていってほしいと思います。認定試験の際には、課題と同じ個所が出てくるとは限りません（違う所も出します）。教科書内を幅広く覚えていくよう心がけましょう。

・効果的な学修の流れ

添削課題の部分しか、知らないということにならないように、まずは教科書を全て読んでから、問題を解くことが大切です。そうすることによって、どこにどのようなことが書いてあるかを理解して進めていくことで、全体像が理解しやすくなります。

・フィードバックについて

フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキスト解説と学修のポイント〕

はじめに

心理学Ⅰでは、テキストの第1章から第4章までの内容について学修することにします。

この授業で使用するテキストは、その章立ての順序が、一般的な心理学のテキストの章立てと多少異なっております。つまり、一般的には、基礎心理学（たとえば知覚心理学など）の解説が、最初の章で取り上げられるのが通常ですが、本テキストでは、第1章で臨床心理学の解説から始まっています。その理由は、テキストの「はじめに」のところに述べてあります。つまり従来の心理学のテキストの章立てでは、心理学に対する学修者の興味を失うような内容から始まる章立てになっているので、学修者が興味を持つような内容から順に章立てをしたと記してあります。したがって、著者の意図を尊重して、この授業では本書のテキストの章立てにしたがって学修を進めていくことにします。

序章 心理学のテーマは無限（心理学とは何か？）

序章のポイント

「心理学とは人の行動について、科学的に研究する学問である」ということを講義概要のところで述べましたが、この序章では具体的に、心理学が研究の対象とするいろいろな行動の例を挙げてあります。実にさまざまな行動が心理学の研究テーマとなり得ることをこれらの例から見て分かります。要するに人間の行っていること、考えていること、感じていることなど人間のとる行動なら何でも研究対象になり得るということです。この序章であげてあるこれらさまざまな行動の例について目を通しながら、講義概要のところで述べた心理学で用いられる研究法も参照にしながら、これらの行動について、どの研究方法を用いることができそうか、そうしたことも考えながらこの章を読んでみてください。

第1章 悩みを抱える人を助ける（臨床心理学）

第1章のポイント

臨床心理学とは、「不健全な行動に関わる諸問題について研究する心理学の学問・実践分野」です。臨床心理学の分野が、どのような歴史的背景をもって展開してきたのか、また、臨床心理学は、どのような問題に、どのように取り組んでいるのか、また臨床心理学の活動分野として、どのような分野があるのか、また不健全な行動の査定に用いる心理検査法にどのようなものがあるのか、さらに不健全な行動への支援、治療などの介入法にどのようなものがあるのかなどのが具体的に紹介されています。そして、これら心理検査法の開発や介入法を提唱した人についても解説してあります。

ただ、臨床心理で用いる心理査定法として、この章では主に心理検査法がとりあげられています。心理的査定法としては、心理検査法のほかに面接法、行動観察法などがあります。これら面接法と行動観察法については、この章ではあまり触れていませんので、これらの内容については他の参考書などで調べてみてください。

この章のポイントにある解説内容とテキストの内容から臨床心理学とは、どのようなことについて研究・実践を行う分野なのかを具体的に理解しましょう。

特にこの章にある精神分析、行動療法、認知行動療法それに人間性心理学は、臨床心理学の基盤となる理論と治療技法となるものです。よく理解しましょう。また集団を治療対象とする家族療法、集団療法についても理解してください。

第2章 性格は変えられるか（性格と個人差の心理学）

この章のポイント

人は、おかれている環境や状況の違いにもかかわらず、比較的、一貫してその人らしい行動傾向がみられます。そこで、なぜ環境や状況のいかにかわらず、比較的に一貫した行動を人はとるのかという問題に取り組むことは、人の行動を研究する心理学においては重要な研究テーマの一つだと言えます。これらの問題に取り組む心理学の分野を「性格心理学」といいますが、性格心理学では、人が比較的に一貫した行動をとるのは、人には「性格」というものが備わっており、それが各人のそれぞれの行動の一貫性と各個人間に見る個人差のある行動をもたらしているのだという捉え方をし、そしてこの性格というものが、どのようなものを追求し、解明しようとしているのが性格心理学の分野の主要な研究テーマと言えます。

この章では、性格心理学について、その歴史的背景や、性格というものを、どのように考え、どのようにとらえようとしているのか、また性格を形成する要因をどのように考えるのか、それからどのような出来事が、性格の変容をきたすのかといった問題などが解説されています。

第3章 身近な人や社会との関係（社会的行動の心理学）

この章のポイント

人が2人以上いる状況の中でとる行動を「社会的行動」といいます。私たちは、ほとんど毎日、誰か人のいる状況で生活しています。その意味では、私たちのとる行動のほとんどは社会的行動といえましょう。そのような意味では、人間の行動について研究する心理学にあっては、この社会的行動についての研究もきわめて重要な研究分野の1つと言ってもよいでしょう。この社会的行動を主に研究テーマとしている心理学の研究分野を「社会心理学」といいます。社会心理学の分野で主に行われている主要な研究テーマは、人と人がいかに結びつき、どのように影響しあい、そこにどのような社会的行動がみられるのかといった問題についてです。具体的には、他者に対する印象形成の問題や対人関係にかかわる諸問題や集団行動について、それからコミュニケーション行動について、それにコミュニケーションの歪んだ形態と言える流言飛語の問題などがとり上げられています。

す。

社会心理学は、日常の私たちの身近な行動を取り上げる学問分野だけに、現実的な問題が論じられる面白い心理学の分野です。

第4章 人が生まれてから死ぬまで（発達心理学）

この章のポイント

この章では発達と行動の問題を取り上げています。周知のごとく、人は、出生後、時間の経緯によって、さまざまな行動の変化をしめします。そして、この時間の経緯によって見られる行動の変化は、主として生物学的な成熟によるところとさまざまな経験とによって生じるものですが、これを発達といいます。この発達という現象との関連で人の行動を研究する心理学の分野が「発達心理学」です。

この章では、「発達心理学」について、学修していきますが、「発達心理学」の歴史は、児童期の諸心理的な問題に関する研究に始まりますが、今日では、発達心理学の研究分野は広がりを見せ、発達心理学の捉え方も変化し、今日では「生涯発達心理学」という名称に変わってきています。発達心理学の主要なテーマの1つは、人間の発達というのは、生まれつきによるものなのか、それとも育ち、つまり環境的な要因によるのかということが、児童を対象とするころの心理学のおもなテーマでした。素質論的（遺伝重視）な立場には、ゴールトンらがいます。ゴールトンは、ダーウィンのいともでもあり、彼自身精神的な能力の測定法を考えたり、さまざまな貢献をした人です。そして、発達の研究とかがわって生得説に近い立場を取った人に有名なゲゼルがいます。彼は成熟説といわれる考え方を実験的に実証し、成熟を待たないと訓練だけでは発達上の習得は難しいことをしめしました。

一方環境説の立場を取る考え方は、行動主義心理学といわれるものです。これの筆頭にたつ人はワトソンです。テキストに出てくるゴールトンにしろ、ワトソンにしろ心理学の歴史上有名な人たちですので名前とともに、どのような貢献をした人たちか覚えておきましょう。

環境も遺伝も大事だとするのがシュテルンで、これを輻輳説といいます。そのほかジェンセンの環境閾値説があります。今日では発達には、遺伝的要因と環境の相互作用説の考え方が主流となっています。さらに、発達について、優れた研究をし、優れた事実を発見したり、発達理論を提唱した人たちに、ピアジェ（認知発達理論）、ヴィゴツキー（社会文化的アプローチ）、エリクソン（心理社会的発達理論）などがいます。この人たちの提唱した理論や研究は興味あるものです。

以上、発達心理学に関する考え方、発達心理学へ大きく貢献した人たちなど、概略をみてきましたが、それに続いて、テキストでは実際に乳児期より、老年期における各発達段階でどのような能力を、またどのような行動特徴をみるのか、といったことが具体的に述べられています。それらの内容についてもよく学修してください。

ピアジェは特に発達心理学への非常な貢献をした1人で、子どものものの見方、考え方、捉え方など認知発達のあり方を明らかにした研究で非常に有名です。その内容は興味あるものであり、子どもの考え方を理解するうえで大事なものです。

心理学概論Ⅱ／心理学Ⅱ

専門教育科目／2単位／1年後期開講／テキスト授業

■ 担当教員	土居 正人
■ 使用テキスト	テキスト：心理学・入門 心理学はこんなに面白い 著者：サトウタツヤ・渡邊芳之 著 出版社：有斐閣アルマ 出版年：2019 ISBN：978-4-641-22138-3
■ 参考テキスト	テキスト：心理学 著者：無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治 出版社：有斐閣 出版年：2004年 ISBN：4-641-05369-3

講義概要・一般目標

心理学Ⅰでは、心理学の定義、臨床心理学、性格心理学、社会的行動、それに発達心理学について学修してきたが、心理学Ⅱでは、テキストの第5章で取り上げられている心理学的アセスメント（査定）について、続いて第6章では、私たちは、環境をどのように捉えるのかといった問題について、第7章で行動と学習の問題について、第8章では心理学の歴史について、そして最後の第9章で心理学は、どのような展開を今後見せようとしているのか、その未来について学修していくことになる。

到達目標

心理学Ⅰに続き、心理学Ⅱでも、心理学の主要な研究分野にどのようなものがあるのか、その基本的な事についての理解を目指す。具体的内容としては、心理的機能の測定法、環境知覚と行動との関係、行動形成における学習の原理、それに心理学の今後の動向について理解する。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

これまでに私は心理臨床現場における臨床経験（児童精神科、小中高校のスクールカウンセリング、大学学生相談、適応指導教室、児童相談所の夜間・休日相談）を積み重ねていただいたことから、臨床心理学全般の実務経験を有していると考えています。また、心理学部心理学科（通学生）の授業科目では、「心理検査実習」、「臨床の倫理」、「心理学理論と心理的支援」、大学院では「臨床心理学研究法特論」、「投影法特論」など、臨床的な講義を担当してきました。それ以外にも、「学習心理学」や「人格心理学」、「心理学実験実習」、「心理統計」、「社会と統計」、大学院では「心理統計法特論」などの基礎的な分野も担当してきました。

これらの知見を踏まえて、心理学全般に関する内容を体系的に学修できるよう課題を作成しました。

学修の進め方

・添削課題出題の意図、及び課題の進め方

心理学は日常にも応用できる学問です。自分の日々の生活を思い浮かべながら、学修を進めていくことをお勧めします。なお、解答解説には日常で、どのように使われているかについても解説しています。

皆さんも、「この法則は日常ではどのようにして使えるだろうか」と考えながら読み進めていってほしいと思います。

課題について、教科書を読みながら必要な個所を埋めていきましょう。ただ埋めるだけでなく、理解しながら課題に取り組んでもらいたいと思います。

・添削課題をまとめるにあたっての留意点

心理学の中でも重要な所を重点に問題を作成しました。必要な個所は覚える必要がありますが、それ以外のところにもとても役に立つ知識でありますので、ぜひ覚えていってほしいと思います。認定試験の際には、課題と同じ個所が出てくるとは限りません（違う所も出します）。教科書内を幅広く覚えていくよう心がけましょう。

・効果的な学修の流れ

添削課題の部分しか、知らないということにならないように、まずは教科書を全て読んでから、問題を解くことが大切です。そうすることによって、どこにどのようなことが書いてあるかを理解して進めていくことで、全体像が理解しやすくなります。

・フィードバックについて

フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学 修 指 導

〔テキスト解説と学修のポイント〕

第5章 心を測る（心理学的アセスメント）

この章のポイント

心理学Ⅰの講義概要でも述べたように、心理学では、思考の働きや、感情の動き、あるいは知的能力などをといた具体的な実態として捉えにくいものを研究対象とします。

そうした実態として、つかみにくい「心の働き」を出来るだけ科学的に、かつ具体的な形でとらえる方法、つまり「心の測定法」の開発も心理学の大事な研究テーマです。

そうした測定法には、今日、知能検査、性格検査、その他いろいろなものが開発されてきています。これらの測定法については、先にテキストの第1章の臨床心理学のところでも簡単に触れられていますが、この章で、特にそうした心理学的な測定法（心理検査法）について解説してあります。こころの測定法（心理検査）として、特に代表的なものに知能検査や性格検査がありますが、他にどのような測定法があるか、これらが展開してきた歴史的背景やそれぞれの測定法における考え方、それに心理学的アセスメントをめぐる問題点などについても触れてあります。

心理テストを絶対視したり、あるいは逆に軽視したりするようなこともよく見られますが、心理検査法を巡ってのさまざまな問題についての的確に理解しましょう。また臨床心理学の発展と心理検査の展開との関連性も深いものがあります。そのことについても考えてみましょう。

第6章 世界をどうとらえるか（知覚、記憶、認知）

この章のポイント

私たちの行動は、おかれている環境に大きく影響されます。勿論、それは客観的な環境の影響を受けるところもありますが、私たちの行動に強く影響する環境とは、自分が置かれている環境を、それぞれ自分なりに捉えた主観的な環境の影響を強く受けます。

たとえば私たちが外界を客観的に捉えてない身近な一つの例として錯視がありますが、それをうまく応用して人の行動をコントロールしようとする試みとしては、交通標識などがあります。一般にどのように環境を受け取るのか、その受け取り方について研究する事は私たちの行動を理解するうえでとても大事な問題です。環境をどう捉えるのかという心理学のテーマは、感覚、知覚、記憶、認知などの研究分野で主に検討されています。

私たちが、置かれている環境を捉えるには、まずは外界刺激を感覚器官で捉え、それらが何であるかを過去の記憶などともすり合わせながら捉える知覚、またそれは同時に、自分なり解釈や意味づけなどをする認知など一連のものによっています。

この章では、これらの問題が解説されています。つまり環境を捉えることにかかわる重要な要因となる感覚、知覚、記憶、認知などが、それぞれ、どのようなものなのか、またこれらは、どのよ

うに関係しあっているのかといったことが解説されています。

第7章 あなたは、なぜそのように行動するのか、(行動と学習の心理学)

この章のポイント

私たちは、生まれた直後は、泣くこと、寝ること、お乳を飲むこと、排便排尿、その他は反射と言われるようなほんのわずかな行動レパートリーしか持っていません。

ところが3歳ほどにもなると、いろいろな行動を身につけています。つまり成長するにつれ、その行動レパートリーは非常に多くなります。では、どのようにして、こうしたさまざまな行動レパートリーを身につけていくのかということ、そのほとんどのものは「練習と経験」によってです。この「練習と経験」によって新しい行動を身につけたり、それまでの行動を変容することを心理学では「学習」と言います。つまり私どものほとんどの行動は、この学習によっています。したがって、人間の行動を研究する心理学では、学習により、人がどのようにして、いろいろな行動を身につけるのか、あるいは、行動の変容が生じるのか、ということについての研究も非常に大事です。このような学習と行動との関係を研究する心理学の分野を「学習心理学」といいます。そこで、この章では、学習心理学について学ぶことにします。特に、オペラント条件付けとレスポナント条件付けについてよく理解しましょう。私たちの行動を理解するのに大事な内容です。なお発達心理学の内容等とも関連させながら読んでみて下さい。

第8章 心は、どう探求されてきたか(心理学の歴史)

この章のポイント

心理学は、人間の行動について、科学的に研究する学問であり、そのために主にどのような研究分野があり、それぞれにどのような研究テーマで、どのような問題にどのように取り組んでいるのか、心理学の全般的な内容をこれまでに学修してきました。

こうした心理学の全般的な内容を一通り学んだところで、この章では、心理学の歴史について学ぶこととなります。テキストにもありますように、現状をよく理解するためには、その過去を知ることは非常に大事なことです。心理学に関しても先人たちが、どのように取り組んできたのか、そして、それが今日の心理学の展開にどのようにつながるのか学びましょう。

心理学は、もともと哲学の一分野として始まった学問です。したがって、たとえば、「魂というものが存在するか」といったようなことを机上で論じ合うというような形而上学的な学問でした。しかし、その後、心理学は、こうした形而上学的な学問から、科学としての心理学を目指すこととなります。しかし、実態として捉えにくい「心の動き」を研究対象とする心理学では、如何にして科学としての心理学を構築するかということこそが、心理学の歴史であるともいえます。したがって、この章では、心理学が哲学から科学としての心理学をめざして、先人たちが、どのような方法でもって、どのような研究テーマを取りあげながら、またどのような考え方のもとに、どのような貢献し、今日の心理学の構築に至っているのかということ、この章では学修してください。

第9章 データから心をさぐる(心理学の研究法)

この章のポイント

この最後の章では、心理学の研究法について学びます。この本で述べられてきたことは、全て心理学の研究法に基づいて得られた知識です。研究とは、それまで明らかにされていない事実を実験や調査によって発見し、それを他者にも分かるように示すことを言います。同じ方法を行えば、同じような結果になることが求められます。心理学者は、事実を明らかにし、他者に伝えるために観察、実験調査などの方法を駆使してデータを取り、それを分析しますが、その際にデータを得るために用いる方法や、データを分析する方法のことを「研究法」と言います。研究によって発見されたことが事実と認められるためには、その研究がきちんとした研究法にのっとって行わなければなりません。ここでは、心理学の研究法の基礎について述べるとともに、研究法をめぐる最近の問題についても考えてみたいと思います。

コミュニティ心理学

専門教育科目／2単位／4年後期開講／テキスト授業

■ 担当教員	土居 正人
■ 使用テキスト	テキスト：やわらかアカデミズム・(わかる) シリーズ よくわかるコミュニティ心理学〔第3版〕 著 者：植村勝彦 他編集 出 版 社：ミネルヴァ書房
■ 参考テキスト	テキスト：臨床・コミュニティ心理学 臨床心理学的地域援助の基礎知識 著 者：山本和郎 他著 出 版 社：ミネルヴァ書房 出 版 年：1995年 I S B N：978-4623025398

講義概要・一般目標

地域生活者の心理学的問題に関する援助は、スクールカウンセラー派遣制度のように、学校など特定のコミュニティに心理専門職が出向く形での援助が増加しつつある。このような支援形態のもとでは、外部に所属する心理専門職とコミュニティに所属する人々との関係のあり方や、コミュニティの特徴、あるいは支援のためのリソースにも十分配慮し、コミュニティをエンパワーメントする役割を果たす介入などが必要となる。こうした実践的かつ複雑な支援に必要な知識と技法を、コミュニティ心理学の視点から検討してゆく。

到達目標

1. コミュニティ心理学の研究内容や理論的背景、研究法を理解する。
2. コミュニティへの臨床心理学的地域支援の実際や介入法を、様々な領域を例として学ぶことで、コミュニティ感覚をもった心理・発達・教育領域の専門家としての資質を高める。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

これまでに私は心理臨床現場における臨床経験（児童精神科、小中高校のスクールカウンセリング、大学学生相談、適応指導教室、児童相談所の夜間・休日相談）を積み重ねていただいたことから、臨床心理学全般の実務経験を有していると考えています。

コミュニティの視点からクライアントを支援できるよう課題を作成しています。

学修の進め方

・添削課題出題の意図、及び課題の進め方

- 公認心理師には、①支援を要する者の心理状態の観察、その他の分析
②支援を要する者に対する相談及び助言、指導、その他の援助
③支援を要する者の関係者に対する相談及び助言、指導その他の援助
④心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供の4つの専門性が求められています。

公認心理師は、アセスメント（査定）や面接だけでなく、クライアントを地域で支えられるように活

動していく必要があります。そのために外に出向き、様々な人と話し合い連携を作っていくことが求められます。そのような時に、どのようにして地域とかかわっていくか、どのようにクライアントを支援するかに関する内容を中心に出题しました。

ただ課題を解くのではなく、人が危機に陥るとどのようになるのか、そのような時どのようなアプローチがあるか、そのような人の気持ちになりながら読み進めていくことが大切だと思います。

- ・添削課題をまとめるにあたっての留意点

地域における支援に重点を当てて課題を作成しています。必要な個所は覚える必要がありますが、それ以外のところにもとても役に立つ知識でありますので、ぜひ覚えていってほしいと思います。認定試験の際には、課題と同じ個所が出てくるとは限りません（違う所も出します）。教科書内を幅広く覚えていくよう心がけましょう。

- ・効果的な学修の流れ

添削課題の部分しか、知らないということにならないように、まずは教科書を全て読んでから、問題を解くことが大切です。そうすることによって、どこにどのようなことが書いてあるかを理解して進めていくことで、全体像が理解しやすくなります。

- ・フィードバックについて

フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学 修 指 導

〔テキスト解説と学修のポイント〕

第1章 コミュニティ心理学とは何か

コミュニティ心理学の概念・定義、理念・価値および役割について学びます。

第2章 基本的発想

コミュニティ心理学における基本的な発想やスタンスについて、コミュニティ心理学のキーワードを紹介しながら解説します。

第3章 歴史的背景

コミュニティ心理学の起源と学問的発展について、欧米の動きと日本の動きを踏まえて解説します。

第4章 背景となる理論

コミュニティ心理学の学問的・研究的背景となる諸理論について学びます。

第5章 介入・援助とその評価

コミュニティの様々な問題に対する介入や援助の代表的な手法について、介入・援助効果の評価手段を踏まえて解説します。

第6章 家庭・地域における実践

家庭や地域におけるコミュニティ心理学的実践の実際を学びます。

第7章 学校・教育の場における実践

学校や教育の場におけるコミュニティ心理学的実践の実際を学びます。

第8章 産業・職場における実践

産業領域や職場におけるコミュニティ心理学的実践の実際を学びます。

第9章 医療・保健・福祉の場における実践

医療・保健・福祉領域におけるコミュニティ心理学的実践の実際を学びます。

第10章 多文化コミュニティを支える実践

留学生，外国人労働者，帰国子女や海外居住者が構成する異文化コミュニティを支援するコミュニティ心理学的実践の実際を学びます。

第11章 インターネット・コミュニティを支える実践

新たなコミュニティであるインターネット・コミュニティを利用したコミュニティ心理学的実践として，メール相談やオンライン・グループ活動の実際を学びます。

カウンセリング

専門教育科目／2単位／4年前期開講／テキスト授業

■ 担当教員	土居 正人
■ 使用テキスト	テキスト：新版 カウンセリング心理学 -カウンセラーの専門性と責任性- 著 者：渡辺三枝子 出 版 社：ナカニシヤ出版 出 版 年：1984年 I S B N：4-88848-712-X (9784888487122)
■ 参考テキスト	テキスト：臨床心理学 著 者：丹野義彦著 出 版 社：有斐閣 出 版 年：2015年 I S B N：978-4641053793 テキスト：マイクロカウンセリング―学ぶ - 使う - 教える”技法の統合:その理論と実際 著 者：アレン・E・アイビー著 出 版 社：川島書店 出 版 年：1985年 I S B N：978-4761003296

講義概要

臨床心理学的支援法としてのカウンセリングについて、その背景理論やカウンセリングの実際を学ぶ。はじめにカウンセリング心理学の歴史的背景や経過を概観し、現代日本におけるカウンセリング実践の諸課題を解説する。次に一般的なカウンセリングプロセスと、カウンセリングにおいて重視すべき初回面接、および見立てについて詳しく解説する。さらに個別カウンセリング以外の心理援助技法についても解説する。講義中に何度かカウンセリング事例も扱うが、学科の特徴を考慮し発達期(乳幼児～青年期)の子どもに関する親面接事例や遊戯面接等を導入する。

到達目標

1. カウンセリングの基本的考え方とその必要性に関する歴史的経緯を理解する
2. 初回面接から見立て、継続面接へと続くカウンセリングのプロセスについて、望ましい変化を理解する
3. カウンセラーの態度と心構え、倫理観を身につける

評価方法

科目単位認定試験により評価

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

これまでに私は心理臨床現場における臨床経験(児童精神科、小中高校のスクールカウンセリング、大学学生相談、適応指導教室、児童相談所の夜間・休日相談)を積み重ねていただいたことから、臨床心理学全般の実務経験を有していると考えています。

これらの経験から、カウンセリングにおいてクライアントを支援する視点に立って考えることを大切にしており、そのように学修が進められるような課題構成にしています。ただ、丸暗記をするだけでは

なく、実際場面をイメージしながら課題に取り組んでみてください。

学修の進め方

・添削課題出題の意図、及び課題の進め方

カウンセリング場面では、実際に困っているクライアントが問題ごとを抱えて来所します。何もできなければ、カウンセリングをする意味はありません。「ただ聞く」のではなく、そのクライアントが自分の力でもう一度立ち上がることができるように援助するように、「聴く」ことが大切です。カウンセラー側が何を重点的に聞くのかによって、面接の流れは変わってきます。このように、カウンセリングでは一つ一つの技法が重要であることから、マイクロカウンセリングや様々な面接技法を出題しています。

課題をただ解くのではなく、実際に面接場面や日常の友達と話をしている場面を想像しながら、学修を進めていってほしいと思います。

・添削課題をまとめるにあたっての留意点

カウンセリングの中でも、マイクロカウンセリングや面接技法に重点を置いています。必要な箇所は覚える必要がありますが、それ以外のところにもとても役に立つ知識でありますので、ぜひ覚えていってほしいと思います。認定試験の際には、課題と同じ個所が出てくるとは限りません（違う所も出します）。教科書内を幅広く覚えていくよう心がけましょう。

・効果的な学修の流れ

添削課題の部分しか、知らないということにならないように、まずは教科書を全て読んでから、問題を解くことが大切です。そうすることによって、どこにどのようなことが書いてあるかを理解して進めていくことで、全体像が理解しやすくなります。

・フィードバックについて

フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

第1章 カウンセラーとカウンセリング

まずはじめに、カウンセリングとは何なのか？ 心理療法や相談活動との異同を検討していく。その上で、カウンセリング活動の理論的基盤となるカウンセリング心理学について、日本と欧米との事情の違いを明確にして概説していく。

第2章 カウンセリング心理学の発達史

専門職による現代的なカウンセリングが求められるようになった歴史的経緯を説明し、カウンセリング心理学が学問として成立した背景を理解する。さらにカウンセリング心理学が現代までにたどった発達史を、その紆余曲折も含めて理解することで、カウンセリング活動の必要性と課題を理解する。

第3章 カウンセリング心理学の独自性

カウンセリングは専門性による独自の活動として展開してきたが、現在でも類似、混同されやすい活動や概念が存在する。これらとの区別について解説しカウンセリングの独自性を理解する。

第4章 多様化するカウンセラーの機能と働き方

カウンセラーが具体的にどのような役割を負うのか、カウンセリングにおいておこなうこととはなにかについて学ぶ。さらに、現代の複雑な課題を解決するためにカウンセラーの機能と働き方は多様化している。これについてコンサルタントとしてのカウンセラーのあり方を中心に解説する。

第5章 カウンセラーに必要な基本的態度と能力

カウンセリングを実施する具体的な手法はいくつか存在する。しかしながら、どの手法にも共通するカウンセラーの基本的態度や求められる能力が存在する。これらが十分身につけ発揮出来ることが専門職としてのカウンセラーには必要である。

第6章 プロセスとしてのカウンセリング

カウンセリングは1回の助言的面接で終わることもあるが、何度かカウンセリングを実施しクライアントの解決に至るのが一般的である。この解決に至る道筋にはある程度一般化可能なプロセスが存在する。これを概観しカウンセリングでなにおこなわれどのような変化が求められるかについての見通しをつける。

第7章 カウンセラーと倫理

カウンセリングは、クライアントの極めて個人的な情報を扱う行為であり、対人的関係性を深めていく行為でもある。したがって高度な倫理観とそれを守る強い信念が求められる。カウンセラーが専門性のある職業として成立する前提条件でもあるカウンセリングにおける倫理の基本について学ぶ。

臨床心理学概論／臨床心理学

専門教育科目／2単位／3年後期開講／テキスト授業

■ 担当教員	土居 正人
■ 使用テキスト	テキスト：臨床心理学概説 著者：田中 富士夫著 出版社：北樹出版 出版年：1988年 ISBN：4-89384-551-9 (9784893845511)
■ 参考テキスト	テキスト：臨床心理学 著者：丹野義彦著 出版社：有斐閣 出版年：2015年 ISBN：978-4641053793

講義概要・一般目標

臨床心理学とは、人間の心理・行動面の諸障害についての診断、治療、それに予防法にかかわる研究と実践の分野である。したがって、この授業では主として心理的な諸障害にどのようなものがあるのか、その原因としてはどのようなことが関係するのかといったことの解説とその障害に関する診断や心理判定の方法として用いられる心理面接、行動観察、心理検査法について解説する。さらに諸障害に対してどのような心理的治療や対処法が用いられるのか、それとともに今日の主要な心理療法について解説する。さらには不適応行動や種々の障害に対する予防法、ないしは心身のより健康の増進を図るための臨床心理学的な諸活動等について今日どのような手法がとられているのかを紹介する。

テキストにある章立てに沿った形で、第1部から第6部までの内容を学修することになるが、特に臨床心理学についての基本的な内容を中心に学修を進める。つまり、臨床心理学の定義、臨床心理学の歴史的背景、臨床心理学の理論モデル、それから臨床心理的査定法の主たる手法である面接法、行動観察法、心理検査法について学修していく。続いて心理療法についての代表的な治療理論とその実践技法（精神分析療法、行動療法、来談者中心療法、その他）、臨床心理学における研究法、そして臨床心理学の活動分野とその内容には、どのようなものがあるのか、それら臨床活動を巡る諸問題と留意点、最後の第6部で心理臨床家の現状と課題について学修していく。

到達目標

臨床心理学は、心理・社会的に不健康な状態にある人について研究・介入する心理学の分野である。したがって本講では、人間の不健全な状態には、どのようなものがあるのか、またその診断法、対処法、それに予防法などの基本的知識を体系的に習得することを到達目標とする。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

これまでに私は心理臨床現場における臨床経験（児童精神科、小中高校のスクールカウンセリング、大学学生相談、適応指導教室、児童相談所の夜間・休日相談）を積ませていただいたことから、臨床心理学全般の実務経験を有していると考えています。また、心理学部心理学科（通学生）の授業科目では、「心理検査実習」、「臨床の倫理」、「心理学理論と心理的支援」、大学院では「臨床心理学研究法特論」、「投影法特論」など、臨床的な講義を担当してきました。

これらの経験から、臨床心理学全般を理解できるように課題を作成しています。ただ丸暗記をするのではなく、どのような意味を持って書かれているのかを一つ一つ吟味しながら解いていきましょう。

学修の進め方

・添削課題出題の意図、及び課題の進め方

人の心はどのような時に病んでしまうのか、どのような心の病・障害があるのかについて理解してもらいたいと思います。臨床心理学では精神障害だけでなく、不適応や問題行動まで含みます。そのような時、セラピストは何の理論で介入するのか、どのように介入するのかを学んでほしいと思います。

課題は幅広い範囲から出題されますが、とても興味深い学問であると思いますので、学修しやすいと思います。ただ読むだけでなく、覚えるように読んでいきましょう。

・添削課題をまとめるにあたっての留意点

臨床心理学の中でも、心理療法・心理検査について重点を置きました。心理検査はどのように作られているのか、心理療法はどのように介入するのかについても述べています。必要な個所は覚える必要がありますが、それ以外のところにもとても役に立つ知識でありますので、ぜひ覚えていってほしいと思います。認定試験の際には、課題と同じ個所が出てくるとは限りません（違う所も出します）。教科書内を幅広く覚えていくよう心がけましょう。

・効果的な学修の流れ

添削課題の部分しか、知らないということにならないように、まずは教科書を全て読んでから、問題を解くことが大切です。そうすることによって、どこにどのようなことが書いてあるかを理解して進めていくことで、全体像が理解しやすくなります。

・フィードバックについて

フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキスト解説と学修のポイント〕

第1部 臨床心理学の基礎（序章、1章、2章）

第1部のポイント

第1部は、序章と第1章、2章からなるが、臨床心理学とは、どのような心理学の学問分野なのか、またどのような実践活動の分野なのかということについて理解をすること。そのためには、序章にある臨床心理学の定義をしっかりと理解すると同時に、サンドバーグらのいうSCAパターンをしっかりと読むこと。第1章には、臨床心理学の展開に重要な貢献をした代表的な研究者とその業績がのべられている。それに続いて臨床心理学が時代とともに、どのような動きをしていったのか、その変化について述べられているが、特にフロイト、ゴールトン、ウイットマーそれにビネー等の功績を理解する。そして最後にわが国の臨床心理学を巡っての解説がなされているが、大まかにその動きに目を通すこと。第2章では、臨床心理学における重要な用語の概念の解説と臨床心理学の理論モデルの解説がなされている。特に第2章は、これからの学修にとって基盤をなすものなのでしっかりと読んで欲しい。

第2部 人格と行動の理解（3章、4章、5章、6章）

第2部のポイント

第2部は、第3、4、5、6章からなっているが、この第2部からは、臨床心理学の具体的な内容についての解説がなされている。心理・社会的な苦しみを抱えた人（クライアント）の問題を解決するには、次のような一連の作業が必要になる。1. まず最初にクライアントの抱えている問題が、どのようなものであり、どのようなことに原因しているのかを捉える。2. それに基づいて問題の解決法には、どのように介入をするのがよいのか方針をたてる。3. そして実際にその介入法を実践し、その結果を確認するという一連の作業である。これらの作業に用いる主な手法として面接法、行動観察法、心理検査がある。第2部では、これらの各手法について解説されている。つまりこの2部の第3章では面接法について、第4章では、行動観察法について、それに第5章では心理検査について、そして第6章では、上記の各手法によって得られたクライアントについての情報のまとめ方が

解説されているが、これらの各手法は、臨床心理学において、きわめて重要な基礎的なものであるので、そのことを十分に認識して第2部の内容を学修して欲しい。

第3部（第7章，8章，9章，）問題行動への介入方法（個人心理療法）

第3部のポイント

第2部で述べたような手法でもって、問題に苦しんでいる人の問題がどのようなことであり、それがどのような原因によっているのかが理解できたら、次にその問題にどのように対応するのか介入方針をたて、これを実践することになるということを述べたが、この第3部では、その介入手法として用いられるきわめて代表的な心理療法の諸技法が解説されているが、この第3部では、治療者とクライアントが、一対一の形で向かい合う個人心理療法についての代表的な4つの心理療法が解説されている。つまり第7章では精神分析療法について、第8章で行動療法について、第9章で来談者中心療法について、そして第10章で遊戯療法について、それぞれ解説がなされている。これらの理論的思考方、それに実際の技法等を概略つかむようにすること。内容的にはやや難しいところもあるが、これらの各心理療法については、他にも多くの解説書があるので、それらも参考にすること。

第4部 介入活動の展開（個人を超えて）

第4部のポイント

第4部でも同じくクライアントの問題を解決するための介入技法について解説されているが、4部で解説されている内容は、第3部で述べたような治療者とクライアントが一対一の形で向かい合う心理療法の形態とは異なり、グループで行われる心理療法の諸技法について解説されている。つまり11章では、家族を治療対象とする家族療法について、第12章では治療形態が集団でなされる集団療法について、また、第13章では、地域の中で人と環境へ働きかける地域臨床について解説されている。

第5部（第14，15，16章）臨床心理学の研究

第5部のポイント

第5部では臨床心理学における研究をめぐっての諸問題について解説されている。つまり、第14章では、臨床心理学の研究領域には、どのようなものがあるのか、学会および学会誌の紹介がなされている。また第15章，16章にわたって、臨床心理学の研究にかかわる諸問題が解説されているが、これらの内容の多くは、臨床心理学の研究にのみ該当するものではなく、他の心理学の分野においても同様に共通する問題でもある。ただし、臨床心理学特有の留意すべき問題もある。それらのことを考えながら読んでほしい。第5部は、内容がかなり多岐にわたっているので、ここで、それらそれぞれについて解説をすることは紙面の都合もあり難しいが、この第5部の内容にも一通り目を通して欲しい。ともかく、きわめていろいろなことを配慮しなければならないこと、また研究すべきさまざまな課題があることを理解して欲しい。

第6部 援助職としての心理臨床家（第17章，18章，19章）

第6部のポイント

第6部では、心理臨床家が、今日実際にいろいろな実践活動をしているが、そのことを巡っての現状と課題について、さまざまな解説がなされている。まず第17章では、心理臨床家の教育と訓練について、第18章では、心理臨床家の実践活動をめぐって、どのような構え、姿勢が必要か、そして第19章では、心理臨床家の倫理的問題が取り上げられている。この第6部の内容は、特に臨床心理士になることを目指さなくとも、実際に臨床心理的な活動をしている方は多いのではないかと思う。そうしたことを考えると、この第6部にある内容は、いろいろと参考になることも多いと思われるので、せっかく臨床心理学について勉強するこの機会を利用してよく理解して欲しい。

社会的養護 I / 社会的養護

専門教育科目 / 2 単位 / 3 年前期開講 / テキスト授業

■ 担当教員	栗田 喜勝
■ 使用テキスト	テキスト：新プリマーズ社会的養護（第4版） 著者：小池由佳 他編著 出版社：ミネルヴァ書房（書店販売・注文可） 出版年：2016年 ISBN：978-4-623-07656-7
■ 参考テキスト	テキスト：実践から学ぶ社会的養護 著者：中山正雄 編著 出版社：保育出版社 販売所：教育情報出版直販のみ（TEL06-6658-8741）

講義概要・一般目標

講義概要としては、現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解するとともに、子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本、制度と実施体制、対象・形態・専門職、現状と課題等について学ぶ。

児童養護は児童本来の家庭における養護と児童福祉施設や機関などによる社会的養護の連携協力によって初めて全うされる。このことを踏まえて、社会的養護の中でも特に児童福祉施設による児童養護の考え方及びその現状を詳細に学ぶとともに、養護上の基本原理とその実践について考察する。本講を受講することにより、児童の社会的養護における自立支援の実践について学び、家庭養護との対比の中で里親養護や施設養護における児童の権利保障や最善の利益について、その理念と実践を学ぶことができる。

到達目標

1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。
2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。
3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。
4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。
5. 社会的養護の現状と課題について理解する。

評価方法

開講期の途中(中間期)に添削課題による中間評価を行い、一定の学修成果の認められる者(添削課題の正答率が50%以上)に対して期末の科目単位認定試験を行い評価する。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

児童養護施設の児童指導員・副園長として児童養護の実践に従事した。このような経験を踏まえ、今日の社会的養護の意義や体制等を学ぶとともに社会的養護実践現場の実際についても論じ、履修学生の理解を深めさせる。

学修の進め方

〔添削課題出題の意図及び課題の進め方(学び方)について〕

本科目の添削課題については、専門知識修得状況確認のための①正誤解答式課題、②用語補充式課題、

ならびに思考力・考察力確認のための③論述式課題の三部からなっており、多面的に学修内容の理解度を確認できるように構成されています。したがって、課題に取り組むためには、使用テキストの各章を熟読して、学びのキーワードとその意味について理解するとともに、章のテーマ・主題について考察を深めることが求められます。

〔フィードバック〕

フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを記載し返却します。

学 修 指 導

〔テキスト解説と学修のポイント〕

第1章 社会的養護とは何か

(1) 社会的養護とそれに関連する言葉について理解する。①養育，保育，養護，ケアの違いについて，②社会的養護の範囲について，(2) 社会的養護の基本原則について理解する。①児童家庭福祉の理念と社会的養護の関連について，②個別援助(ケースワーク)，社会生活支援，自立援助，自己決定，家族支援，グループワークの活用，社会化・地域化等の原則について，(3) 児童養護の問題と政策の特徴について学ぶ。

第2章 現代社会に暮らす子どもと家庭

(1) 現代の日本社会の特徴の理解，①物質的に豊かな社会，②少子高齢社会，(2) 子どもと家族の置かれた現状の理解，①核家族，②地域との希薄なつながり，(3) 子どもを生み育てることの意味や理想と現実の狭間で葛藤する家族について学ぶ。

第3章 子ども権利

(1) 人権としての子どもの権利について，(2) 児童の権利に関する条約の理解，(3) 子どもの権利のとらえ方，(4) 社会的養護を必要とする子どもたちの権利，(5) 子どもの権利を保障する取り組みについて学ぶ。

第4章 子どもの養護の歴史

(1) 子どもの養護の歴史的背景，(2) 今日の子どもの養護の展開，(3) 現代の子どもの養護に求められる発想の転換等について考察する。

第5章 社会的養護の体系

(1) 社会的養護の体系について，①家庭養護と社会的養護，②家庭的養護と施設養護，③利用型養護と入所型養護等について，(2) 社会的養護体系の課題について考察する。

第6章 社会的養護の制度

(1) 社会的養護の制度，(2) 社会的養護の相談機関，(3) 家庭的養護事業，(4) 施設養護事業等について学ぶ。

第7章 施設養護の特質

(1) 施設養護の役割と機能について，(2) 家庭養護との比較を通じたメリット・デメリットについて考察する。

第8章 施設養護の基本原則

施設養護の場における基本的な養護の理念について，個別援助と集団援助の視点から①人間尊重，②子どもの人権保障，③子どもの成長発達援助，④親子関係の尊重と調整，⑤集団生活における相互援助力の活用等について考察する。

第9章 施設養護の実践(1) 日常生活および自立支援

各種児童福祉施設における生活保障，発達保障の機能と役割について学ぶとともに，日常生活支援，自立支援の実践と課題について考察する。

第10章 施設養護の実際(2) 治療的・支援的援助

各種児童福祉施設における養護のうち、特に治療的・支援的援助を要する子ども達への養護について、ニーズの背景、特性、専門的援助の実際等について学ぶ。

第11章 施設養護の実際(3) 親子・地域との関係調整

施設養護における親子関係調整の必要性や、地域との連携について学ぶ。また、家族支援の視点と実際地域支援の必要性と実際について理解する。

第12章 社会的養護とソーシャルワーク

(1) 社会的養護におけるソーシャルワークについて、(2) ソーシャルワークの多様性とすすめ方、(3) 児童自立支援計画とソーシャルワーク、(4) ファミリーソーシャルワークの意義等について学ぶ。

第13章 児童福祉施設の運営管理

施設設立の理念と運営、人的管理・物的管理の実際と課題、児童福祉施設の設置及び運営に関する基準の意義と課題、職員の勤務形態と施設運営、措置費制度の特徴と運用、苦情解決のための取り組みの重要性等について学ぶ。

第14章 児童家庭福祉の援助者としての資質・倫理

児童家庭福祉に従事する援助者に求められる資質と自己向上のために取り組むべき課題と目標について理解する。

第15章 社会的養護のあるべき姿について

施設内における子どもの人権侵害防止への取り組みについて理解し、子ども達にとって家庭に代わる安心・安全・楽しい生活環境の提供への取り組みの重要性について学ぶ。

社会的養護Ⅱ／社会的養護内容

専門教育科目／1単位／3年後期開講／スクーリング授業

日 時	1日目 令和3年11月20日(土) 9:30~16:40 2日目 令和3年11月21日(日) 9:30~16:40	該 当 時 間 割	A
	[スクーリング受講中止届の提出について] 令和3年11月12日(金) 必着		
会 場	吉備国際大学 岡山駅前キャンパス(岡山県岡山市北区岩田町2-5)		

■ 担当教員	栗田 喜勝
■ 使用テキスト	テキスト：指定なし(スクーリング時に資料配付)
■ 参考テキスト	テキスト：実践から学ぶ社会的養護内容 著 者：中山正夫編著 出 版 社：保育出版社 販 売 所：教育情報出版直販のみ(Tel.06-6658-8741)

講義概要・一般目標

講義概要としては、社会的養護の基礎的内容について理解するとともに、施設養護及び家庭養護の実際、計画・記録・自己評価の実際、相談援助の方法・技術とその実践、子ども虐待防止と家庭支援、今後の課題と将来展望について学ぶ。

また、特に施設養護の具体的内容としては、養護内容の実践の場である児童福祉施設のうち、特に居住型施設を中心に、児童養護の体系や各種児童福祉施設の概要、施設生活の内容、各種専門職の役割等について、文献資料ならびにビデオ・DVD等を通じて学ぶ。また、アドミッションケア、インケア、リービングケア、アフターケアの各段階での養護内容の実践についても事例を通じて学ぶ。本講を受講することにより、各種児童福祉施設における子どもたちの日常生活養護の実際を理解し、施設養護における子どもの心身の成長発達援助の方法を学ぶことができる。また、施設の児童指導員・保育士等、いわゆる児童ケアワーカーに必要な専門知識、技術、倫理等を学ぶことができる。

到達目標

1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的内容について具体的に理解する。
2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。
3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。
4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。
5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。

評価方法

スクーリング授業終了後に行う科目単位認定試験により評価する。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

児童養護施設の主任児童指導員・副園長として児童養護の実践に従事した。このような経験を踏まえ、施設養護・家庭養護の実践例を交えた授業を通じて施設養護及び家庭養護の実際、相談援助の方法や技術を学ばせ、養護実践力を育む。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

「社会的養護内容」は「社会的養護」と同様に保育士資格取得のための必修科目ですが、この演習では特に各種児童福祉施設や里親養護等における具体的な養護の内容について学修しますので、「社会的養護」で用いるテキストや参考書等を活用して、特に保育所以外の各種児童福祉施設（児童養護施設、情緒障害児短期治療施設、知的障害児施設等）の概要について事前に予習しておくことを希望します。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

スクーリングにおける学びをより確かなものにするためには、スクーリング時に配布した資料に再度目を通すとともに、紹介した文献や図書等を通じて補完学修・発展学修に主体的に取り組む必要があります。特に社会的養護内容については、制度・政策的な取り組み内容が大きく影響を与えるため、関係法の改正や各地方自治体の独自の取り組み等にも関心を持ち、養護現場のより具体的な状況や課題について学ぶ姿勢が大切です。

〔フィードバック〕

スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行いません。

学修指導

1 日 目	講義1 社会的養護の内容と特質
	講義2 社会的養護の実際（1）施設養護の生活特性及び実際
	講義3 社会的養護の実際（2）家庭養護の生活特性及び実際
	講義4 社会的養護の実際（3）視聴覚教材を用いた施設養護の理解
2 日 目	講義5 社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価
	講義6 社会的養護に関わる専門的技術
	講義7 今後の課題と展望
	講義8 科目認定試験

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

特になし

〔準備するもの〕

筆記用具（講義資料は当日配布します）

〔その他〕

特になし

子どもの保健

専門教育科目／2単位／1年前期開講／テキスト授業

■ 担当教員	西田 啓子
■ 使用テキスト	テキスト：「子どもの保健」 改訂第3版 著者：渡辺 博 編著 出版社：中山書店 出版年：2017年 I S B N：9784521744872
■ 参考テキスト	こどもの保健 第5版 巷野悟郎 編 診断と治療社

講義概要・一般目標

子どもの保健とは、子どもたちの日常生活の中から生まれ、実践されるものであり、心と身体の健康を維持し、増進することを目的とした積極的な実践活動である。この科目では、保育現場という、養護と教育を同時に行う場での健康と保健の意義を踏まえた上で、子どもの身体発育、生理、運動・精神機能の発達、さらには心身の問題だけではなく、栄養・生活リズム・母子関係・環境・社会制度についても学修する。また、子どもの病気の特徴や罹りやすい疾患、子どもの事故予防や遺伝についても学修し、理解を深める。成長発達が著しい乳幼児期における、病気の意味や家族の関わり方について学び、保育現場と家庭との連携について考察する。

到達目標

- ①子どもの各発達段階における身体的発達と生理的な身体機能について理解する。
- ②子どもの病気や症状の特徴と予防について理解する。
- ③子どもの精神発達について理解する。
- ④事故防止と安全対策、生活環境について理解する。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

病院施設内での看護経験、および、産前産後の妊産婦指導、保育所や子育て支援スペースにおける実施指導の実務経験があり実際の、子育て状況や子どもの健康などの現状について詳しく講義を進めています。

学修の進め方

第1章 子どもの保健を学ぶ

1. 子どもの保健とは
2. 子どもの保健を学ぶ意義と目的
3. 日本の子どもの保健水準
4. 子どもの保健に関する法律と制度・施策

*この章では、健康とは何か、健康を保つ保健とは何かを考える。日本における子どもの保健水準を知り、整備された法的環境との関連を学ぶ。

第2章 身体の成長

1. 子供の成長と発達、2. 体重、3. 身長、4. 頭囲、5. 胸囲、6. 肥満と痩せの評価
7. スキャモンの発達曲線

*この章では、子どもの身体発育や生理機能、運動機能、精神機能の発達と保健を理解する。その発育、発達過程は個人差があるとともに、それぞれの子どもの生活背景を知る手がかりともなる。

第3章 子どもの発達

1. 子どもの発達とは何かを学ぶ。
2. 乳幼児期各期の運動、精神発達を学ぶ。
3. 運動発達・精神発達の評価方法について理解する。
4. 子どもの生理機能の発達について理解する。

*この章では、子どもの正常な運動・精神発達と生理機能の発達を理解する。

第4章 子どもの栄養

1. 子どもの栄養の特徴を理解する。
2. 乳児にとっての母乳栄養の意味や、長所、短所を理解する。
3. 粉乳による栄養の長所、短所を理解する。
4. 混合栄養とは何か。混合栄養についての注意点を理解する。
5. 離乳食の開始から進め方、作り方などを理解する。
6. 幼児木の食事の特徴や注意点を理解する。
7. 間食の必要性和与え方

*この章では、成長期の乳幼児にとっての食事の重要性と、発達過程における食事内容の変化や対応を学修する。

第5章 生活と健康

1. 体温、2. 冷暖房、3. 水分補給、4. 便・おむつ、5. 睡眠・夜泣き、6. 日光浴・外気浴
7. 入浴、8. 歯磨き、9. 遊び、10. 外出

*この章では、子どもの生理的機能と、生活環境との関連性を理解する。日常生活すべてが子どもの健康状態に関係することを学び、保育現場における日常生活リズムの重要性を確認する。

第6章 子どもの事故とその予防

1. 子どもの事故の特徴、2. 窒息、3. 誤飲、4. 転倒・転落、5. 溺水、6. 熱傷（やけど）
7. 事故と予防、8. 救急処置

*この章では、それぞれの年齢に特徴的な事故原因を知り、発達段階に応じた事故予防を考える。また、様々な事故発生時の迅速かつ適切な救急処置を学修する。

第7章 遺伝と健康

1. 遺伝、2. タンパク質、3. 遺伝子、4. 染色体、5. 優性遺伝と劣性遺伝、6. 遺伝病
7. 遺伝子病、8. 染色体異常、9. 出生前診断、10. 遺伝子診断と遺伝カウンセリング

*この章では、遺伝について理解し、遺伝に関する病気を知り、出生前診断の意義について理解を深め、考察する。

第8章 子どもの症候

1. 発熱、2. 食欲、3. きげん、4. 嘔吐、5. 下痢、6. 脱水、7. 咳、8. 鼻汁とくしゃみ
9. けいれん

*この章では、病気として発病する前に現れる様々な症状を理解する。子どもが発病する前に呈するあらゆる症状について理解し、症状に対する注意、観察、対処法を学修する。

第10章 予防接種

1. ワクチンについて
2. ワクチンの種類

第11章 免疫・アレルギーと健康

免疫とアレルギーについての理解と、主なアレルギー疾患について

第14章 地域とのかかわり

地域で行われている母子保健対策や健診、保健センターの機能などについて学ぶ

〔フィードバック〕

フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキスト解説と学修のポイント〕

この科目「子どもの保健」のテキストは、科目「子どもの保健ⅠA。ⅠB」と共通です。この科目では**テキストの第1章～第14章**を使用します。

この科目では乳幼児の発育や生理など基本的な内容と共に疾患についても広く学修します。子どもとかわっていくうえで、健康保持や事故予防につながる基礎的な知識になると思います。テキストをしっかりと読み込んで学修していきましょう。

子どもの健康と安全

専門教育科目／1単位／2年前期開講／スクーリング授業

日 時	1日目 令和3年6月19日(土) 9:30~16:40 2日目 令和3年6月20日(日) 9:30~16:40	該 当 時間割	A
	[スクーリング受講中止届の提出について] 令和3年6月11日(金) 必着		
会 場	吉備国際大学 岡山駅前キャンパス(岡山県岡山市北区岩田町2-5)		

■ 担当教員	西田 啓子
■ 使用テキスト	テキスト:「これだけはおさえたい! 保育者のための子どもの保健」 著 者:鈴木美枝子[編著] 内山有子・田中和香菜・両角理恵[著] 出 版 社:創成社 出 版 年:2019年10月 I S B N:9784794480927
■ 参考テキスト	子どもの保健演習ノート 診断と治療社

講義概要・一般目標

「子どもの健康と安全」では、演習形式を用いて学修する。「子どもの保健Ⅰ」では子どもの健康の保持増進、心身の発育・発達、子ども達の安全で健やかな生活についての理論を学んだ。それらの知識を実際の保育現場で実践できることを目標とし、演習を重ね習得する。具体的には、子どもに関わる際の“抱っこ”“おむつ替え”“沐浴”などの一般的な養護技術や、子どもの発育・発達の評価、子どもの健康状態の観察方法、病気やけがの救急時の看護、保育現場における保健活動および事故予防、危機管理の方法について学修する。さらに、広く子どもの保健を考えるうえで、心の健康と問題の対応法についても深く学び、「心と体」という広い視点を持って「子どもの保健」を捉えていく。また、保護者に向けて子どもの保健的な知識と技術を伝えていくことや、保護者の精神的サポートの役割も求められている。これらの事も演習を通し習得していく。そして、地域における保健活動と保育現場の関連性を学び、関係諸機関との連携方法を学修する。

到達目標

「子どもの健康と安全」では、子ども理解をより深め、保育現場で実践できる保健に関する実際的な知識及び基礎的技能の習得を目標とする。

- ①子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を理解する。
- ②子どもの健康及び日常生活と安全に係る実際的な技能を習得する。
- ③子どもの疾病とその予防及び適切な対応を習得する。
- ④救急時の対応や事故防止、安全管理の方法を習得する。
- ⑤現代社会における心の健康問題や地域保健活動等を理解する。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

病院施設内での看護経験、および、産前産後の妊産婦指導、保育所や子育て支援スペースにおける実施指導の実務経験があり実際の、子育て状況や子どもの健康などの現状について詳しく講義を進めていきます。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

「保育所保育指針」の「第1章 総則」、「第2章 子どもの発達」、「第3章 保育の内容」、「第5章 健康及び安全」を熟読し、「子どもの保健Ⅰ」で学修した内容を復習しておくこと。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

「子どもの保健Ⅰ」（講義）と「子どもの保健Ⅱ」（演習）を統合させ、保育現場における生命の保持、健康、安全等の保健活動についての保育所実習の課題目標をあげ、それをレポートできる。

〔フィードバック〕

スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行いません。

【テキスト内容と学修のポイント】

第1章 子どもの心と体の健康と保健の意義

この章では、健康についての概念や保健活動の意義と目的を理解する。社会における現代の子どもの現状や地域社会の中での子どもを取り巻く問題について学修する。

第2章 子どもの発育・発達の観察と評価

計測方法 1) 体重 2) 身長 3) 胸囲 4) 頭囲 5) 座高

発育の評価 1) 乳幼児身体発育値 2) 肥満度と身体体重曲線 3) カウプ指数

発達の評価 1) 知能検査 2) 発達検査

*この章では、定期的に行われる子どもの測定方法について、体重、身長、胸囲、頭囲の計測がスムーズに行われるよう乳児・幼児の計測法を修得する。計測を嫌がる子供たちもいるため、様々なケースを想定して実習を行う。また、その測定値を基に評価する方法や、それを、保護者に伝える方法等についても修得する。

第3章 子どもの心と体の健康状態の把握

この章では、生命保持と情緒安定を図る日常的な養護こそ、大変重要であることを学ぶ。発育に応じた適切なだっこや、おむつなどの養護技術を的確に行うことが子どもたちに安心感を与え、信頼関係を築くために重要である学修する。養護と教育を一体化させた質の高い保育をするための方法を学ぶ。

第4章 子どもの病気の予防と適切な異対応

1. 子どものかかりやすい感染症。予防と対策

2. その他の子どもの病気

3. 先天異常

1) 子どもの健康状態を把握するポイント

2) バイタルサインの測定方法…体温、脈拍、呼吸の測定方法

3) 保育現場における適切な対応と応急処置。

第5章 保育における保健

1. 職員の健康管理

2. 気を付けたい体や心の不調

3. これからの「子どもの保健」と保育

この章では、保育現場での保健活動の年間計画、保護者に対して健康教育や支援について学ぶ。また、各関係機関との連携について学修する。子どもたちの健康と安全を守るために保育者として何ができるのか、ということを中心に念頭におき実践できるようにする。

学 修 指 導

1 日 目	講義1 モデル人形を用いた演習で、実際に子どもと接する心構えを認識できる。子どもの発育発達の観察と評価(身体計測方法、発育評価、発達の評価)を行う。
	講義2 子どもの健康観察と健康管理(日常の保育における健康観察、健康診断、子どもの健康情報の管理と利用方法)
	講義3 子どもの体調不良などへの対応、保育における応急手当、一次救命処置法。
	講義4 「子どもの保健」演習用DVD
2 日 目	講義5(技術演習)子どもの養育と教育 ①観察 ②沐浴、衣服の着脱とオムツの当て方。
	講義6(技術演習) ③身体計測と評価 ④バイタルサイン測定 ⑤乳幼児の抱き方と哺乳
	講義7 望ましい保育環境と安全対策、健康づくり(年間計画、関係機関等との連携)
	講義8 学修のふり返し。 科目単位認定試験

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

- 1) 学習の手引き「子どもの保健(2019年度～2020年度入学生科目)」または、「子どもの保健ⅠA(2012年度～2018年度入学生科目)」,「子どもの保健ⅠB(2012～2018入学生科目)」の講義概要や学習指導内容を参考に、テキスト「これだけはおさえたい!保育者のための子どもの保健」等で小児の保健について予習しておいてください。
- 2) 可能であれば自分の母子健康手帳等により、予防接種歴や感染症の既往歴を記入し当日持参してください。

〔準備するもの〕

- 1) 指定のテキスト「これだけはおさえたい!保育者のための子どもの保健Ⅱ」または「これだけはおさえたい!保育者のための子どもの保健」を持参して下さい。
- 2) 2日目の乳児沐浴の実習時には、「エプロン」を持参してください。
- 3) 髪の毛が長い方は、髪を束ねるゴムを二本ご持参ください。

〔その他〕

- 1) 1日目と2日目の午後は講義および演習を行います。2日目の午前中は実習をしますので、動きやすい服装・靴を着用してください。
- 2) 講義用の資料は、当日配付します。

乳児保育 I

専門教育科目 / 2 単位 / 2 年前期開講 / テキスト授業

■ 担当教員	加藤 寿美子
■ 使用テキスト	テキスト：やさしい「乳児保育」 著者：神蔵 幸子・金 允貞 編著 出版社：(株)青踏社 出版年：2019 年 3 月 23 日
■ 参考テキスト	「保育所保育指針解説書」 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

講義概要・一般目標

わずか半世紀前までは、出生直後の子どもはまだ目も見えず耳も聞こえない状態であると思われていた。そして、この無能な状態の子どもだから大人が世話をしなければ生きていけないとの説明がされていた。しかし、その後の様々な研究により、出生時にはすでに五感の発達が進んでいること、また、自ら移動したりすることはできなくとも、泣く微笑むなどの行為が周りの人に働きかける大きな力となり、子どもと大人の相互の関わりとしての生活が展開していることも理解されるようになってきた。

子どもが保育所、幼稚園などで保育者と出会うのは、出生からいくらかの年月を経てからのことであるが、どの子どもも、それまでの発達の過程をたどり、それぞれの個人差を含みながらではあるが、月齢、年齢相応の段階に進んでいるのである。子どもの発達に寄り添う保育者は、子どもの発達の過程を十分理解し、育ちゆく子どもの姿に関心を寄せ、そこにふさわしい関わり方のできる人であってほしい。そのような保育者と子どもとの相互の関わりこそが「乳児保育」である。その中で学びを深めることを重点的目標にしています。

到達目標

子どもの発達理解・子どもや保護者への援助のあり方、子どもの生命の尊さ、命を育むことの意義を学び温かな人間性と諸科学の理論に裏づけられた保育実践力を身につけることを到達目標とする。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web 学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

岡山市立鹿田保育所・社会福祉法人双葉会ひかり保育園に25年間勤務し、その内2年間園長を経験。その後、順正短期大学へ常勤として15年間勤務。岡山県知事より岡山県保育所巡回指導員として任命され5年間指導を行い、現在吉備国際大学非常勤として勤務。乳幼児保育に関わってきた実務経験を活かし、実践的な内容を反映する添削課題を作成し対応する。

学修の進め方

- まず教科書の熟読をしてください。
- 新聞テレビ等常に新しい情報を得てください。
- フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

第1章 乳児保育とは

- 1 乳児保育の位置付け
- 2 乳児保育(0歳児保育)の変遷
- 3 乳児保育の現状
- 4 乳児保育の様々な場

第2章 保育園における乳児保育

- 1 1日の流れ
- 2 保育の内容

第3章 満1歳未満児の保育

- 1 出生のころ
- 2 生後およそ1カ月から6カ月未満のころ
- 3 おおむね6カ月から1歳児未満のころ

第4章 満1歳児以上3歳未満児—1歳児の保育—

- 1 発育・発達の特徴
- 2 1歳半の発達の質的転換期
- 3 生活の援助
- 4 遊びの援助・環境の工夫

第5章 満1歳以上3歳未満児—2歳児の保育—

- 1 運動機能
- 2 認識機能
- 3 生活や遊びの援助

第6章 乳児保育の環境

- 1 保育における環境
- 2 基本的な環境～子どもが落ち着いて過ごせる環境をつくるために～
- 3 「保育所保育指針」に見る保育の環境

第7章 乳児保育における保健活動

- 1 健康状態の把握
- 2 乳児に多い症状
- 3 乳児期の病気と対策
- 4 薬について
- 5 事故防止と安全対策

第8章 保育の計画

- 1 保育の計画とは
- 2 保育の計画
- 3 指導計画の作成
- 4 保育士の自己評価～反省的実践者になるために～

第9章 乳児保育と連携

- 1 保育所における連携
- 2 保護者との連携
- 3 地域との連携

第10章 保育所における子育て支援

- 1 子育てをめぐる親の意識と状況
- 2 保育所保育指針に見る子育て支援
- 3 子育て・子育て支援のために

第11章 乳児保育の未来

- 1 乳児保育の使命—子どもの健全な発達の保障—
- 2 乳児保育における戦後の歩み
- 3 乳児保育の未来

乳児保育Ⅱ

専門教育科目／1単位／2年後期開講／スクーリング授業

日 時	1日目 令和3年11月6日(土) 9:30~16:40 2日目 令和3年11月7日(日) 9:30~16:40	該 当 時 間 割	A
	〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年10月29日(金) 必着		
会 場	吉備国際大学 岡山駅前キャンパス(岡山県岡山市北区岩田町2-5)		

■ 担当教員	加藤 寿美子
■ 使用テキスト	テキスト：保育とカリキュラム(11月号) 出版社：ひかりのくに出版
■ 参考テキスト	「保育所保育指針解説書」 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

講義概要・一般目標

1. 3歳未満児の発育・発達のプロセスや特性を踏まえた援助や関わりの方針について理解する。
 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。
 3. 乳児保育における配慮の実践について、具体的に理解する。
 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。
- ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭に置いた保育を示す。

到達目標

1. 乳児保育の基本
2. 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実践
3. 乳児保育における配慮の実践
4. 乳児保育における計画の実践

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

岡山市立鹿田保育所・社会福祉法人双葉会ひかり保育園に25年間勤務し、その内2年間園長を経験。その後、順正短期大学へ常勤として15年間勤務。岡山県知事より岡山県保育所巡回指導員として任命され5年間指導を行い、現在吉備国際大学非常勤として勤務。乳幼児保育に関わってきた実務経験を活かし、実践的な内容を反映する講義を行う。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

保育実習(乳児保育)に向けて指導案を立案するに当たり、保育指針を良く理解する。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

子どもの姿(発達)をよく見、何に興味・関心を持っているか又発達に合った遊びを考える

〔フィードバック〕

スクーリング最終時間で講義（授業）全体に対するフィードバックを行いません。

学 修 指 導

1 日 目	講義 1. 保育指針の理解・保育園における乳児保育の1日の流れ保育の内容
	講義 2. 0歳児のこども一人ひとりの姿のとらえ方・養護的ねらい・教育的ねらい
	講義 3. 0歳児の指導案の立案(乳児が落ち着いて過ごせる保育の環境)
	講義 4. 1歳児のこども一人ひとりの姿のとらえ方・養護的ねらい・教育的ねらい
2 日 目	講義 5. 1歳児の指導案をグループで話し合い立案・ふれあい遊び等
	講義 6. 2歳児のこども一人ひとりの姿のとらえ方・養護的ねらい・教育的ねらい
	講義 7. 2歳児の指導案を立案（安全保育）
	講義 8. 乳児保育の部分指導案を立案 科目単位認定試験(8講義のあと試験をする)

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

0・1・2歳児の11月のあそびについて

〔準備するもの〕

・『月刊 保育とカリキュラム 2021年11月号』 ひかりのくに出版（10月2日発売）
※当日、スクーリング会場にて、紀伊國屋書店が販売します。

・保育指針

〔その他〕

特になし

乳児保育Ⅲ

専門教育科目／1単位／3年前期開講／テキスト授業

■ 担当教員	加藤 寿美子
■ 使用テキスト	テキスト： 乳児の生活と保育《第3版》 著 者： 松本園子 出 版 社： ななみ書房 出 版 年： 2019年4月1日
■ 参考テキスト	「保育所保育指針解説書」 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

講義概要・一般目標

日本の風土や子育て文化、これまでの研究の成果を踏まえ、乳児が育つ過程で保育者の豊かな人間性、緻密な観察力と想像力、そして不断の努力に支えられた確かな判断力で一人ひとりの乳児に向き合い、乳児との相互作用の中で営まれていることをまず学び、乳児が育つ姿の裏側にある育ちを支える保育者のありようを学ぶ。乳児理解にとどまらず、乳児を育てている家庭との相互理解や連携を取りながら実践者として働く力、自分の実践を内省する力、そして自分自身を育てる力が備わること。

到達目標

保育者として職務に就いた時には、社会の動きを視野に入れて乳児期にある一人の人間の尊厳を守り育むことに喜びを見出し、責務とともに誇りをもって生きること、自分自身をみがくことを到達目標とする。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

岡山市立鹿田保育所・社会福祉法人双葉会ひかり保育園に25年間勤務し、その内2年間園長を経験。その後、順正短期大学へ常勤として15年間勤務。岡山県知事より岡山県保育所巡回指導員として任命され5年間指導を行い、現在吉備国際大学非常勤として勤務。乳幼児保育に関わってきた実務経験を活かし、実践的な内容を反映する添削課題を作成し対応する。

学修の進め方

- 教科書の熟読
- 地域の情報を得ること
- フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

第1章 乳児保育の意義・目的と役割

1. 「乳児保育」とはなにか
2. 乳児保育の歴史
3. 乳児保育の役割と機能—養護と教育の一体

第2章 乳児保育の現状と課題

1. 子どもと家庭を取り巻く状況
2. 乳児保育の現状
3. 乳児保育需要と待機児童

第3章 乳児保育の実際

1. 保育所における乳児保育
2. 乳児院における乳児保育
3. 家庭保育における乳児保育

第4章 3歳未満児の発育・発達をふまえた保育

1. 3歳未満児の生活と環境
2. 3歳未満児の遊びと環境
3. 3歳以上児の保育に移行する時期の保育
4. 3歳未満児の発育・発達をふまえた援助や関わり
5. 3歳未満児の発育・発達をふまえた保育における配慮

第5章 乳児保育における計画・記録・評価

1. 生活リズムと保育園の日課
2. 記録・保育日誌・家庭との連絡
3. 全体的な計画と指導計画の作成

第6章 乳児保育における連携・協働

1. 職員間の連携・協働
2. 保護者との連携・協働
3. 自治体や地域の関係機関との連携・協働

第7章 身体機能の発達と保育

1. 身体を動かす
2. 手を使う

第8章 基本的な生活習慣獲得と保育

1. 食べる
2. 排泄する
3. 眠る

第9章 対人関係の発達と保育

1. ことばで人とつながる
2. 人とかかわる

保育内容指導（人間関係）／保育内容（人間関係）

専門教育科目／1単位／2年後期開講／スクーリング授業

広島	日 時	1日目 令和3年11月6日（土）9:00～16:10 2日目 令和3年11月7日（日）9:00～16:10 〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年10月29日（金）必着	該 当 時間割	C
	会 場	広島アニマルケア専門学校／並木学院高等学校（広島県広島市中区小町）		
岡山	日 時	1日目 令和4年1月22日（土）9:30～16:40 2日目 令和4年1月23日（日）9:30～16:40 〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和4年1月14日（金）必着	該 当 時間割	A
	会 場	吉備国際大学 岡山駅前キャンパス（岡山県岡山市北区岩田町2-5）		

■ 担当教員	藤井 伊津子
■ 使用テキスト	テキスト：『幼稚園教育要領解説』 著 者：文部科学省 出 版 社：フレーベル館 出 版 年：2018年 I S B N：978-4-577-81447-5 <hr/> テキスト：『保育所保育指針解説』 著 者：厚生労働省 出 版 社：フレーベル館 出 版 年：2018年 I S B N：978-4-577-81448-2
■ 参考テキスト	テキスト：『幼保連携型認定こども園・保育要領解説（最新版）』 著 者：内閣府 文部科学省 厚生労働省 出 版 社：フレーベル館 実践記録 DVD「主体的な遊びで育つ子ども あそんでぼくらは人間になる」

講義概要・一般目標

<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所保育指針・幼稚園教育要領の保育内容「領域（人間関係）」について解説書を読み合ったりディスカッションしたりすることから理解する。 2. 保育の実践例に触れながら、情報機器及び教材の活用、話し合いやロールプレイングを通して、乳幼児が人と関わる力をいかに身につけていくかを探る。 3. 実践記録を見たり、テキストを読み合ったりしながら、領域「人間関係」と保育実践との関係について考察する。 4. 話し合いや触れ合い遊びを体験しつつ教材研究を行い、乳幼児期の発達に寄り添った関わり方を学ぶとともに指導案の作成と模擬保育を行う。
--

到達目標

<p>幼児が他の人々と親しみ、支え合って生活できるようになるために、保育に求められることは何かを理解する。</p> <p>そのためには保育内容の領域「人間関係」について理解すると共に、乳幼児との応答関係が形成されるための、保育者の関わり方や環境作りの重要性について理解する。そして、乳幼児が人と関わる力を身につけていくための現代的課題についても理解する。</p>

評価方法

定期試験（50%）、課題提出と発表および授業への参加態度（50%）により評価する。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

保育現場での勤務経験をもつ教員が、その経験を活かし保育内容について保育者としての専門性を追求する。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

乳幼児はどのような環境で育っているのか、関心を持ちましょう。親子の様子、子どもに関わる商品などから自分の子どもの頃の環境とも比較してみたりして、子ども理解を深めるよう努めましょう。

また、幼稚園教育要領や保育所保育指針及び認定こども園教育・保育要領をよみ、領域「人間関係」について概要をつかんでおきましょう。

乳幼児に伝えたい「わらべうた」をレポートし、スクーリング初日に、提出していただきます。

2日目に発表し合い、体験します。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

授業で修得した知識・専門的視点などの学修内容をより実用的で確実なものにしていくためにも常に前向きに学修する姿勢を持ち続けることが必要です。

日常生活においても子どもや子どもを取り巻く環境に関心を持って、子どもの育ちについていつも考えること、メモを取ることを心がけ、「人とかかわる力」について課題をもつようにしましょう。

また、スクーリング中に紹介した絵本やわらべうたなどをはじめ、いろいろ遊びを自分のものにしていきましょう

〔テキストの概要と学修のポイント〕

授業にあたって保育者は、先ず人間形成の基礎づくりをしている乳幼児のモデルであることを意識して、スクーリングという限られた時間の中で、学生同士がお互いにかかわり合い、学び合うことを大切にしていきたいと考えます。

テキストを読み合いながら、話し合いや触れ合い遊びを体験していく中で、乳幼児期の発達に添ったかかわり方や、人とかかわる力を育む保育について学ぶ。そして、学生自身が他者とのかかわりを通して自己をみつめ、保育者に求められる人とかかわる力についての自己の課題をつかんでいただきたい。

なお、スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対する、フィードバックを行ないます。

学修指導

1. 保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領における保育内容の領域「人間関係」について概観し、保育所保育指針を中心にグループで話し合いやまとめ作業・発表を行い、領域「人間関係」について理解を深める。
2. 養護と教育に関わる保育の内容が関連性をもつこと、5つの領域が生活や遊びを通して総合的に展開されることを理解するとともに、領域「人間関係」の視点を深める。
3. 自己紹介やグループ活動をはじめ参加型の授業なので、幼児にみられ、感じられているという意識を持って、授業に取り組むことにより、保育者として子どものモデルとなるあり様を考えたり試したりする。
4. 人とかかわる力がどのように育つのかを資料や絵本または、自分の生活体験などから考察し、乳幼児が人とかかわる力をどのようにして獲得していくのか、考察する。
5. 学生が事前にレポートした「わらべうた」を発表し合うことをとおして、わらべうたや伝承遊びの楽しさを体験しながら、乳幼児期になぜそうした遊びを体験することが重要であるかを知る。そして、遊びをとおして乳幼児が人とかかわる力を身につけていくためには、保育者としてどのような配慮が必要かを考察する。

1 日 目	講義 1 : 1. 保育内容人間関係とは 2. 幼稚園教育要領・保育所保育指針にみる領域「人間関係」
	講義 2 : 3. 領域「人間関係」の「ねらい・内容」と10の姿（情報機器及び教材の活用） 4. 乳幼児期の人と関わる力が育つ道筋と保育方法（ディスカッションと発表）
	講義 3 : 5. 幼児期前期の人と関わる力が育つ道筋と保育方法（ディスカッションと発表） 6. 幼児期後期の人と関わる力が育つ道筋と保育方法（ディスカッションと発表）
	講義 4 : 7. 保育実践記録から探る主体的な遊び（ディスカッション） 8. 保育実践記録から探る信頼関係の形成（ディスカッション）
2 日 目	講義 5 : 9. 保育実践記録から探る道徳性・規範意識の芽生え（ディスカッション） 10. わらべうたのカー-わらべ歌の心地よさと触れ合いの広がり-
	講義 6 : 11. 昔話にみる生きるカー-昔話の分析- 12. 伝承遊びを通して生まれる人と繋がるカー-体験を思い出し伝える力にする-
	講義 7 : 13. 保育における年中行事の意義-子どもの成長と伝承文化における体験-(教材研究) 14. 人と関わる力を育むための保育における指導案の作成と模擬保育
	講義 8 : 15. 人と関わる力の育成に向けて保育に求められる課題 科目認定試験

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

- ① 「わらべうた」を1曲紹介していただきますので、覚えてきてください。
* 「保育指導法・言葉」を履修している人はテキストにいくらか載っていますので、参考にしてください。
- ② その紹介していただく「わらべうた」を、A4用紙（縦置き・横書き）1枚に解説してください。
* そのまま印刷しますので、濃く書き、余白を縦・横 2.5センチずつとってください。

〔準備するもの〕

- ① 『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』
- ② ②事前課題（A4、1枚）

〔その他〕

- * 1日目に自己紹介をしていただきます。一人約2分と予定しています。内容は自由です。
- * 2日目に「わらべうた」の紹介をしあいます。動きを伴うものがあると思われるので、軽く動くことのできる服装で参加してください。

基礎技能（図画工作）

専門教育科目／1単位／1年前期開講／スクーリング授業

日 時	1日目 令和3年7月10日（土）9:30～16:40 2日目 令和3年7月11日（日）9:30～16:40	該 当 時 間 割	A
	〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年7月2日（金）必着		
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス短大12号館（岡山県高梁市伊賀町8）		

■ 担当教員	佐藤 尚宏
■ 使用テキスト	新テキスト：保育をひらく造形表現 著 者：槇 英子 出 版 社：萌文書林 出 版 年：2018年 I S B N：978-4-89347-295-3
■ 参考テキスト	スクーリング時に紹介

講義概要・一般目標

主に幼児期から小学校低学年を想定し、保育の内容と造形表現の意味・意義を理解し、子どもの生活と遊びを豊かにするために必要な造形言語と造形表現の知識や技術を実践的に習得する。また、保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。

子どもの造形活動を援助・指導するために必要な基礎的な力として、以下の3点がある。

- 1) 子どもにとっての造形表現の意味・意義を深く実感する共感力
- 2) 保育者自身の基本的な造形言語と技能の力
- 3) 技法・素材・活動の特質や意義を理解した上で活動計画に十分配慮する計画力

この授業では演習による課題製作を通して、子どもの造形活動を援助・指導するために必要な基礎的な以下の3つの力のうち、特に1) 2) を養うことをめざす。

到達目標

主に幼児期から小学校低学年を想定し、子どもの気持ちや育ちに共感できる姿勢や技能を習得する。

「1) 子どもにとっての造形表現の意味・意義を深く実感する共感力」については、子どもが造形表現活動を通してどのような喜びや面白さを感じるのかを具体的な課題製作を通して体験的に実感し、造形表現の意味・意義や表現を育む人としての姿勢を身につけることを目標とする。

「2) 保育者自身の基本的な造形言語と技能の力」については、手の働きと製作の関係、造形言語（色やかたち）の基本訓練、様々な技法・材料・道具の使い方について、課題製作を通して体験的に学び習得することを目標とする。

さらに子どもたちと楽しむ教材づくりを通して、総合的な構想力の習得を目指す。

評価方法

課題作品（素材特性の理解と活用，技術と技能，作品の完成度など）レポートなど 70%
取組姿勢（課題を楽しむ姿勢や積極性、準備と片付け、） 30%

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

美術系進学予備校での15年間にわたる指導経験を生かし、幅広く専門性の高い造形分野の課題から子どもの教育に必要な課題を選び出し体験的に学修できるカリキュラム構成を行っている。また、幼稚園・保育園・こども園での美術指導や、シュタイナー土曜クラスにおける17年にわたり小学生の美術指導の経験を生かし、子どもの発達段階に照らした課題や、子どもへの見守り方やかわり方についても配慮した指導を行っている。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

学修を深めたい人は、6章「保育をひらく造形カタログ」も事前に目を通し、わからない事や質問などを用意してスクーリング時に質問して下さい。(任意)

〔スクーリング終了後の学修事項〕

スクーリングで学修した造形表現活動の内容から、その特徴とそれらが子どもたちにどのような育ちを促すか、さらにどのような援助・指導が可能であるかについて身につけるためには、日頃からいろいろな機会を活かして子どもの姿〈言動〉や制作物を通して表面的な行為の奥の情動や背景を推し量る努力と経験を積み重ねましょう。

〔フィードバック〕

作品鑑賞時にフィードバックを行います。

★図画工作・造形表現活動の科目の全体像と各科目間の関係★

基礎技能（図画工作）S

主に幼児期から小学校低学年を想定。全ての科目の基盤となる内容。

保育者・教員として必要な子どもの造形表現活動への理解・共感する心や姿勢など、最も基本的な本質と子どもにとっての意味・意義を体感的に学修する。

基礎技能Ⅱ（図画工作）S

主に幼児期から小学校全般を想定。模擬保育・模擬授業に関係する内容。

理解・共感する心や姿勢を基にし、保育者・教員としてどのように授業づくりをすればいいのかについて、教材研究の要点や、表現の基本技能について学修する。

子どもの図画工作T

テキストは幼児教育だが、小学校全般に通用する。全ての科目の基盤となる内容。

造形表現活動の意義、表現を育む姿勢、造形を楽しむ題材、子どもの発達段階などについて、理論的側面や様々な事例から学修する。

保育指導法（表現）T

テキストは幼児教育だが、小学校全般に通用する。模擬保育・模擬授業の基盤となる内容。

実際の指導を考えるにあたっての役割や指導形態、援助について学修する。これらの内容は小学校においても図画工作科に関しては基盤となる内容であるにもかかわらず、小学校向けの学修では見落とされがちな重要な内容を取り扱っている。

保育内容指導（表現）／保育内容（表現）S、2日目

幼児期～小学校低学年を想定。グループ制作による授業づくりの演習。

子ども参加の空間デザインをテーマに壁面づくりの模擬保育（模擬授業）を行う。

初等教科教育法（図画工作）

学習指導要領と実際の授業づくりの要点について学修する。

また授業づくりでは基礎技能Ⅱ（図画工作）での教材研究の学修をベースに、各自に実際に取り組んでもらい授業のアイデアについて考察する。

子ども発達教育演習Ⅰ・Ⅱ

それまでの学修を総合し、造形表現活動をどのように実践するのかについて、自らの興味・関心からテーマをしばり、「文献調査」「実践報告」「教材製作」の3種類の研究方法で研究を進める予定。

学修指導

1 日 目	1 造形表現の本質①触覚と痕跡－粘土あそび（土粘土） ●実技「泥の感触を楽しみ、痕跡をのこす－粘土あそび」
	2 造形表現の本質②触覚と色彩－絵の具あそび（ゆび絵の具） ●実技「色彩の変化を感じて思いのまま描く－フィンガーペインティング」
	3 造形表現の本質③動きの痕跡と色彩－線描あそび（クレヨン、ブロッククレヨン） ●実技「気持ちのままに動く－クレヨンのお散歩」
	4 造形表現の本質④空間と構造－構成あそび（積木、砂、型、その他） ●実技「立体・空間－思いのままにつくって壊す」
2 日 目	5 造形表現の本質⑤（色彩と感情） ●実技「ぬらし絵－色彩にひたり感情を働かせる」
	6 保育者・教師として－技能と造形言語①手（指・手のひら）の働き ●実技「形で表す－粘土のメタモルフォーゼ」
	7 保育者・教師として－技能と造形言語③紙の加工と形態 ●実技「様々な加工と昆虫づくり」
	8 保育者・教師として－技能と造形言語④紙の加工と形態 ●実技「動物づくり」

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

●レポート課題

テキスト2章 表現を育む人になる を通読し、p15の内容を要約して持参すること。

〔準備するもの〕

汚れの気にならない服装、もしくは作業用エプロンなどを用意すること。

〔その他〕

準備室にポットがありお湯が使えます。電子レンジも使えます。

基礎技能Ⅱ（図画工作）

専門教育科目／1単位／1年後期開講／スクーリング授業

日 時	1日目 令和3年10月2日（土）9:30～16:40 2日目 令和3年10月3日（日）9:30～16:40	該 当 時間割	A
	〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年9月24日（金）必着		
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 12号館（岡山県高梁市伊賀町8）		

■ 担当教員	佐藤 尚宏
■ 使用テキスト	新テキスト：保育をひらく造形表現 著 者：槇 英子 出 版 社：萌文書林 出 版 年：2018年 I S B N：978-4-89347-295-3
■ 参考テキスト	スクーリング時に紹介

講義概要・一般目標

主に幼児期から小学生を想定し、特に授業づくりのための教材研究と表現技能を実践的に習得する。

子どもの造形活動を援助・指導するために必要な基礎的な力として、以下の3点がある。

- 1) 子どもにとっての造形表現の意味・意義を深く実感する共感力
- 2) 保育者自身の基本的な造形言語と技能の力
- 3) 技法・素材・活動の特質や意義を理解した上で活動計画に十分配慮する計画力

この授業では演習による課題製作を通して、これらの基礎的な力の中でも特に2) 3) を養うことをめざす。

到達目標

主に幼児期から小学生を想定し、授業づくりに必要な技能を習得する。

「2) 保育者自身の基本的な造形言語の理解と技法・技能を習熟すること」については、造形言語（色やかたち）の基本や、描画の指導ポイントなどを体験的に学び習得することを目標とする。

「3) 技法・素材・活動の特質や意義を理解した上で活動計画に十分配慮すること」については、技法の特徴によって子どもたちの体験の質がどう変わるのか？について具体的な課題製作から体験的に実感し、その体験をより豊かにするための授業づくりにでどのような工夫ができるのかについて考える方法を習得する。

評価方法

課題作品（素材特性の理解と活用，技術と技能，作品の完成度など）70%

取組姿勢（課題を楽しむ姿勢や積極性、準備と片付け）レポートなど30%

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

美術系進学予備校での15年間にわたる指導経験を生かし、幅広く専門性の高い造形分野の課題から子どもの教育に必要な課題を選び出し体験的に学修できるカリキュラム構成を行っている。また、幼稚園・保育園・こども園での美術指導や、シュタイナー土曜クラスにおける17年にわたり小学生の美術指導の経験を生かし、子どもの発達段階に照らした課題や、子どもへの見守り方やかわり方についても配慮した指導を行っている。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

特になし

〔スクーリング終了後の学修事項〕

スクーリングで学修した造形表現活動の内容から、その特徴とそれらが子どもたちにどのような育ちを促すか、さらにどのような援助・指導が可能であるかについて身につけるためには、日頃からいろいろな機会を活かして子どもの姿〈言動〉や制作物を通して表面的な行為の奥の情動や背景を推し量る努力と経験を積み重ねましょう。

またクロッキーなどで培う描写力は一朝一夕には身につきません。スクーリング内容をきっかけに、日々の実践を積み重ねましょう。

〔フィードバック〕

スクーリングでは鑑賞や合評の時間を設け、作品に対するフィードバックを行いません。

★図画工作・造形表現活動の科目の全体像と各科目間の関係★

基礎技能（図画工作）S

主に幼児期から小学校低学年を想定。全ての科目の基盤となる内容。

保育者・教員として必要な子どもの造形表現活動への理解・共感する心や姿勢など、最も基本的な本質と子どもにとっての意味・意義を体感的に学修する。

基礎技能Ⅱ（図画工作）S

主に幼児期から小学校全般を想定。模擬保育・模擬授業に関係する内容。

理解・共感する心や姿勢を基にし、保育者・教員としてどのように授業づくりをすればいいのかについて、教材研究の要点や、表現の基本技能について学修する。

子どもの図画工作 T

テキストは幼児教育だが、小学校全般に通用する。全ての科目の基盤となる内容。

造形表現活動の意義、表現を育む姿勢、造形を楽しむ題材、子どもの発達段階などについて、理論的側面や様々な事例から学修する。

保育指導法（表現）T

テキストは幼児教育だが、小学校全般に通用する。模擬保育・模擬授業の基盤となる内容。

実際の指導を考えるにあたっての役割や指導形態、援助について学修する。これらの内容は小学校においても図画工作科に関しては基盤となる内容であるにもかかわらず、小学校向けの学修では見落とされがちな重要な内容を取り扱っている。

保育内容指導（表現）／保育内容（表現）S、2日目

幼児期～小学校低学年を想定。グループ製作による授業づくりの演習。

子ども参加の空間デザインをテーマに壁面づくりの模擬保育（模擬授業）を行う。

初等教科教育法（図画工作）

学習指導要領と実際の授業づくりの要点について学修する。

また授業づくりでは基礎技能Ⅱ（図画工作）での教材研究の学修をベースに、各自に実際に取り組んでもらい授業のアイデアについて考察する。

子ども発達教育演習Ⅰ・Ⅱ

それまでの学修を総合し、造形表現活動をどのように実践するのかについて、自らの興味・関心からテーマをしばり、「文献調査」「実践報告」「教材製作」の3種類の研究方法で研究を進める予定。

学修指導

実際の授業づくりでは「何をするか」よりも「どのようにするか」が重要です。特に図画工作の場合は教材研究を的確に行い「どのようにするか」について、題材の魅力を感じ取り、技術・技能のポイントを掴む必要があります。

1日目の教材研究は幼児から小学生を想定した代表的な技法を体験し指導のポイントを考えます。

1日目の造形言語では造形表現に必要な基礎的な技能を学修します。

2日目は小学校中～高学年を想定した造形表現について学修します。

1 日 目	1 教材研究① 「デカルコマニー」《絵の具、画用紙》
	2 教材研究② 「折り染」《カラーインク、和紙》
	3 教材研究③ 「スクラッチ」《クレパス・クレヨン、ケント紙》
	4 教材研究④ 「フロッタージュ」「ステンシル」《蜜蝋クレヨン、和紙》《版画絵の具》
2 日 目	5 造形言語① 「線描で表す」《面相筆、墨》
	6 造形言語② 「配置構成で表す〈春夏秋冬〉」《ドットシール、色紙、配色》
	7 造形言語③ 「混色の基本と水彩表現〈味覚〉」《絵の具、紙》
	8 描写の基礎 「人物クロッキー」《鉛筆、コピー用紙》

スクーリング事前課題・準備物等

[準備するもの]

- ・汚れても気にならない服装、もしくはエプロンや作業着
- ・筆記用具（画材・材料はこちらで用意しています。）
- ・必要な人はハンドケア用品。（頻繁に手を洗う可能性が大。）

保育実習指導 I A

専門教育科目 / 1 単位 / 3 年前期開講 / スクーリング授業

日 時	1 日目 令和 3 年 5 月 23 日 (日) 9:30~16:40 2 日目 令和 3 年 5 月 29 日 (土) 9:30~16:40 [スクーリング受講中止届の提出について] 令和 3 年 5 月 14 日 (金) 必着	該 当 時間割	A
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10 号館 (岡山県高梁市伊賀町 8)		
日 時	[保育実習事後指導スクーリング] 令和 4 年 1 月 30 日 (日) 13:00~14:30	該 当 時間割	
会 場	吉備国際大学 岡山駅前キャンパス (岡山県岡山市北区岩田町 2-5)		

■ 担当教員	秀 真一郎 / 藤井 伊津子
■ 使用テキスト	テキスト：保育所実習の手引 / 保育実習日誌 著 者：岡山県保育士養成協議会 保育実習委員会 出 版 年：2021 年 ※「保育所実習の手引」「保育実習日誌」は 実習指導 I A のスクーリング時に配布します
■ 参考テキスト	テキスト：『保育所保育指針』（平成 29 年告示） 著 者：厚生労働省 出 版 年：2017 年 テキスト：『保育者への扉』（第 2 版） 著 者：澤津まり子・木暮朋佳・芝崎美和・田中卓也 編 出 版 年：2016 年

講義概要・一般目標

保育士養成課程において修得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うことを目的とする。そのためにも、保育所実習の意義・目的・内容についての理解を深め、各自の実習目的・課題を明確にする。そして、実習記録や指導案の書き方を学び、具体的な実習準備を行う。保育者としての職業倫理、特に個人のプライバシーの保護と守秘義務、子どもの人権の尊重について理解し、実習後は、実習総括・評価を行い、新たな学修目標を明確にする。

到達目標

1. 保育所実習の意義・目的について理解できている。
 2. 保育所実習の内容を理解し、自らの課題を明確に持つことができている。
 3. 保育所における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について保育者としての職業倫理が理解できている。
- 実習記録の方法が理解できており、指導案についての基本的な知識が習得できている。
実習の事後指導を通して、保育所実習の I A の総括と自己評価ができ、新たな課題や自己目標を持つことができた。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web 学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

保育現場での勤務経験を活かし、実習が充実したものになるよう実習先と連携しながら指導を行う。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

保育実習マニュアル、実習の手引き書を参考にして実習への準備をおこなうこと。

また、実習先へ送付する書類を準備し学校に提出すること。なお、スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対する、フィードバックを行ないます。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

実習に向けて、実習日誌の記入や整理、実習計画、保育教材の準備等行い実習に備えること。また、実習終了後は反省会に出席し実習の振り返りを行うと共に他の実習生と情報を共有し、今後の課題をつかむこと。

学修指導

1 日 目	講義1：実習までに準備しておきたい保育の実技（手遊びなど）・・・担当：秀
	講義2： // （絵本など）・・・担当：秀
	講義3：保育実習ⅠAの内容（保育の理解・保育所における実習の実際・実習の段階） ・・・担当：秀
	講義4：保育実習の記録・・・担当：秀
2 日 目	講義5：保育実習とは（保育所における実習の意義と目的・保育実習の流れ）・・・担当：藤井
	講義6：保育の理解と職業倫理・・・担当：藤井
	講義7：保育指導案の作成について・・・担当：藤井
	講義8：実習に向けての準備・留意点・・・担当：藤井 科目単位認定試験

※ なお、実習終了後に事後指導を行うので、出席すること。

事後指導においては、実習報告とディスカッション、自己評価等を通して、実習の総括と課題の明確化を図る。

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

①保育所とは、どのような法的根拠に基づく施設であるか、保育所の目的等調べておくこと。

②「保育所保育指針」及び、『保育所実習の手引』を読んでおくこと。

③『保育所実習の手引』を参考にして、「保育実習の意義と目的・目標」、「実習生としての心構え」について、ポイントをまとめておくこと。

④保育実習ⅠAに対する「自己課題」を記述しておくこと。

※手書きでもワープロでもよい。用紙はA4用紙、横書きのこと。

内容：1)実習ⅠAにおいて自分が学びたいと思うこと。

その課題を達成するための手立て。

2)1)の課題を達成するために、また、充実した実習になるために心がけたいこと。

⑤『保育所実習の手引』の全日指導案例（PP45～67）をどれか1日選び、同封の指導案内紙に書き写し、「評価・反省」のスペースに考察を記入し持参すること。

〔準備するもの〕

「保育実習マニュアル」、「保育所保育指針解説書」、『保育所実習の手引』
実習日誌添付用写真（横：3cm,縦：4cm）・2枚・白黒でもカラーでも可
（後日郵送等の提出でも可）

〔その他〕

「保育実習指導Ⅱ」では、お一人ずつ5歳児を対象にした製作活動の模擬保育を実施していただく予定です。テーマは、「水遊びに使うおもちゃを作ろう」です。今から準備しておいてください。

保育実習事後指導スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

「保育実習報告書」をパソコンで作成し、期限までに提出すること。

報告書の作成は「保育実習（保育所・施設）報告書の作成について」を参考にすること。実習はⅠA、ⅠB、Ⅱ、Ⅲの4種類があるので、一人3枚の報告書を作成することになる。たとえ同じ保育所でⅠAとⅡの実習を行った場合でも、2種類の報告書を作成することになる。

（1）様式設定

- ① 用紙のサイズは、A4、横書き。各報告書は1枚（1ページ）にする。
- ② 余白は、上下左右3cmで設定する。
- ③ 文字数・行数は、40字×40行で設定する。
- ④ 文字の大きさと字体は、タイトルと氏名：フォント14、MSゴシック、本文：フォント10.5、MS明朝で作成する。

（2）タイトルと氏名（MSゴシック、フォント14）

- ① 1行目タイトル（保育所名か施設名と保育実習の区分）
例「社会福祉法人〇〇会△△園での実習を終えて（保育実習Ⅲ）」
- ② 2行目をフォント10.5あける。
- ③ 3行目に学科名、学籍番号氏名を書く。

（3）本文（MS明朝、フォント10.5）

次の3つの項目について記述する。

（各項目における文字数の規定はしないが、バランスよくまとめる。）

1. 実習の内容と体験

具体的にどのような実習をおこない、どのような体験をしたか記述する。

2. 実習課題の達成度

事前に立てた課題（「実習にむけて」（実習計画書）に書いた実習課題）が達成できたかどうか。実習中に課題を変更したり新たな課題がでた場合、その理由や達成度はどうだったか記述する。

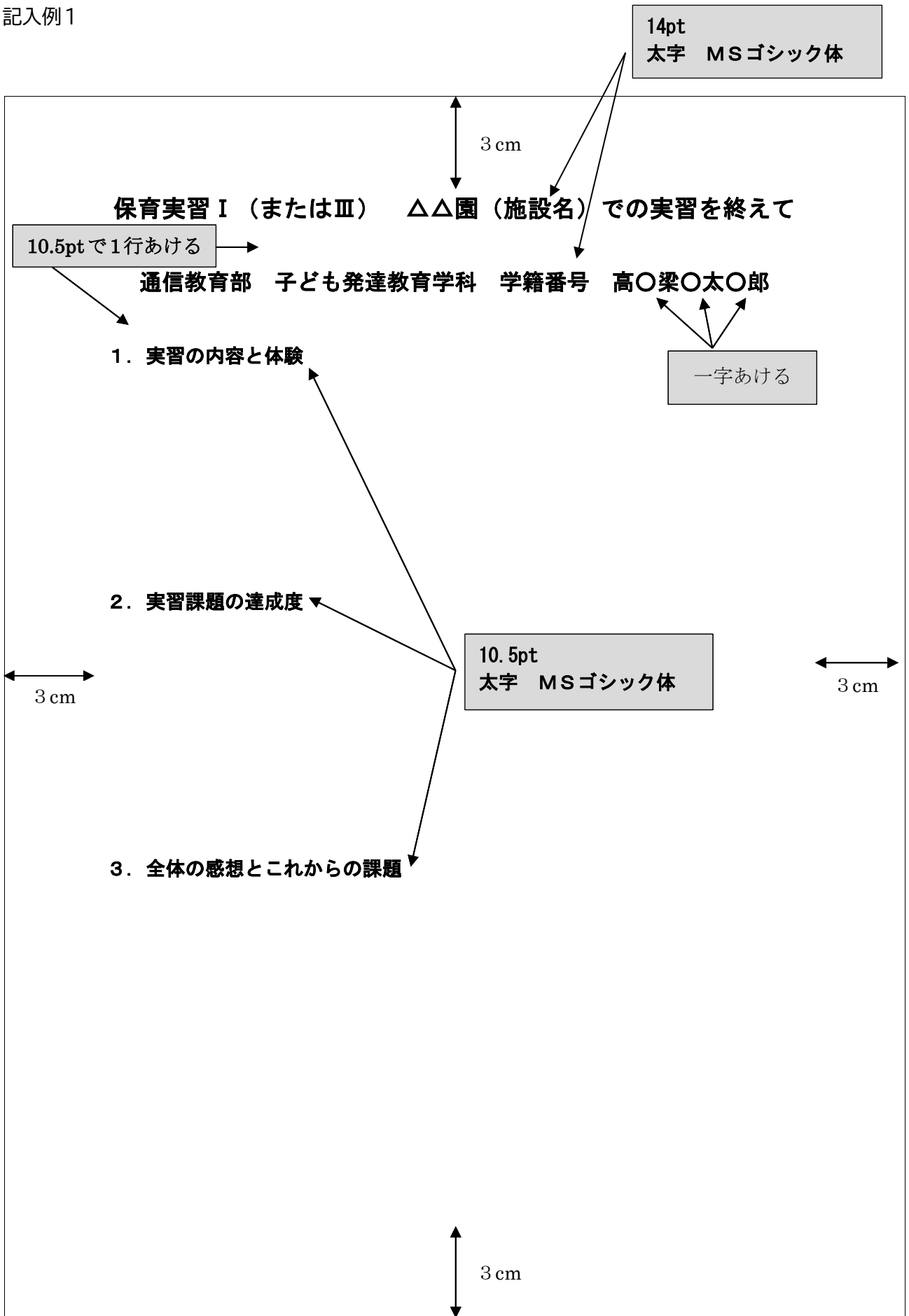
3. 全体の感想とこれからの課題

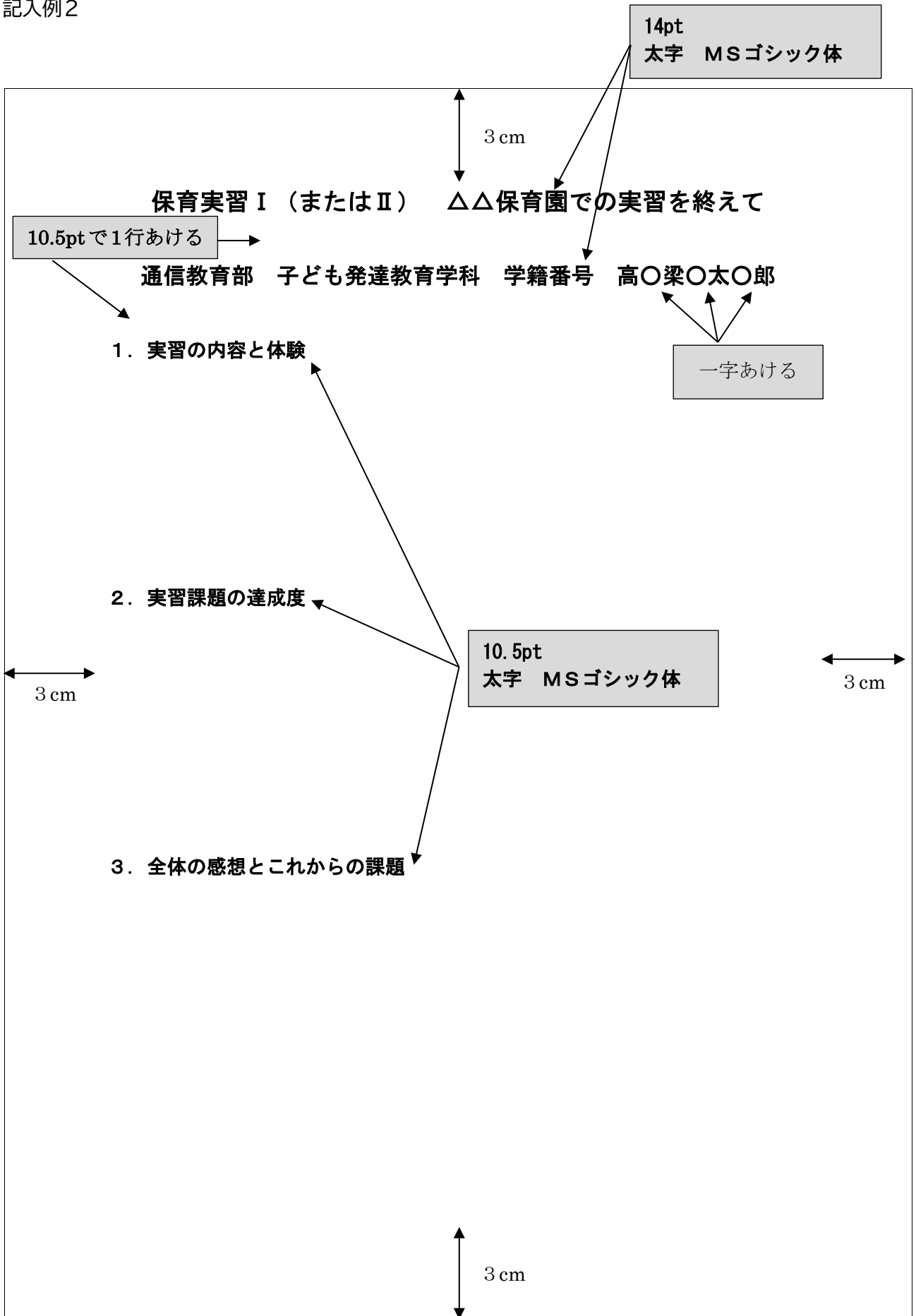
実習全体を通して何を感じ学んだか、これからの自己課題などについて記述する。

（4）実習はⅠA、ⅠB、Ⅱ、Ⅲの4種類あるので、一人3種類の報告書を作成することになる。同じ保育所や施設で実習した場合、2つに分けて報告書は作成する。たとえば、同じ保育所にⅠAとⅡとして実習した場合、ⅠAとⅡの2種類の実習報告書を作成することになる。施設の場合も同様で、ⅠBとⅢが同じ施設であっても、2種類の報告書を作成する。

（5）提出締切・提出先（スクーリング参加の有無にかかわらず、全員提出すること。）

・提出締切：令和4年1月25日（火）通信教育事務課必着





*本文は、MS 明朝、フォント 10.5 pt

〔準備するもの〕

各実習の実習日誌等、実習のふりかえりに必要な資料。
筆記用具

〔その他〕

特になし

保育実習指導 I B

専門教育科目 / 1 単位 / 3 年後期開講 / スクーリング授業

日 時	1 日目 令和 3 年 9 月 25 日 (土) 9:30~16:40 2 日目 令和 3 年 9 月 26 日 (日) 9:30~16:40 [スクーリング受講中止届の提出について] 令和 3 年 9 月 17 日 (金) 必着	該 当 時間割	A
会 場	吉備国際大学 岡山駅前キャンパス (岡山県岡山市北区岩田町 2-5)		
日 時	[保育実習事後指導スクーリング] 令和 4 年 1 月 30 日 (日) 14:40~16:10	該 当 時間割	
会 場	吉備国際大学 岡山駅前キャンパス (岡山県岡山市北区岩田町 2-5)		

■ 担当教員	中野 明子 / 藤井 伊津子		
■ 使用テキスト	テキスト：より深く理解できる 施設実習—施設種別の計画と記録の書き方— 著 者：松本 峰雄他 出 版 社：萌文書林 出 版 年：2020 年 I S B N：9784-89347-2212		
	テキスト：施設実習の手引 著 者：岡山県保育士養成協議会 出 版 年：2019 年 ※「施設実習の手引」はスクーリング授業時に配布します		
■ 参考テキスト	テキスト：「子どもが語る施設の暮らし」 著 者：子どもが語る施設の暮らし編集委員会編 出 版 社：明石書店 出 版 年：1999 年 I S B N：4-7503-1196-0		

講義概要・一般目標

福祉施設実習の意義や目的を理解する。さらに実習施設の種類や概要、各施設の役割や機能、養護内容などを学ぶ。またそれぞれの施設の現状についてもふれる。施設を利用する児童や大人がかかえる問題や障害について学び、利用者の背景にある問題（児童虐待や児童養護、障害児・者問題など）についても理解する。実際の実習において実習生が施設職員から学んでほしいこと（保育者の役割、職員の職種や役割など）や実習生が施設利用児・者の日常生活から学んでほしいこと（利用者の思いや心理状態や健康状態、家族との関係、人間関係など）についてもふれる。

到達目標

1. 保育実習 I B が対象とする福祉施設について理解し、その福祉施設で実習することの意義と目的が理解できている。
2. 保育実習 I B の実習内容が理解できており、自らの課題が明確になっている。
3. 実習先施設における利用児・者への理解が深まり、保育士としての職業倫理の重要性や職務内容が理解できている。
4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容が理解できている。
5. 実習後の指導を通して、実習の総括ができたり、自己課題が明確になっている。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web 学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

実習の手引き書やテキストを参考にして実習への準備をおこなうと共に、実習先の施設種別や個々の実習先について調べ、レポートを作成し（A4用紙3～5枚程度）、理解を深めること。

なお、スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対する、フィードバックを行ないます。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

非常に多くのことを学ぶので、学んだ内容を復習すること。また実習までの間に必要な知識は自分で調べておき、実習には万全な体制で臨むようにする。施設との連絡を行い、オリエンテーションや実習期間、必要な準備に怠りがないように気を付ける。

学修指導

1 日 目	1. 保育実習IBの目的と心構え・・・・・・・・・・・・・・・・・・（担当：中野）
	2. 実習施設の役割と機能・・・・・・・・・・・・・・・・・・（担当：中野）
	3. 施設利用児・者の理解と支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・（担当：中野）
	4. 実習計画書の作成・自己評価について・・・・・・・・・・・・・・・・・・（担当：中野）
	5. 個別支援計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・（担当：中野）
2 日 目	6. 障害理解と療育・・・・・・・・・・・・・・・・・・（担当：藤井）
	7. 実習記録の書き方・・・・・・・・・・・・・・・・・・（担当：藤井）
	8. 施設提出書類の作成と確認・・・・・・・・・・・・・・・・・・（担当：藤井）
	9. 実習の終了の仕方・・・・・・・・・・・・・・・・・・（担当：藤井）
	10. 実習に向けての最終確認・・・・・・・・・・・・・・・・・・（担当：藤井）
	11. 科目単位認定試験・・・・・・・・・・・・・・・・・・（担当：藤井）

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

レポートを作成し、スクーリング当日に持参して下さい。

授業ではその情報を元に、実習の目標設定や実習計画の立案を行います。

- 内容：①「実習先の施設種別について」（児童養護施設とは？児童発達支援センターとは？など）
②「個々の実習先について」（〇〇園について、など）

①②両方の内容を、テキストなどを参考にまとめて下さい。

様式：・A4用紙 縦置き 3～5枚

・横書き

・表紙をつけて、上記の①②のタイトル、学科、学籍番号、氏名を入れて下さい。

・できればパソコンで作成して下さい。

・参考資料やホームページも明記してください。

〔準備するもの〕

・作成したレポート・筆記用具

・「施設実習の手引」「施設実習日誌」『より深く理解できる 施設実習—施設種別の計画と記録の書き方—』萌文書林 2015年 を持参すること。

・証明書用写真（タテ4cm×ヨコ3cm）2枚

保育実習提出書類に貼付するものですので必ず持参すること（白黒でもカラーでも可）。

※2日目の藤井の担当時間に提出ください。当日までに提出済みの人は、不要です。

〔その他〕特になし。

保育実習事後指導スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

「保育実習報告書」をパソコンで作成し、期限までに提出すること。

報告書の作成は「保育実習（保育所・施設）報告書の作成について」を参考にすること。実習はⅠA、ⅠB、Ⅱ、Ⅲの4種類があるので、一人3枚の報告書を作成することになる。たとえ同じ保育所でⅠAとⅡの実習を行った場合でも、2種類の報告書を作成することになる。

（1）様式設定

- ① 用紙のサイズは、A4、横書き。各報告書は1枚（1ページ）にする。
- ② 余白は、上下左右3cmで設定する。
- ③ 文字数・行数は、40字×40行で設定する。
- ④ 文字の大きさと字体は、タイトルと氏名：フォント14、MSゴシック、本文：フォント10.5、MS明朝で作成する。

（2）タイトルと氏名（MSゴシック、フォント14）

- ① 1行目タイトル（保育所名か施設名と保育実習の区分）
例「社会福祉法人〇〇会△△園での実習を終えて（保育実習Ⅲ）」
- ② 2行目をフォント10.5あける。
- ③ 3行目に学科名、学籍番号氏名を書く。

（3）本文（MS明朝、フォント10.5）

次の3つの項目について記述する。

（各項目における文字数の規定はしないが、バランスよくまとめる。）

1. 実習の内容と体験

具体的にどのような実習をおこない、どのような体験をしたか記述する。

2. 実習課題の達成度

事前に立てた課題（「実習にむけて」（実習計画書）に書いた実習課題）が達成できたかどうか。実習中に課題を変更したり新たな課題がでた場合、その理由や達成度はどうだったか記述する。

3. 全体の感想とこれからの課題

実習全体を通して何を感じ学んだか、これからの自己課題などについて記述する。

（4）実習はⅠA、ⅠB、Ⅱ、Ⅲの4種類あるので、一人3種類の報告書を作成することになる。同じ保育所や施設で実習した場合、2つに分けて報告書は作成する。たとえば、同じ保育所にⅠAとⅡとして実習した場合、ⅠAとⅡの2種類の実習報告書を作成することになる。施設の場合も同様で、ⅠBとⅢが同じ施設であっても、2種類の報告書を作成する。

（5）提出締切・提出先（スクーリング参加の有無にかかわらず、全員提出すること。）

・提出締切：令和4年1月25日（火）通信教育事務課必着

〔準備するもの〕

各実習の実習日誌等、実習のふりかえりに必要な資料。

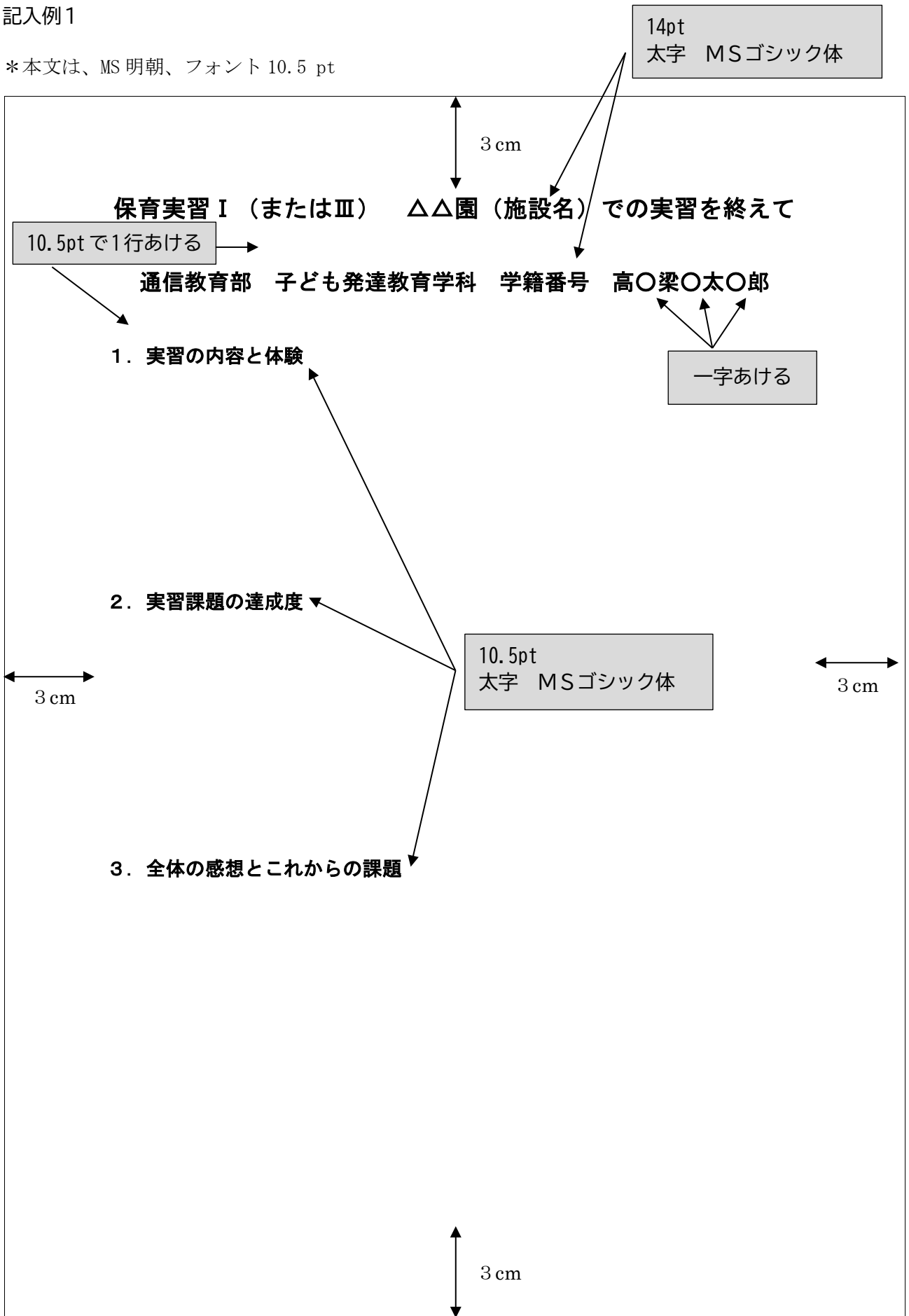
筆記用具

〔その他〕

特になし

記入例1

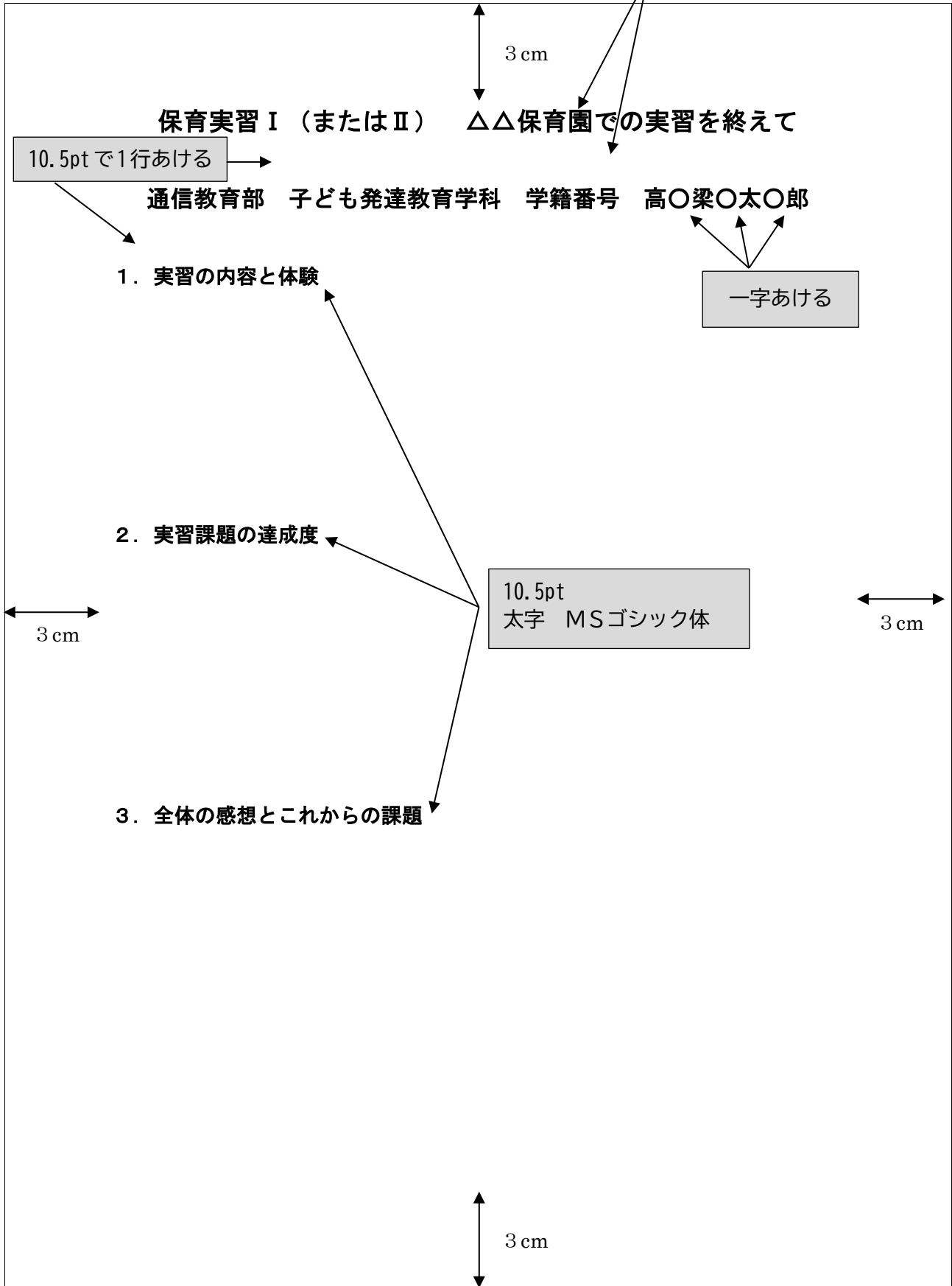
*本文は、MS 明朝、フォント 10.5 pt



記入例2

*本文は、MS 明朝、フォント 10.5 pt

14pt
太字 MSゴシック体



保育実習指導Ⅱ

専門教育科目／1単位／3年前期開講／スクーリング授業

日 時	1日目 令和3年5月30日(日) 9:30～16:40 2日目 令和3年6月5日(土) 9:30～16:40 〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年5月21日(金) 必着	該 当 時間割	A
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10号館(岡山県高梁市伊賀町8)		
日 時	[保育実習事後指導スクーリング] 令和4年1月30日(日) 13:00～14:30	該 当 時間割	
会 場	吉備国際大学 岡山駅前キャンパス(岡山県岡山市北区岩田町2-5)		

■ 担当教員	秀 真一郎／藤井 伊津子
■ 使用テキスト	テキスト：保育所実習の手引／保育実習日誌 著 者：岡山県保育士養成協議会 保育実習委員会 出 版 年：2021年 ※「保育所実習の手引」「保育実習日誌」は 実習指導ⅠAのスクーリング時に配布します
■ 参考テキスト	テキスト：『保育所保育指針』（平成29年告示） 著 者：厚生労働省 出 版 年：2017年 テキスト：『保育者への扉』（第2版） 著 者：澤津まり子・木暮朋佳・芝崎美和・田中卓也 編 出 版 年：2016年

講義概要・一般目標

保育所の保育内容の各領域とその全体を実践に照らして理解し、新保育所保育指針、「全体的な計画」のもと指導計画の体系と立案の方法などを実践に即して理解する。そのために、総合的に実践する応用能力を養い、子どもの集団を全体的にとらえる視点と、ひとりひとりの子どもの発達の方角付けを具体的に学修する。実際に自身が行う部分・全日などの指導実習の際に考慮しなければならない点や、子どもの発達成長に合った内容を立案する重要性について深く理解する。実習後においては、反省をもとにさらなる自己の課題追求を行う。

到達目標

1. 保育所の保育内容と各領域とのつながりが理解できている。
2. 保育実習Ⅱの実施にあたって、指導案を立案することができている。
3. 立案した指導案について実践の準備ができた。
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解できた。
5. 実習の事後指導を通して、保育実習Ⅱの総括と自己評価を行い、自己課題を明確にすることができた。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

担当者2名共に保育所での勤務経験があり、その経験を活かし実習が充実したものになるよう実習先と連携しながら指導を行う。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

保育実習マニュアル、実習の手引き書を参考にして実習への準備をおこなうこと。また、実習先へ送付する書類を準備し学校に提出すること。

なお、スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対する、フィードバックを行いません。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

実習に向けて、実習日誌の記入や整理、実習計画、保育教材の作成、指導案の立案等行い実習に備えること。また、実習終了後は反省会に出席し実習の振り返りを行うと共に他の実習生と情報を共有し、今後の課題をつかむこと。

学修指導

1 日 目	講義1：保育実習Ⅱの内容と準備・実習の記録・・・・・・・・・・ 担当：秀・藤井
	講義2：保育における指導計画の作成・・・・・・・・・・ 担当：秀・藤井
	講義3：各自の指導計画の発表と評価・・・・・・・・・・ 担当：秀・藤井
	講義4：模擬保育に向けて・・・・・・・・・・ 担当：秀・藤井
2 日 目	講義5：模擬保育・・・・・・・・・・ 担当：秀・藤井
	講義6：模擬保育・・・・・・・・・・ 担当：秀・藤井
	講義7：模擬保育の診断・・・・・・・・・・ 担当：秀・藤井
	講義8：実習に向けての自己課題／科目単位認定試験・・・・・・・・・・ 担当：秀・藤井

※ なお、実習終了後に事後指導を行うので、出席すること。

事後指導においては、実習報告とディスカッション、自己評価等を通して、実習の総括と課題の明確化を図る。

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

①保育所実習日誌の記入できるところ（ファイル表紙、学内オリエンテーション、自己課題）を記入しておくこと。

※ファイルは、「保育実習指導ⅠA」スクーリング時にお配りします。

※自己課題は、手書きでもワープロでもよい。用紙はA4用紙、横書きのこと。

内容：1)実習Ⅱにおいて自分が学びたいと思うこと。

その課題を達成するための手立て。

2)1)の課題を達成するために、また、充実した実習になるために心がけたいこと。

②3歳未満児を対象に、自分の行く保育園をイメージしながら「絵本」と「手遊び」の部分指導案を作成のこと。

③「水遊びに使うおもちゃを作り」をテーマに模擬保育に向けた指導案（全日）を作成のこと。

※「保育実習指導Ⅱ」では、5歳児を対象にした模擬保育を計画しています。受講生を2グループに分けて、1人ずつ保育者役になり（約45分）模擬保育をしていただきます。

〔準備するもの〕

- ① 保育所実習日誌、② 保育所実習の手引、③ 保育所保育指針、④ 動きやすく、汚れてもよい服装、⑤ 出来れば名札（実習中にエプロンにつけるフェルトなどで作ったもの。）
※アンパンマンなどアニメのキャラクター等のものでなく、オリジナルなものを作製のこと。
※ひらかなのフルネームで。

〔その他〕

特になし。

保育実習事後指導スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

「保育実習報告書」をパソコンで作成し、期限までに提出すること。

報告書の作成は「保育実習（保育所・施設）報告書の作成について」を参考にすること。実習はⅠA、ⅠB、Ⅱ、Ⅲの4種類があるので、一人3枚の報告書を作成することになる。たとえ同じ保育所でⅠAとⅡの実習を行った場合でも、2種類の報告書を作成することになる。

(1) 様式設定

- ① 用紙のサイズは、A4、横書き。各報告書は1枚（1ページ）にする。
- ② 余白は、上下左右3cmで設定する。
- ③ 文字数・行数は、40字×40行で設定する。
- ④ 文字の大きさと字体は、タイトルと氏名：フォント14、MSゴシック、本文：フォント10.5、MS明朝で作成する。

(2) タイトルと氏名（MSゴシック、フォント14）

- ① 1行目タイトル（保育所名か施設名と保育実習の区分）
例「社会福祉法人〇〇会△△園での実習を終えて（保育実習Ⅲ）」
- ② 2行目をフォント10.5あける。
- ③ 3行目に学科名、学籍番号氏名を書く。

(3) 本文（MS明朝、フォント10.5）

次の3つの項目について記述する。

（各項目における文字数の規定はしないが、バランスよくまとめる。）

1. 実習の内容と体験

具体的にどのような実習をおこない、どのような体験をしたか記述する。

2. 実習課題の達成度

事前に立てた課題（「実習にむけて」（実習計画書）に書いた実習課題）が達成できたかどうか。実習中に課題を変更したり新たな課題がでた場合、その理由や達成度はどうだったか記述する。

3. 全体の感想とこれからの課題

実習全体を通して何を感じ学んだか、これからの自己課題などについて記述する。

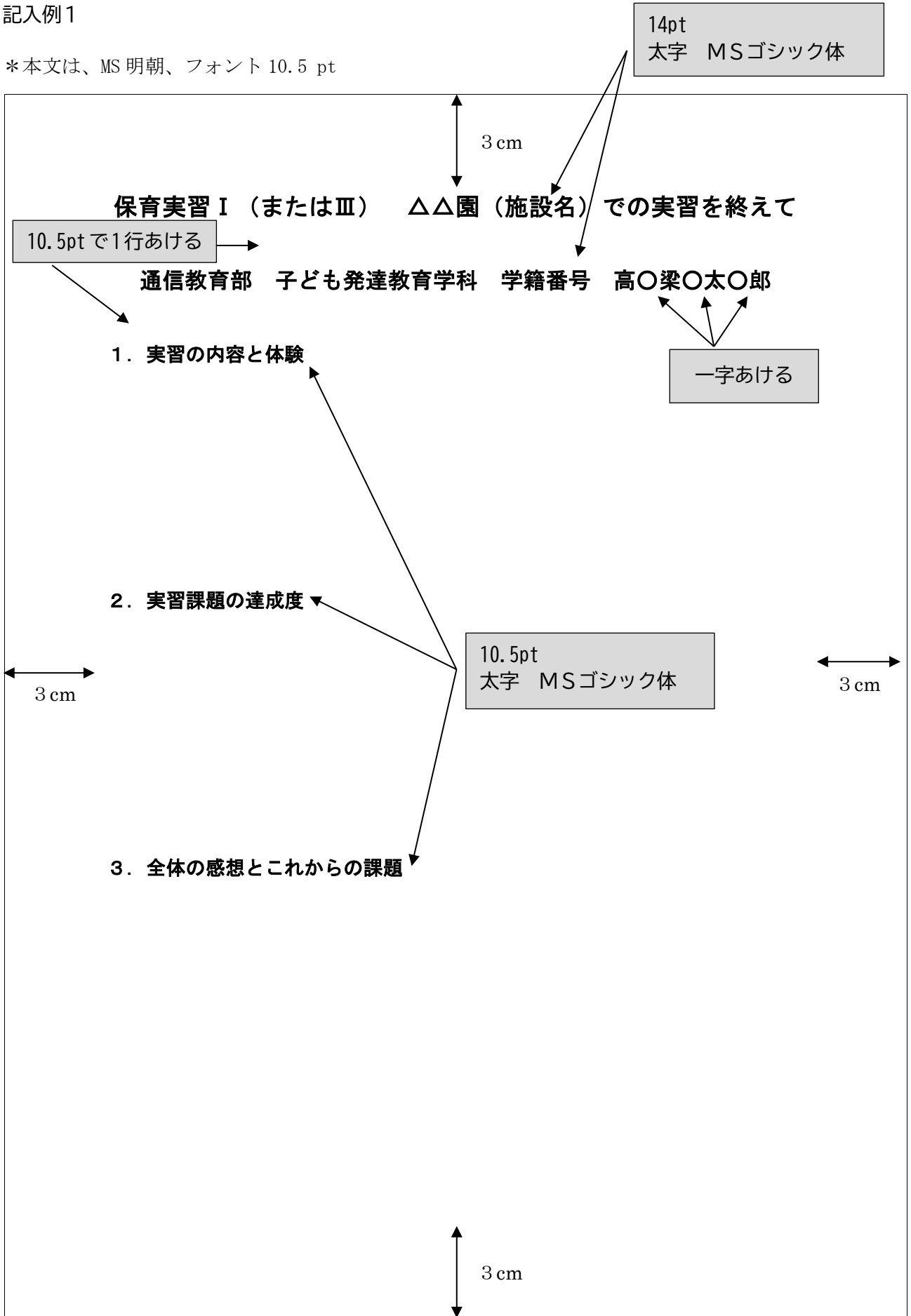
(4) 実習はⅠA、ⅠB、Ⅱ、Ⅲの4種類あるので、一人3種類の報告書を作成することになる。同じ保育所や施設で実習した場合、2つに分けて報告書は作成する。たとえば、同じ保育所にⅠAとⅡとして実習した場合、ⅠAとⅡの2種類の実習報告書を作成することになる。施設の場合も同様で、ⅠBとⅢが同じ施設であっても、2種類の報告書を作成する。

(5) 提出締切・提出先（スクーリング参加の有無にかかわらず、全員提出すること。）

・提出締切：令和4年1月25日（火）通信教育事務課必着

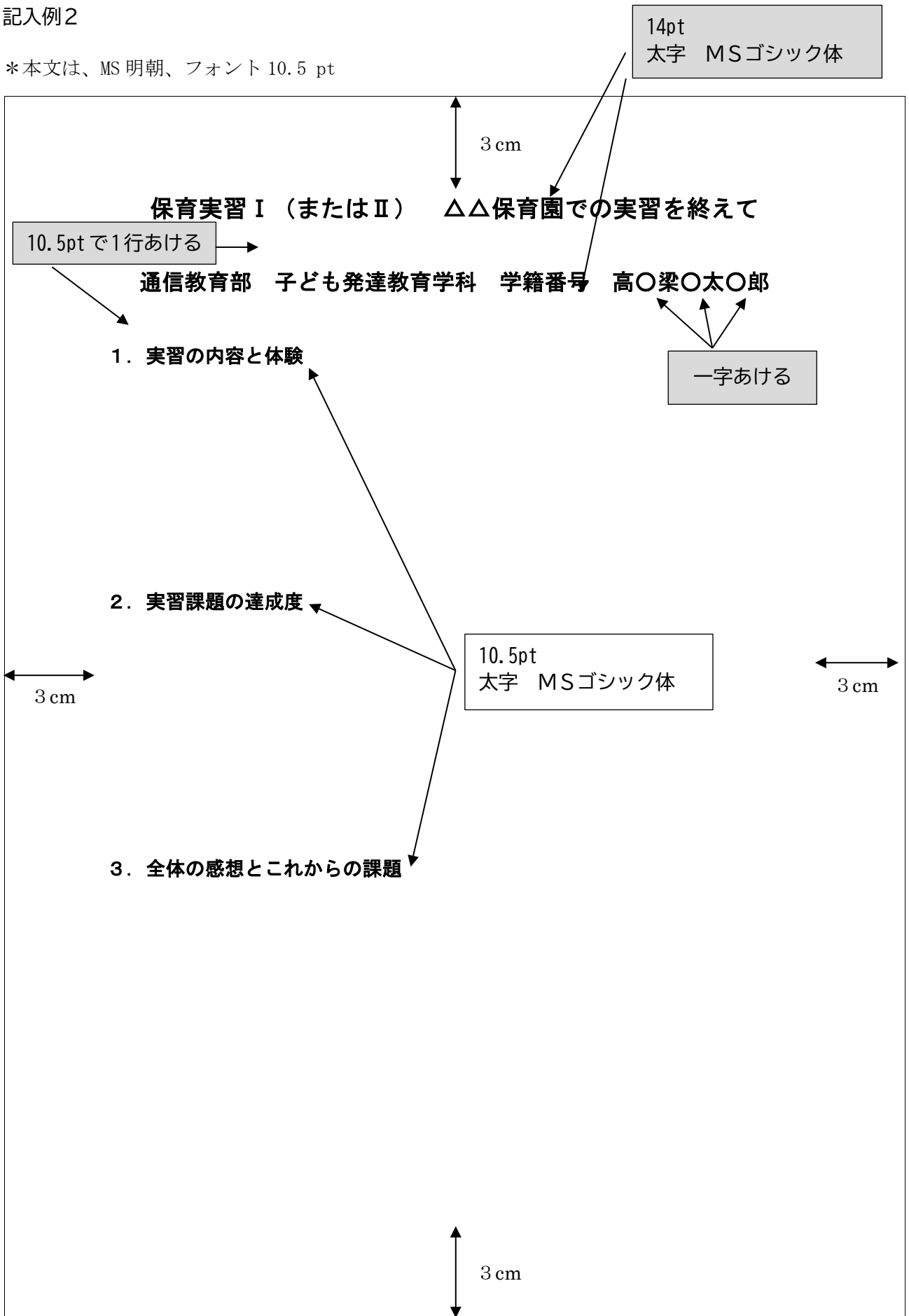
記入例1

*本文は、MS 明朝、フォント 10.5 pt



記入例2

*本文は、MS 明朝、フォント 10.5 pt



〔準備するもの〕

各実習の実習日誌等、実習のふりかえりに必要な資料。
筆記用具

〔その他〕

特になし

保育実習 I A

専門教育科目 / 2 単位 / 3 年通年開講 / 実習

■ 担当教員	秀 真一郎 / 藤井伊津子
■ 使用テキスト	テキスト：保育所実習の手引 / 保育実習日誌 著 者：岡山県保育士養成協議会 保育実習委員会 出版年：2021 年 ※「保育所実習の手引」「保育実習日誌」は 実習指導 I A のスクーリング時に配布します
■ 参考テキスト	テキスト：『保育所保育指針』（平成 29 年告示） 著 者：厚生労働省 出版年：2017 年 テキスト：『保育者への扉』（第 2 版） 著 者：澤津まり子・木暮朋佳・芝崎美和・田中卓也 編 出版年：2016 年

講義概要・一般目標

保育現場において、今までに得た知識や技術が、いかに子ども達へと実践され、機能しているかを体験する。また、実際に子どもと触れ合うことにより、より深く子どもの姿を理解、子どもと保育士との関わりを様々な視点から考察する。保育所における実際の保育士の役割を正しく理解し、保育所・家庭・地域社会の関係性の中における保育士の役割を考察する。今までに得た知識を知識として留めておくのではなく、いかに実践で役立たせるかという視点で取り組むことを求める。

到達目標

1. 保育所の役割や機能を理解することができた。
2. 観察や子どものかかわりを通して、子どもへの理解を深めることができた。
3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解することができた。
4. 保育の計画、観察、記録、自己評価について具体的に理解できている。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について体験的に学ぶことができています。

評価方法

実習先からの評価(60%)を基に巡回指導・実習日誌等(40%)から、総合的に評価する。

担当する授業科目に関連した実務経験

保育現場での勤務経験を活かし、実習先と連携して実習指導を行う。

学修の進め方

〔保育実習の事前学修事項〕

本学の「保育実習マニュアル」、岡山県保育士養成協議会作成の「保育所実習の手引」を熟読し、それらを基に学習や準備を進める。

事前に行う「保育実習指導 I A」に出席すること。

実習先の情報を入手するとともに、1ヶ月～2週間前くらいに、実習先保育所に事前の訪問を行い、実習についての事前打ち合わせ等を行い、実習に向けての準備を行う。

〔保育実習中の学修事項〕

健康管理に充分気をつけ、定められた実習時間に従い、実習先保育所において保育を学ぶ。

< 保育実習 I A における学修内容 >

1. 保育所の役割と機能
(1) 保育所の生活と一日の流れ (2) 保育所保育指針の理解と保育の展開
2. 子ども理解
(1) 子どもの観察とその記録による理解 (2) 子どもの発達過程の理解 (3) 子どもへの援助やかかわり
3. 保育内容・保育環境
(1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全
4. 保育の計画、観察、記録
(1) 「全体的な計画」と指導計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価
5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理
(1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理

〔保育実習終了後の学修事項〕

実習を振り返り保育実習Ⅱに向けての課題を明確にする。

保育実習Ⅱを履修しない者は、実習先への提出物・礼状を送付する。

年度末に開講する「保育実習事後指導」に向けてレポートを作成するとともに出席する。

学 修 指 導

学修指導については、実習期間中に行われる「実習巡回指導」や、また実習終了後に行う「実習事後指導」などで各自指導を行う。

保育実習Ⅱ

専門教育科目／2単位／3年通年開講／実習

■ 担当教員	秀 真一郎／藤井伊津子
■ 使用テキスト	テキスト：保育所実習の手引／保育実習日誌 著 者：岡山県保育士養成協議会 保育実習委員会 出 版 年：2021年 ※「保育所実習の手引」「保育実習日誌」は 実習指導ⅠAのスクーリング時に配布します
■ 参考テキスト	テキスト：『保育所保育指針解説書』 著 者：厚生労働省 出 版 年：2018年 テキスト：『明日の保育・教育にいかす 子ども文化』 著 者：田中卓也・藤井伊津子・橋爪けい子・小島千恵子 編 出 版 年：2015年

講義概要・一般目標

保育実習Ⅰで得た保育現場での知識や経験を理解し、それらを基に自らの特色を生かした保育とは何かということ、自ら構築していく。その上でも、指導案は勿論のこと日々の保育の中でも“保育の特性”を理解し、掘り取っていく。保育現場を実際に触れ、実践において必要な日々の心構え、子どもと関わる上で重要となる保育理論、そして体調管理の重要性を体験的に理解する。そして、保育実践におけるニーズに対しての理解・対応について考え、毎日の保育場面から、自己の持つ知識・経験・技術における課題を明確にし、自己解決力を身に付ける。

到達目標

1. 保育所の役割機能について、具体的な実践を通して理解を深めることができた。
2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深めることができた。
3. 既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解することができる。
4. 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について保育及び子育て支援について総合的に理解することができる。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解することができる。
6. 実習における自己の課題を明確化することができる。

評価方法

実習先からの評価(60%)を基に巡回指導・実習日誌等(40%)から、総合的に評価する。

担当する授業科目に関連した実務経験

保育現場での勤務経験を活かし、実習先と連携して実習指導を行う

学修の進め方

〔保育実習の事前学修事項〕

本学の「保育実習マニュアル」、岡山県保育士養成協議会作成の「保育所実習の手引」を熟読し、それらを基に学習や準備を進める。

事前に行う「保育実習指導Ⅱ」に出席すること。

実習Ⅰとは異なる保育所で実習する場合や、期間において実習する場合には、実習先の情報を入手するとともに、改めて1ヶ月～2週間前くらいに、実習先保育所に事前の訪問を行い、実習についての事前打ち合わせ等を行い、実習に向けての準備を行う。

〔保育実習中の学修事項〕

健康管理に充分気をつけ、定められた実習時間に従い、実習先保育所において保育を学ぶ。

<保育実習Ⅱにおける学修内容>

1. 保育所の役割や機能の具体的展開
(1) 養護と教育が一体となって行われる保育 (2) 保育所の社会的役割と責任
2. 観察に基づく保育理解
(1) 子どもの心身の状態や活動の観察 (2) 保育士等の動きや実践の観察 (3) 保育所の生活の流れや展開の把握
3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携
(1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 (2) 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 (3) 地域社会との連携・協働
4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価
(1) 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価
5. 保育士の業務と職業倫理 (1) 多様な保育の展開と保育士の業務 (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理
6. 自己の課題の明確化

〔保育実習終了後の学修事項〕

実習を振り返り自己課題を明確にする。

実習先への提出物・礼状を送付する。

年度末に開講する「保育実習事後指導」に向けてレポートを作成するとともに出席する。

学 修 指 導

学修指導については、実習期間中に行われる「実習巡回指導」や、また実習終了後に行う「実習事後指導」などで各自指導を行う。

子育て支援

専門教育科目／1単位／3年後期開講／スクーリング授業

岡山	日 時	1日目 令和3年11月13日(土) 9:30~16:40 2日目 令和3年11月14日(日) 9:30~16:40 〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年11月5日(金) 必着	該 当 時間割	A
	会 場	吉備国際大学 岡山駅前キャンパス(岡山県岡山市北区岩田町2-5)		
広島	日 時	1日目 令和3年11月27日(土) 9:00~16:10 2日目 令和3年11月28日(日) 9:00~16:10 〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年11月19日(金) 必着	該 当 時間割	C
	会 場	広島アニマルケア専門学校／並木学院高等学校(広島県広島市中区小町)		

■ 担当教員	中野 明子
■ 使用テキスト	毎回の授業ごとに、講義やワークに必要なレジュメを配布する。
■ 参考テキスト	テキスト:「保育相談支援」 著 者: 柏女霊峰・橋本真紀編著 出 版 社: ミネルヴァ書房 出 版 年: 2011年 I S B N: 978-4-623-05975-1
	テキスト:「相談援助、保育相談支援」 著 者: 笠師千恵・小橋明子 出 版 社: 中山書店 出 版 年: 2014年 I S B N: 978-4-521-73956-4

講義概要・一般目標

この授業では、保護者支援の方法について学ぶ。保育現場での保護者の抱える問題について理解し、対人援助技術であるカウンセリングやソーシャルワークの方法を学ぶ。援助者としてのコミュニケーション能力を身につけることが肝要である。面接を通して共感的かつ客観的に理解すること、信頼関係を通してクライアントを支持しながら問題解決に導いていくプロセスを知ることが大切である。事例解釈やグループワーク、エクササイズ、ロールプレイなどを用いて、対人援助技術を身につけていく。

到達目標

この科目では、子育て、子育て支援としてのカウンセリングとソーシャルワークの基礎知識を理解し、援助のための基本姿勢や実践方法を養うことができる。到達目標は、保護者面接に必要な価値観や知識、技術を身につけることである。スクーリングでは、講義の他に事例研究やエクササイズ、ロールプレイなどを用意している。体験を通して学ぶこと、身につけることを重視している。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

参考テキストのような保育相談支援に関わる文献を読んでおくと、スクーリングでの体験がより一層自分のものになります。ぜひ何か読んでください。この授業では特に親面接について学ぶことが多くなりますので、親の抱える問題やどのような相談援助が望ましいのか考えてみてください。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

スクーリングでは体験学習が多くなりますので、もう一度体験した内容や気づいたこと、指摘されたことをふりかえり、再検討してみてください。このことが自分の援助能力を高めることに貢献します。

〔学修のポイント〕

スクーリングでは以下のようなテーマについて学修する予定です。

1. 「保育相談支援」とは
2. 子どもと家庭の課題と問題
3. ソーシャルワークの援助
4. カウンセリングの援助
5. 保護者相談の方法
6. 施設における保護者への支援
7. 子どもの不適応行動
8. 育児不安の心理
9. 良好な面接と不適切な面接
10. 親面接の事例（情報の収集と問題の理解）
11. 親面接の事例（援助者の姿勢とスキル）
12. 親面接の事例（難しい保護者への対応）
13. 相談のロールプレイ（自分の傾向や課題を理解する）
14. 相談のロールプレイ（クライアントを理解する）
15. 相談のロールプレイ（援助者としてのスキルを練習する）
16. 科目単位認定試験

〔フィードバック〕

スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行ないます。

学修指導

1 日 目	講義1 保育相談支援とは
	講義2 保育相談支援の事例研究
	講義3 育児不安の心理
	講義4 子どもの不適応行動の理解
2 日 目	講義5 援助者による対応の比較研究
	講義6 親面接の方法
	講義7 親面接の事例研究
	講義8 相談ロールプレイ 科目単位認定試験

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

保育相談支援とはどのようなことなのか、事前学修をしてきてください。

〔準備するもの〕

動きやすい服装で参加してください。

〔その他〕 特になし。

子どもの国語

専門教育科目／2単位／2年前期開講／テキスト授業

■ 担当教員	雲津 英子
■ 使用テキスト	テキスト：スキルアップ！日本語力 大学生のための日本語練習帳 著者：名古屋大学日本語研究会 GK7 著 出版社：東京書籍 出版年：2009年（2018年第13刷） ISBN：978-4-487-80364-4
■ 参考テキスト	テキスト：書写指導の手引き 著者：関岡松籟 出版社：木耳社 出版年：2012年 ISBN：978-4-8393-2149-9

講義概要・一般目標

敬語・文法・漢字・文章表現など、国語の基礎的知識を身に付けるとともに、伝統的な言語文化であることわざ・慣用句などを学び、伝統的な言語文化について理解を深める。さらに、このような日本語力の獲得によって、子どもへの言葉かけ、あるいは保護者との話し方など、会話(コミュニケーション)能力の育成を図る。また、書写に関する理解を深め、幼稚園および小学校教員として必要な国語の基礎的知識を身に付ける。

到達目標

- 教師を目指す者として、敬語・文法・漢字・文章表現など、国語の基礎的知識を習得するとともに、子ども・保護者などの他者に対して正しく美しい会話表現ができる基礎的技能を身に付ける。
- 教師を目指す者として、文字を書くことの重要性に気付き、正しい筆順で字形の整った美しい文字を書くことができる。

評価方法

科目単位認定試験により評価する。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施する。

担当する授業科目に関連した実務経験

この科目は、高等学校において進路指導助手としての実務経験を持つ教員が、小論文指導（表記法、文章表現等の指導）の経験を活かし、幼稚園・小学校教員に役立つ添削課題を出題する。

学修の進め方

- ・ テキスト『スキルアップ！日本語力 大学生のための日本語練習帳』の章立てにしたがって学修を進めていく。テキストにある「資料 重要語句の確認」(第1回～第13回)もあわせて学修してほしい。各回の練習問題・応用問題の解答・解説は、Web学修支援システムを確認する。さらに、学修内容に沿って『書写指導の手引き』を参照し、添削課題及び科目単位認定試験には、『書写指導の手引き』の内容も理解して臨んでほしい。
- ・ 提出された課題レポートにコメントし、フィードバックする。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

本講義は、『スキルアップ！日本語力 大学生のための日本語練習帳』をテキストとして使用し、テキストの章立てにしたがって学修を進めていく。なお、添削課題及び科目単位認定試験には、テキスト『書写指導の手引き』の内容も理解して臨んでほしい。

■テキスト『スキルアップ！日本語力 大学生のための日本語練習帳』

※各回の練習問題・応用問題の解答・解説は、Web学修支援システムを確認すること。

第0回 はじめに

第1章 敬語

- 第1回 敬語の種類と使い分け（資料：第13回 敬語・文法 もあわせて学修すること）
- 第2回 注意すべき敬語
- 第3回 配慮を示す言葉

第2章 文法

- 第4回 品詞・活用の種類（資料：第8回 形容詞，第9回 副詞 もあわせて学修すること）
- 第5回 ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉
(資料：第13回 敬語・文法 もあわせて学修すること)
- 第6回 文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文
- 第7回 接続語・指示語と文章

第3章 語彙・言葉の意味

- 第8回 類義語・対義語（資料：第7回 対義語 もあわせて学修すること）
- 第9回 動詞の自他・視点
- 第10回 文体、話し言葉・書き言葉
- 第11回 コロケーション（資料：第10回 慣用句，第11回 ことわざ もあわせて学修すること）

第4章 漢字・表記

- 第12回 部首・音訓・熟語
(資料：第1回 漢字を書く，第2回 漢字を書く<同音異字>，
第3回 漢字を書く<同訓異字>，第4回 漢字を読む，
第12回 四字熟語 もあわせて学修すること)
- 第13回 仮名遣い・送り仮名
(資料：第5回 漢字の送りがな，第6回 表記 もあわせて学修すること)

第5章 総合問題

- 第14回 総合問題

資料 重要語句の確認

- 第1回 漢字を書く
- 第2回 漢字を書く <同音異字>
- 第3回 漢字を書く <同訓異字>
- 第4回 漢字を読む
- 第5回 漢字の送りがな
- 第6回 表記
- 第7回 対義語
- 第8回 形容詞
- 第9回 副詞
- 第10回 慣用句

- 第11回 ことわざ
- 第12回 四字熟語
- 第13回 敬語・文法

■テキスト『書写指導の手引き』

1. 文字の生いたち
漢字の生いたちとひらがな
2. 書写の用具について
硬筆書写の用具について
毛筆書写の用具，文房四宝について
3. 姿勢・執筆について
正しい姿勢と用具の持ち方
4. 漢字の字形の整え方
点画の名称とポイント
結構法と結体法
字形の整え方の基本
相譲避法と照応法
5. 筆順の指導
筆順の指導について
筆順の手びき
6. かな文字について
かなの歴史
ひらがなの指導
カタカナについて
カタカナの指導
7. 行書について
行書の特徴
行書によく調和するひらがなの書き方

付・教育漢字筆順一覧

子どもの社会

専門教育科目／2単位／2年前期開講／テキスト授業

■ 担当教員	白神 幹夫
■ 使用テキスト	テキスト：テキスト初等社会科 著者：佐藤浩樹 原口美貴子 菊地達夫 山口幸男 出版社：学文社 出版年：2019年 ISBN：978-4-7620-2914-1
■ 参考テキスト	テキスト：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編 著者：文部科学省 出版社：日本文教出版 ISBN：978-4-536-59009-9

講義概要・一般目標

小学校社会科の授業が自ら計画でき、児童を指導できるだけの力が必要となる。そのため社会科の授業構成に伴う基礎的理論や指導方法・指導技術などについて学ぶとともに、平成29年7月に告示された「小学校学習指導要領」および「小学校学習指導要領解説 社会編」についても取り扱う。

本講義では、小学校社会科教育の意義や課題、歴史、目標、学力、内容と方法、学習指導に至るまで原則的なことから、基礎的・教養的なものを整理し、小学校社会科の授業づくりの具体的な方法、学習指導ができる実践的能力を養う第一歩としたい。

到達目標

将来学校現場において社会科の授業が実践できる人材育成を目指し、小学校教員に必要な社会科の授業における基礎的知識及び実践的指導力を身につけ小学校教員採用試験に対応できるレベルをその到達目標とする。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

○ 添削課題に目を通し、正誤問題・選択問題、次いで空所補充問題にテキスト該当箇所を見つけ、解答しましょう。その際、用語に注意し正しく理解していくことが大切です。論述問題は自分の言葉で解答していくことが求められますが、解答の根拠はテキストから読み取って下さい。

○ 全問にしっかり向き合ってください。添削課題は当科目のエッセンスです。自力でテキストを学習し身につけていく際の指標にしていいただければと思います。

○ 添削課題の提出、回答が返ったら必ず添削課題の解答解説を参考にして問題を見直し、添削課題の内容はしっかり理解して全問正答できる力を身につけて下さい。そうすれば科目単位認定試験に自信を持ってのぞむことができます。

○ のぞましい教師像やのぞましい児童像におもいをいただき、当通信教育を通じて将来の夢の実現につなげていただければ幸いです。こつこつ学ぶ座学が多いですが、座学はやればやるほど成績は上がります。また、添削課題やテストをやりぬくことで、覚え間違い、勘違い等 独学で陥りやすい知識や考え方の訂正ができます。困難はあると思いますがやりぬいてください。

○ フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

第1章 社会科の本質

- 第1節 社会科（小学校）の歴史
1947年5月発行の学習指導要領社会科編Ⅰに始まる社会科変遷の歴史を解説し、平成29年版の新しい指導要領の指示について目標・内容・方法の意味をとらえる。
- 第2節 社会科の本質・目標
学校教育において「社会」を学習する根拠、教科設定の根拠に触れ、社会科が目指す究極的目標について考える。
- 第3節 社会科の内容構成
小学校社会科のカリキュラム構成原理について、同心円の拡大主義に基づく地理的、歴史的、公民的内容で構成することを基本とし、現代的な諸課題に対応する内容を取り入れて構成されていることを学ぶ。

第2章 社会科の内容

- 第1節 地域学習・郷土学習
身近な地域の教育的価値、教材としての郷土の重要性を態度目標から考える。
- 第2節 地理的学習
社会的事象の地理的な見方・考え方、特色、中学校との接続等
- 第3節 歴史的学習
時間意識の涵養と変化への認識、歴史的学習の意義を考える。
- 第4節 公民的学習
各学年での公民的学習、未来を形作る「公民的資質の基礎を養う」ことに迫る。

第3章 社会科の学習指導論

- 第1節 社会科の学習過程
問題解決学習や発見学習等社会科の学習指導論にふれ学習過程の実際を「導入」「展開」「終末」の場面から考える。
- 第2節 社会科の学習形態と学習活動
様々な学習形態と学習活動に触れ、目標に即した学習活動の工夫を可能にする。
- 第3節 社会科におけるICTの活用
さまざまなICT機器の存在とコミュニケーション手段としての活用法を考える。
- 第4節 社会科の評価
評価方法の変化と評価手法、評価の実際、課題について知る。

第4章 社会科授業づくりと実践

- 第1節 社会科授業づくりと学習指導案の作成
目標設定、学習内容の検討、児童の実態把握、授業の組み立て等事例を元に考える。
- 第2節 中学年の社会科授業実践
観察・調査活動の事例を元に考える。
- 第3節 高学年の社会科授業実践
体験活動の重視、説明したり議論したりする活動の重視、学習経験を生かした歴史の授業実践に学ぶ。
- 第4節 社会科教育と道德教育—郷土愛を例に—
「郷土の伝統・文化」に関する事例を取り上げ社会科と道德科の比較、適切な指導のあり方について考える。
- 第5節 社会科と「社会に開かれた教育課程」
コミュニティスクールを基盤に小・中一貫して取り組む防災授業の事例やESD教育の視点から学ぶ

子どもの算数

専門教育科目/2単位/2年後期開講/スクーリング授業

日 時	1日目 令和3年9月25日(土) 9:30~18:20 2日目 令和3年9月26日(日) 9:30~18:20 3日目 令和3年10月2日(土) 9:30~18:20 〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年9月17日(金) 必着	該 当 時間割	B
会 場	吉備国際大学 岡山駅前キャンパス(岡山県岡山市北区岩田町2-5)		

■ 担当教員	鳥居 恭治
■ 使用テキスト	テキスト：小学校学習指導要領(平成29年度告示)解説 算数編 著 者：文部科学省 出 版 社：日本文教出版 出 版 年：平成30年2月 テキスト：算数の基本問題 小学5年 著 者：日能研 出 版 社：みくに出版
■ 参考テキスト	指定なし

講義概要・一般目標

本講義では、算数の基礎的・基本的内容である加法、減法、乗法、除法、小数、分数、比と比例、量と測定、図形等について学習します。次に、自分で考えたり説明したりすることを学修します。また、算数の問題を解決するに当たっては、数学的な考えを基にして問題解決の方法を考察します。

本講義では具体的には、第1章 総説、第2章 算数科の目標及び内容、第3章 各学年の目標及び内容、第4章 指導計画の作成と内容の取扱いについて考察します。また、算数の基本問題小学5年の問題にも取り組みます。

算数の教案作りと模擬授業及び情報機器の活動を行います。

到達目標

- ①「数」について理解する。
- ②たし算とはどのような演算か、引き算とは、かけ算とは、わり算とは、演算そのものの意味が十分に理解する。
- ③小数、分数の意味を理解する。
- ④図形の意味が理解する。
- ⑤文字のもつよさを理解する。
- ⑥帰納的な考え方、類推的な考え方、演繹的な考え方などについて理解する。
- ⑦算数の授業作りについて理解する。

評価方法

模擬授業への取り組み方と科目単位認定試験により評価をする。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

小学校での算数科の全学年の指導経験(30年)あり。教材作りや指導案作成、模擬授業を行うことに活かす。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

使用テキスト「小学校学習指導要領(平成 29 年度告示)解説 算数編」を下記の「学修指導」に従って学習してください。なお、スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対する、フィードバックを行ないます。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

スクーリングでは、実践的指導力養成のために実践的な課題解決を学修しますので、ここでの学修を生かして、教科書の問題等に適用してください。

学修指導

スクーリング科目の学修内容は、各スクーリングに先立って配付する『スクーリングのしおり』によってお知らせします。テキストの指定がある科目については、テキストを通読するなどして事前学修を進め、科目に対する理解を深めておいてください。

〔テキストの概要と学修のポイント〕

第1章 総説

今回の学習指導要領改訂の基本方針と、育成を目指す資質・能力について、授業改善の取り組み、カリキュラム・マネジメントの推進などについて。算数科の目標の3つの柱や5つの内容構成、数学的活動についてまとめています。

第2章 算数科の目標及び内容

算数科の教科目標と学年ごとの目標についての解説がある。次に「A 数と計算」「B 図形」「C 測定（下学年）」「C 変化と関係（上学年）」「D データの活用」の5つの領域ごとのねらいや主な内容について解説されている。また、今回「算数的活動」から名称変更した「数学的活動」のねらいや内容について解説されている。

第3章 各学年の目標及び内容

ここでは、各学年の目標と身に付ける資質・能力とその解説を3つ目標ごとに解説している。その学年での4つの領域での具体的な内容とその具体的な指導方法について解説している。各学年で30ページの記述があり、ここが学習のメインとなる。

第4章 指導計画の作成と内容の取扱い

ここでは、「指導計画作成上の配慮事項」「内容の取扱いについての配慮事項」「数学的活動の指導に当たっての配慮事項」の3つについて趣旨と説明が書かれている。

〔スクーリングの計画と学修のポイント〕

1 日 目	講義 1 総説
	講義 2 算数科の目標及び内容（1）
	講義 3 算数科の目標及び内容（2）
	講義 4 数学的活動について
	講義 5 1, 2 学年の目標及び内容
2 日 目	講義 6 3, 4 学年の目標及び内容
	講義 7 5, 6 学年の目標及び内容
	講義 8 学習指導案の作成
	講義 9 板書について
	講義 10 学習指導案の作成 2

3 日 目	講義 11 学習指導と評価
	講義 12 授業及び反省・評価 1
	講義 13 授業及び反省・評価 2
	講義 14 授業及び反省・評価 3
	講義 15 授業及び反省・評価 4
	講義 16 科目単位認定試験

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

- (1) 「科目単位認定試験」には、テキストの内容が含まれますので、よく勉強しておくこと。
- (2) 「学修の手引き」に述べているように、班による模擬授業を行います。

〔準備するもの〕

テキスト、筆記用具、ものさし（できれば 30cm 以上もの）、三角定規、コンパス、分度器、ハサミ、のり、ノート、

〔その他〕

マグネット（班での模擬授業で模造紙等を黒板に貼るために使用します。第 1 日目に指示します。）

子どもの理科

専門教育科目／2単位／2年前期開講／スクーリング授業

日 時	1日目 令和3年6月6日(日) 9:30~18:20	該 当 時間割	B
	2日目 令和3年6月12日(土) 9:30~18:20		
	3日目 令和3年6月13日(日) 9:30~18:20		
	〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年5月28日(金) 必着		
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 14号館(岡山県高梁市伊賀町8)		

■ 担当教員	川上 はる江
■ 使用テキスト	テキスト：小学校学習指導要領解説 理科編 著 者：文部科学省 出 版 社：東洋館出版社 出 版 年：2017年7月 I S B N：978-4-477-01949-9
	テキスト：新しい理科 3年 出 版 社：東京書籍 I S B N：978-4-487-10553-3
	テキスト：新しい理科 4年 出 版 社：東京書籍 I S B N：978-4-487-10554-0
	テキスト：新しい理科 5年 出 版 社：東京書籍 I S B N：978-4-487-10555-7
	テキスト：新しい理科 6年 出 版 社：東京書籍 I S B N：978-4-487-10556-4
■ 参考テキスト	テキスト：幼稚園教育要領解説 著 者：文部科学省 出 版 社：東洋館出版社 出 版 年：2018年3月 I S B N：978-4-577-81447-5

講義概要・一般目標

子どもの周りにある身近なテーマを取り入れ、「子どもに分かりやすく自然の不思議を教えることができるようにすること」を目標としている。内容を4つの分野(物理、化学、生物、地学)で整理して、各分野の全体像を理解できるようにする。特に、発達段階に応じて身に付けなくてはならない問題解決能力を意識しながらグループで観察・実験を行う。演習を通して観察・実験技能を身に付ける。

幼稚園教諭を目指している人にとっては、自然への働きかけの仕方、自然を題材にしたものづくりの基礎となる内容であり、自然の捉え方、科学的な見方、考え方について理解する上で有効である。

到達目標

小学校理科の内容(物質、エネルギー、生命、地球)の各分野を系統的に構築し、基本的な知識を学修する。また、演習として実験・観察を取り入れた学修を行うことにより、自然の不思議さ、面白さを改めて実感できる。幼稚園教諭を目指す人たちにとっては、環境という視点で自然を学ぶことや科学的な見方、考え方を理解することができる。

評価方法

科目単位認定試験，実験・観察レポートにより評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施する。

担当する授業科目に関連した実務経験

小学校教員，幼稚園園長としての実務経験をもっており，具体的な実験，観察，環境構成の仕方を講義に含む。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

テキストである小学校学修指導要領解説理科編，及び理科の教科書を一読し，それぞれの学年での内容と理科の目標の関連を学修しておく。そして，身の回りの自然現象を意識して観察しておく面白い。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

出題された採用試験の最近の問題に挑戦して，内容を学習指導要領，小学校教科書等で学修する。幼稚園における，自然への働きかけの仕方，ものづくりの題材を考えるなど，実践事例集などを使用して実践的な学修をする。

〔フィードバック〕

スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行なう。

〔テキストの概要と学修のポイント〕

第1章 理科の目標及び内容

理科の目標である「自然に親しみ，見通しをもって観察，実験などを行い，問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに，自然の事物・現象についての実感を持った理解を図り，科学的な見方や考え方を養う。」が原点であることを，演習を通して学修する。

第2章 エネルギー

ゴムの働き，光の性質，磁石の性質，電気の働き，振りの運動，てこの規則性などについて学修する。特に，電気については重要なテーマであり，回路，直列つなぎ，並列つなぎ，電磁石，電流計などについて学修する。

第3章 粒子

空気の圧縮，水の三態変化，物の溶け方，水溶液の性質などについて学修する。特に，水は，温度によって液体，気体，または固体に状態が変化し，水が氷になると体積が増えることを学ぶ。さらに，水溶液の性質として酸性，アルカリ性，中性があり，水溶液には気体が溶けているものがあり，水溶液には金属を変化させるものがあることを学修する。

第4章 生命

昆虫の体のつくり，植物の体のつくり，人の体のつくりと働き，植物の発芽，成長及び結実，動物の誕生，植物の養分と水の通り道などについて学修する。特に，植物の体のつくり，成長の様子，光合成，生命の連続性などを学修する。さらに，人の主な臓器として，肺，胃，小腸，大腸，肝臓，腎臓，心臓のそれぞれの関係づけをして総合的な理解を図ることを学修する。

第5章 地球

天気の様子，月の形と動き，星の動き，流水の働き，天気の変化，土地のつくりと変化，太陽の位置などについて学修する。特に，生活との関連として天気の変化や土地のつくりと関係づけられる長雨や集中豪雨がもたらす自然災害を学ぶ。さらに，月や星のそれぞれの動きを観察して天体の

美しさを感じ取る体験の充実を図ることを学ぶ。

以上のようにテキストに記載されている内容を「エネルギー」、「粒子」、「生命」、「地球」の分野に分けて学年の枠を超えて学修する。取り上げる自然事象は、幼児教育の分野で扱う物づくりの素材となるものも多い。演習が多いので講義を通して、自然の不思議と感動が多く、改めて自然の素晴らしさを実感できる。

テキストを4学年分（3～6年）購入すると4000円ほどかかるが価値は十分ある。写真も多く、科学読み物としても楽しいものである。ただし、経済的に苦しい場合は幼稚園を希望している人は、3、4年分、小学校を希望している人は5、6年分の2冊だけでもよい。

学修指導

1 日 目	講義 1	幼児教育における自然環境の役割, 小学校理科の目標及び内容について学修
	講義 2	自然事象の不思議から課題の引き出し方 問題解決の能力とは。
	講義 3	物の燃え方 (実験演習を含む)
	講義 4	電気の働き (実験演習を含む)
	講義 5	ふりこのきまり (実験演習を含む)
2 日 目	講義 6	単元計画の書き方 (小), 環境構成の仕方 (保・幼)
	講義 7	魚の誕生 (実験演習を含む)
	講義 8	単元計画の作成 (小) 自然遊び活動計画作成 (保・幼)
	講義 9	閉じ込めた空気と水 (実験演習を含む)
	講義 10	ものの溶け方 (実験演習を含む)
3 日 目	講義 11	大地のつくり (実験演習を含む)
	講義 12	単元計画の作成 (小) 自然遊び活動計画作成 (保・幼)
	講義 13	単元計画の作成 (小) 自然遊び活動計画作成 (保・幼)
	講義 14	本時案作成 (小) 活動計画作成 (保・幼)
	講義 15	今までの講義の総括
	講義 16	科目認定試験

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

「子どもの理科」では、実験や観察、科学遊びを通して子どもに養うべき「科学的な見方、考え方」を理解できるようにします。講義予定にあげている単元の内容を教科書で確認しておいてください。

エネルギー分野

- 1) てこ, 振り子 てこのつり合いの規則性, 振り子の運動
- 2) 電気 電気の通り道, 電気の働き (乾電池の数とつなぎ方), 電流の働き (電磁石)

物質分野

- 1) 物の溶け方, 水溶液 溶ける量の限度, 水溶液の性質 (酸性, アルカリ性, 中性)
- 2) 物の燃え方 燃焼の仕組み

生命分野

- 1) 動物 昆虫, 小さな生物, めだか

地球分野

- 1) 土地のつくりと変化

[準備するもの]

小学校希望

- ・新しい理科（教科書 3～6年）東京書籍 教科書は他出版社のものでもよい
- ・文部科学省著，小学校学習指導要領解説理科編，東洋館出版社，111円(2018)，

幼保希望

- ・新しい理科（教科書3～4年のみでもよい）・幼稚園教育要領 フレーベル館

※教科書は必ず購入してください。教科書取扱い書店が決まっていますのでご注意ください。

※実験を行いますので，汚れてもよい動きやすい服装で来てください。

子どもの英語

専門教育科目/2単位/2年後期開講/スクーリング授業

日 時	1日目 令和3年12月4日(土) 9:30~18:20 2日目 令和3年12月11日(土) 9:30~18:20 3日目 令和3年12月12日(日) 9:30~18:20	該 当 時間割	B
	[スクーリング受講中止届の提出について] 令和3年11月26日(金) 必着		
会 場	吉備国際大学 岡山駅前キャンパス(岡山県岡山市北区岩田町2-5)		

■ 担当教員	池上 真由美
■ 使用テキスト	テキスト: 小学校英語はじめる教科書 著 者: 吉田研作(監修)、小川隆夫、東仁美 出 版 社: mpi 出 版 年: 2018年 I S B N: 9784896437430 (旧 ISBN: 978-4-89643-584-9)
	テキスト: 小学校学習指導要領解説 外国語活動編 外国語編 新版 著 者: 文部科学省 出 版 年: 2018年 (文部科学省ホームページよりダウンロード可)
■ 参考テキスト	テキスト: 「Let's Try! 1、2 指導編」「We Can! 1、2 指導編」 著 者: 文部科学省 出 版 年: 2018年
	テキスト: 小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ 著 者: 酒井英樹・滝沢雄一・亘理陽一 出 版 社: 三省堂 出 版 年: 2017年 I S B N: 978-4-385-36138-3

講義概要・一般目標

英語の言語的な特徴や第二言語としての習得のメカニズムを理解し、発達段階に応じた効果的な学習方法について理解を深める。

到達目標

テーマ: 小学校外国語科内容論

到達目標: 小学校で英語を教えるために必要な基礎的な知識を理解する。

評価方法

授業態度及び科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

担当者は、公立小学校において、13年間の教職経験がある。その指導経験を生かして、各講義において、実践的な演習やグループワークを行い、実際の授業で活用できる英語運用力を養う。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

お知り合いに子どもの英語の指導に携わっている人がいれば聞いてみてください。知り合いなどがいらっしゃらない場合は、インターネットなどで子どもの英語について把握しておいてください。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

自分なりに子どもの英語に触れる機会を捜してみてください。インターネットなどで情報を仕入れたり、テレビの教育番組の子どもの英語を視聴したり、地域の小学校のオープンスクールなどで実際の外国語活動や英語の授業を参観したりして、学修を深めることをお勧めします。

〔フィードバック〕

スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行いません。

学修指導

1 日 目	講義 1 オリエンテーション、小学校英語教育の変遷
	講義 2 第二言語習得理論と語用論
	講義 3 英語の音声
	講義 4 発音と綴りの関係
	講義 5 英語の文構造・文法
2 日 目	講義 6 英語の語彙
	講義 7 児童文学（絵本）
	講義 8 児童文学（子ども向けの歌や詩）
	講義 9 異文化理解
	講義 10 英語の書き方
3 日 目	講義 11 英語コミュニケーション（聞くこと）
	講義 12 英語コミュニケーション（読むこと）
	講義 13 英語コミュニケーション（話すこと）
	講義 14 英語コミュニケーション（書くこと）
	講義 15 英語コミュニケーション（領域統合型の言語活動）
	講義 16 1日目から3日目までの講義の内容を試験で問います。 科目単位認定試験

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

小学校では、新学習指導要領が令和2年度から全面実施となりました。文部科学省のホームページには、新学習指導要領や新学習指導要領解説などの資料が数多く掲載されています。また、書店の教育コーナーにも、小学校外国語活動や小学校英語に関する本や資料がたくさん並んでいます。目を通していただければ、スクーリングでの講義の理解が進むと思います。

また、移行期に各学校に配付された、「Let's Try! 1,2」と「We Can 1, 2」の指導編に目を通し、各学年の指導内容を把握しておく、講義の中で行われる演習における理解が深まります。

〔準備するもの〕

- ・使用テキスト「小学校英語はじめる教科書」「小学校学習指導要領解説（外国語），（外国語活動）」
- ・ノート・筆記用具・USB など

〔その他〕

最終日（3日目）には、英語の活動（アクティビティ）を中心に模擬授業をしていただき、学修を深めていきます。文部科学省や教育委員会などのホームページで小学校外国語活動・外国語の授業について把握しておいてください。また、お知り合いに小学校の先生や小学校外国語活動・外国語に携わっている方がおられれば、どのような授業が行われているのかを聞いておいてください。模擬授業の参考になると思います。

保育指導法（言葉）

専門教育科目／2単位／2年後期開講／テキスト授業※

■ 担当教員	藤井 伊津子
■ 使用テキスト	テキスト：『幼稚園教育要領解説』（最新版） 著者：文部科学省 出版社：フレーベル館 出版年：2018 ISBN：978-4-577-81447-5
	テキスト：保育・教育ネオシリーズ 20『保育内容・言葉』 著者：太田光洋 他 出版社：同文書院 出版年：2018（第三版） ISBN：978-4-8103-1471-7
■ 参考テキスト	テキスト：〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント 著者：汐見稔幸・無藤 隆（監修），ミネルヴァ書房編集部 出版社：ミネルヴァ書房

○2019（平成31）年度以降の入学生

この科目はテキスト科目ですが、対象者の方へは講義内容を補うスクーリングを実施します。

日 時	令和3年12月19日（日）15：30～16：30
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10号館（岡山県高梁市伊賀町8）
■ 事前提出物	課題内容については『添削課題集』に掲載しています。
■ 提出期限	令和3年11月19日（金）大学必着
■ 使用テキスト	「幼稚園教育要領解説（平成30年3月）」 文部科学省ホームページよりダウンロードができます。

講義概要・一般目標

1. 乳幼児期の言葉の発達と特性について、情報機器及び教材を活用しながら実践例や資料を基に、理解を深める。
 2. 幼稚園教育の基本を確認しつつ、領域（言葉）の「ねらい」や「内容」について学ぶ。
 3. 絵本や紙芝居等の児童文化財を学生自身が鑑賞し、保育に向けて指導法を考察する。
 4. 言葉を育む遊びについて指導計画を作成し、展開を想定する。
- なお、模擬保育は、別途実施する。

到達目標

幼児が自分なりの言葉で表現したり、相手の話を聞こうとしたりする意欲や態度、および豊かな言語感覚の基礎が育つための指導法を身に付ける。

そのために乳幼児期の言語発達の特性と幼稚園教育要領「領域（言葉）」について理解し、保育の実践に向けて具体的に想定し、保育を構想する方法を身に付ける。

評価方法

添削課題及び定期試験（100％）

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

保育現場での勤務経験をもつ教員が、その経験を活かし保育内容について保育者としての専門性を追求する。

学修の進め方

添削課題は学習のポイントにのっとなって作成しています。ポイントを押さえるつもりでテキストを読み取ったり、実際に保育教材を作成したりすることとおして、領域「言葉」の視点を踏まえた保育をイメージして下さい。また、フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

学修にあたってはテキストや『幼稚園教育要領解説』、『保育内容・言葉』を手がかりに、乳幼児がどのようにして言葉を身に付けていくのかを理解する。そして乳幼児の発達過程に添った保育実践を行うことができるようになるために、保育者は常に乳幼児のモデルであることを意識して、学生自身が豊かな人間性と美しい言葉を使用するよう努力をすると共に、豊かな文化との出会いを届けることができるようになるとうする思いで、テキストを読み、実践しながら進めていただきたい。また、自身が保育の指導計画を立案したり、実践したりして、苦勞と楽しさを感じながら取り組んでいただきたい。

テキストの章立ては以下のとおりです。学修のポイントを参考にしながら進めましょう。色々な児童文化財に実際に触れたり、試したりして体験的に学び、実践力を身に付けてください。

- 1：第1章 子どものことばと育ち（言葉の力とは）
- 2：第2章 領域「言葉」とはなにか（言葉を育む環境・領域「言葉」）
- 3：第3章 ことばはどのように育つのか（言葉の発達の基本的な道筋・保育における指導）
- 4：第4章 子どものことばと保育者 ―どう捉え、どうかかわるか―（実践事例から学ぶ）
- 5：第5章 特別な配慮が必要な子どもとの関わり
- 6：第6章 うたやふれあいを楽しむ遊び
- 7：第7章 絵とことばの豊かな世界を楽しむ ―児童文化と内容―
- 8：第8章 劇や物語を楽しむ ―児童文化と内容―
- 9：第9章 想像やことばのリズムを楽しむ ―児童文化と内容―
- 10：第10章 ごっこの世界から劇遊びへ
- 11：うた・ふれあいあそびを通して育つ言葉（指導計画の作成と展開）
- 12：絵本の分析と保育における読み聞かせの実際
- 13：紙芝居の特性と保育における実践（情報機器及び教材の活用）
- 14：ことば遊び（指導計画の作成と展開）
- 15：幼児教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」と領域「言葉」
- 16：模擬保育

※O2019（平成31）年度以降の入学生

講義内容を補うスクーリングの詳細については、『添削課題集』の「テキスト科目における指導案の作成及び模擬授業等のスクーリング実施について」をご確認ください。

初等教科教育法（国語）

専門教育科目／2 単位／2 年後期開講／テキスト授業※

■ 担当教員	雲津 英子
■ 使用テキスト	テキスト：現場で役立つ小学校国語科教育法 著者：牛頭哲宏・森篤嗣 編 出版社：ココ出版 出版年：2012 ISBN：978-4-904595-26-8 *品切れの場合は、改訂版を購入してください。 (改訂版出版後、ココ出版のホームページに改訂内容が掲載予定) テキスト：小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 国語編 著者：文部科学省 出版社：東洋館出版社 出版年：2018 ISBN：978-4-491-03462-1
■ 参考テキスト	

○2019（平成 31）年度以降の入学生

この科目はテキスト科目ですが、対象者の方へは講義内容を補うスクーリングを実施します。

日 時	令和 3 年 12 月 18 日（土）10：10～11：10
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10 号館（岡山県高梁市伊賀町 8）
■ 事前提出物	課題内容については『添削課題集』に掲載しています。
■ 提出期限	令和 3 年 11 月 19 日（金）大学必着
■ 使用テキスト	「小学校こくご 2 年下」（出版社：学校図書 ISBN：978-4-7625-5582-4） 「【国語編】小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説」 文部科学省ホームページよりダウンロードができます。

講義概要・一般目標

小学校学習指導要領に示された国語科の目標や内容を理解するとともに、国語科授業の構成理論、指導方法、指導技術について学ぶ。さらに、ICT を活用した指導方法を追究して学習指導案を作成し、模擬授業（別途実施）を行うことを通じて、実践的指導力を身に付ける。書写においては、正しい姿勢や執筆法、基本的な指導過程、評価及び作品処理の方法、教材教具の創意工夫等、小学校における書写指導に必要な力を身に付ける。

到達目標

本講義は、小学校教員に必要な国語科授業における基礎的知識の修得及び実践的指導力の育成をテーマとし、到達目標は次の 4 点とする。

- ①国語科の目標や内容を理解し、学習指導案を作成することができる。
- ②作成した学習指導案にもとづき、模擬授業を実施することができる。
- ③授業評価を適切に行い、課題を見つけ、授業内容や指導方法を改善していくことができる。
- ④デジタル教材の開発など、ICT を活用した指導方法を理解することができる。

評価方法

科目単位認定試験により評価する。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施する。

担当する授業科目に関連した実務経験

この科目は、大学図書館職員および高等学校における進路指導助手(小論文指導)としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、小学校教員に必要な図書館の利用についての知識や表記法、文章表現等の指導に役立つ添削課題を出題する。

学修の進め方

- ・本講義は、『現場で役立つ小学校国語科教育法』をテキストとして使用する。学修内容に沿って、『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』を参照し、添削課題及び科目単位認定試験には、『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』の内容も理解して臨んでほしい。ICTを活用した指導については、文部科学省のホームページを参照し、学修する。
- ・提出された課題レポートにコメントし、フィードバックする。

学修指導

【テキストの概要と学修のポイント】

本講義は、『現場で役立つ小学校国語科教育法』をテキストとして使用する。学修内容に沿って、『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』を参照し、添削課題及び科目単位認定試験には、『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』の内容も理解して臨んでほしい。

1：国語を学ぶ意義 *テキスト『現場で役立つ小学校国語科教育法』第1章、第13章

第1章 国語って、何を教える教科？

本章では、まず国語を学ぶことの意義について学修する。

- ◆ 「言葉の力」を、どのように身に付けさせ、発達させるか
- ◆ 言葉の使い方だけでなく、認識力や思考力も伸ばす
- ◆ 教科書から何を学ぶか
- ◆ 国語科における基礎・基本とは
- ◆ 自分の言葉の使い方を自分で振り返ることの大切さ

第13章 先生の言葉遣い

本章では、「学校における教師自身の言葉遣いはどうあるべきか」ということを中心に、授業中や学校生活における教師の言葉遣いについて学修する。

- ◆ 教育話法について
- ◆ 子どもと教師をつなぐのは言葉
- ◆ 教室での話法の実際
 - ・不安を取り除く言葉
 - ・誤答への対応
- ◆ 日常生活の全てがお手本だと意識して
- ◆ ロールプレイを終えて

2：国語科の目標と内容(学習指導要領の理解)

*『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』11-152頁

新学習指導要領(平成29年3月告示)における「国語科の目標と内容」について理解してほしい。

今回の学習指導要領改訂では、他教科等と同様に、国語科において育成を目指す資質・能力を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理し、それぞれに整理された目標を「知識及び技能」に関する目標、「思考力、判断力、表現力等」に関する目標、「学びに向かう力、人間性等」に関する目標として位置付けている。

これに対応して、国語科の内容の構成も改善された。旧学習指導要領(平成20年3月告示)において、国語科の内容は、「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」の3領域と〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕で構成されていたが、新学習指導要領(平成29年3月告示)では、〔知識及び技能〕及び〔思考力、判断力、表現力等〕で構成し直された。〔知識及び技能〕の内容は、「①言葉の特徴や使い方に関する事項」、「②情報の扱い方に関する事項」、「③我が国の言語文化に関する事項」から構成されている。〔思考力、判断力、表現力等〕の内容は、「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」からなる3領域の構成を維持しながら、

(1)に指導事項を、(2)に言語活動例をそれぞれ示している。

3：指導計画の作成と内容の取扱い（学習指導要領の理解）

*『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』153-169頁

新学習指導要領(平成29年3月告示)における「指導計画の作成と内容の取扱い」について理解してほしい。

- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に関する配慮事項
 - ・弾力的な指導に関する配慮事項
 - ・〔知識及び技能〕に関する配慮事項
 - ・「読書」及び「読むこと」に関する配慮事項
 - ・低学年における他教科等や幼児教育との関連についての配慮事項
 - ・外国語活動及び外国語科など、他教科等との関連についての配慮事項
 - ・障害のある児童への配慮事項
 - ・道徳科などとの関連についての配慮事項
 - ・調べる習慣を身に付ける際の内容の取扱い
 - ・ローマ字に関する事項の取扱い
 - ・他教科等と関連付けた漢字指導の取扱い
 - ・伝統的な言語文化に関する事項の取扱い
 - ・情報機器の活用に関する事項
 - ・学校図書館などの活用に関する事項
 - ・教材についての配慮事項
- など

4：学習指導案作成の方法 *テキスト『現場で役立つ小学校国語科教育法』第2章

第2章 授業時間の四十五分をどう生かすか

本章では、小学校の授業時間である45分間を有効に生かす授業の組み立て方について理解するとともに、国語科における学習指導案作成の方法について学修する。

- ◆ 指導書という便利な本があります
- ◆ 五・三十・十という授業の流れのパターン
- ◆ 十分間の振り返りタイム
- ◆ 「しつけ」「おしつけ」
- ◆ 指導案を書いてみよう
- ◆ 指導案はあくまでも「案」

5：発問・板書・机間指導・評価の方法

*テキスト『現場で役立つ小学校国語科教育法』第3章、第4章、第12章、第14章

第3章 子どもが食いつく発問のテクニックとトレーニング

本章では、多くの子どもから多様な答えを引き出し、それらの考えをつなげたり、討論させたり、新たな考えに導いたりするために重要な役割をもつ教師の発問の仕方について学修する。

- ◆ たしかめ発問のテクニック
- ◆ つっこみ発問のテクニック
- ◆ 発問のトレーニング
- ◆ 発問のトレーニング その1
- ◆ 発問のトレーニング その2
- ◆ 番外編（指示のトレーニング）

第4章 子どもの発言を目に見える形にする板書メモのテクニックとトレーニング

本章では、さまざまな考えを共有し、新たな考えをつくり出す場という意味において、教室における最大のメディアである黒板とチョークの使い方のポイントを知るとともに、板書メモのとり方を学修する。

- ◆ 黒板に書く文字は子どものお手本
- ◆ 太い線と細い線を使い分ける
- ◆ 話をするとき、板書をするとき
- ◆ 授業で使う文字は筆順チェック
- ◆ 窮屈な姿勢でも整った字が書けるように
- ◆ 行き当たりばったりの板書を防ぐ板書計画
- ◆ 日々の授業における発問と板書の計画
- ◆ 板書メモの実際
- ◆ 視覚ツールとしての黒板
- ◆ 色チョークは使い方を決めて
- ◆ 子どもの発言をどうメモするか

第12章 個人差への対応と机間巡視

本章では、個人差の把握と指導の仕方について理解するとともに、机間指導の方法を学修する。

- ◆ 個人差の把握と指導
- ◆ 三段構えの作戦
- ◆ 活動時間は日頃からパターン化する
- ◆ できる子には別メニューを用意しておく
- ◆ できない子への個別指導
- ◆ 授業についてこられない子どもへの対応
- ◆ 個別指導コーナー
- ◆ 机間指導の方法
- ◆ まず、一番早くできる子を観察する
- ◆ 机間指導を始めたら、一番心配な子を観察する
- ◆ 心配な子の様子
- ◆ 効率良く指導するための声と付せん紙の二刀流アドバイス
- ◆ 考え方や表現の違いを分類し、グループ分けをする
- ◆ 伝え合いの計画を立てる

第14章 学んだ実感を味わわせるポートフォリオ評価

本章では、ポートフォリオ評価学習活動について理解を深めるとともに、国語科における評価方法について学修する。

- ◆ 学力テストとポートフォリオ評価
- ◆ 点数だけでは表せない学力を知る手だて「ポートフォリオ評価学習活動」
- ◆ 学びの成果を複数の目によって評価する
- ◆ 指導と評価の一体化をめざして
- ◆ 場面や方法を工夫して

6: ICTを活用した指導方法

文部科学省のホームページを参照し、ICTを活用した指導について学修する。

主に、ICTの活用事例、ICT機器（電子黒板など）の活用、発達障害のある子どもたちのためのICT活用について学修する。

<検索手順>

文部科学省のホームページ

「教育の情報化の推進」 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/index.htm
(2020.12.9 最終アクセス)

↓
サイトマップ「教科指導におけるICT活用」

↓
「教員向けの指導資料等」

- ① 「活用事例」 → ・教育ICT活用実践事例（平成22～24年度）
- ② 「ICT機器」 → ・授業がもっとよくなる電子黒板活用（平成26年度）
・平成20年度「デジタルテレビ等を利用した番組活用・促進に関する調査研究（※Youtubeウェブサイトへリンク）」
- ③ 「特別支援」 → ・発達障害のある子供たちのためのICT活用ハンドブック（平成25年度）

7: 教材研究の方法と授業の展開例「読むこと」（文学的文章）

*テキスト『現場で役立つ小学校国語科教育法』第5章

*『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』第3章「各学年の内容」の【思考力、判断力、表現力等】の「C読むこと」の内容や【知識及び技能】の内容もあわせて学修する。

第5章 場面の読み取りを大切にする物語の授業

本章では、物語文の指導に必要な音読のポイントを知るとともに、場面、主人公の心情の読み取らせ方を学修する。

- ◆ 音読上手な教員をめざせ
- ◆ 子どものお手本になる音読とは
- ◆ 物語の読解の基本は、場面の読み取り
- ◆ 場面分けのルール
- ◆ 物語を大きく分ける構造読み

- ◆ 中心人物の心情の変化を読む
- ◆ クライマックスを読む
- ◆ 行動や会話を通して心情の変化を読み取らせる
- ◆ 物語の読み方指導の結末はどう締めくくするか

8：教材研究の方法と授業の展開例「読むこと」（説明的文章）

*テキスト『現場で役立つ小学校国語科教育法』第6章

*『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』第3章「各学年の内容」の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」の内容や〔知識及び技能〕の内容もあわせて学修する。

第6章 理科や社会科にならないための説明文の授業

本章では、説明文を学習することの意味を理解するとともに、説明文の指導方法について知る。

- ◆ 国語科で学習しなければ、説明文は理解できないの？
- ◆ 説明文教材は論理的な読み方や考え方を育てる基礎
- ◆ 説明文の指導の基本
- ◆ スラスラ読ませるためにはまず教師の範読から
- ◆ 形式段落を三つのまとまりに分ける
- ◆ 説明文全体の内容を大まかに把握させる
- ◆ キーワードの見つけ方と要点の整理
- ◆ 接続詞の使い方
- ◆ 説明上手な子を育てるために

9：教材研究の方法と授業の展開例「書くこと」（作文）

*テキスト『現場で役立つ小学校国語科教育法』第7章

*『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』第3章「各学年の内容」の〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」の内容や〔知識及び技能〕の内容もあわせて学修する。

第7章 書けない子でも書けるようにする作文の授業

本章では、作文を書かせるための指導法と作文の評価について学修する。

- ◆ 生活作文や行事作文は日記で
- ◆ 書かれたものから「ワザ」を見つける
- ◆ 書く学習において重要な「PISA型読解力」
- ◆ 意見文を書き終わって
- ◆ 作文の評価について

10：教材研究の方法と授業の展開例「話すこと・聞くこと」

*テキスト『現場で役立つ小学校国語科教育法』第9章

*『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』第3章「各学年の内容」の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」の内容や〔知識及び技能〕の内容もあわせて学修する。

第9章 討論や発表を楽しむ授業

本章では、プレゼンテーションやディベートで身に付ける力を理解し、その指導過程を学修する。

- ◆ プレゼンテーションやディベートでどんな力が身に付くのか
- ◆ まずは自己紹介から
- ◆ 自己紹介スピーチを終えて
- ◆ プレゼンテーション学習活動
- ◆ プレゼンテーション学習活動の実際
- ◆ ディベート学習活動
- ◆ ディベート学習活動の実際
- ◆ ディベートマッチよりも、過程にこそ意味がある

11：教材研究の方法と授業の展開例「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」

*テキスト『現場で役立つ小学校国語科教育法』第8章、第10章

*『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』第3章「各学年の内容」の〔知識及び技能〕の「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」の内容もあわせて学修する。

第8章 声に出して味わう古典の授業

本章では、小学校で古典を学ぶ目的を理解するとともに、古典の授業を工夫するポイントを学修する。

- ◆ 本格的に古典の指導が始まりました
- ◆ 声に出して読んでみよう
- ◆ どのように言葉の学びにつなげるか
- ◆ 見せる工夫
- ◆ 声の工夫
- ◆ 昔話が上手な教師を目指して
- ◆ 俳句や短歌の創作活動だけでなく鑑賞活動を大切に
- ◆ 鑑賞活動が言葉の学びを豊かにする

第10章 漢字指導は国語科指導のいろはのい

本章では、漢字の指導法（筆順・部首・とめ・はねなど）を理解するとともに、美しい字を書かせるための工夫について学修する。

- ◆ 繰り返し書かせることの苦痛
- ◆ 記号ではなく文字を書き、覚えるということ
- ◆ ドリルの活用から指導法を学ぶ
- ◆ 丁寧に書くこと
- ◆ 正しい筆順で書くこと
- ◆ 部首を確認すること
- ◆ とめ・はね・はらいに気を付けて書くこと
- ◆ 長い・短いを間違えないこと
- ◆ 文章で覚えさせる
- ◆ 美しい文字を書かせるために
- ◆ 漢字指導は国語科教育の「いろはのい」

12：書写指導の方法

*テキスト『現場で役立つ小学校国語科教育法』第11章

*『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』第3章「各学年の内容」の【知識及び技能】の「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」の内容もあわせて学修する。

第11章 字の形と書く速さを意識する書写の授業

本章では、書写の目的を知るとともに、硬筆書写・毛筆書写の指導方法を学修する。

- ◆ 書写なんて必要ないって思っていないですか？
- ◆ 硬筆書写 最初に何を教える？
- ◆ 「くつ」を書く
- ◆ 毛筆書写の指導
- ◆ 教師として身に付けておきたい技能
- ◆ 毛筆と硬筆とは連携している
- ◆ 正しいこと・整っていること・速く書けること

13：模擬授業と授業評価（第1グループ）※

14：模擬授業と授業評価（第2グループ）※

15：模擬授業と授業評価（第3グループ）※

第13～15回の授業内容「模擬授業と授業評価」については、スクーリングで実施予定である。

※○2019（平成31）年度以降の入学生

講義内容を補うスクーリングの詳細については、『添削課題集』の「テキスト科目における指導案の作成及び模擬授業等のスクーリング実施について」をご確認ください。

初等教科教育法（理科）

専門教育科目／2 単位／2 年後期開講／テキスト授業※

■ 担当教員	川上 はる江
■ 使用テキスト	テキスト：小学校学習指導要領解説 理科編 新版 著 者：文部科学省 出 版 社：東洋館出版社 出 版 年：2018 年 2 月 I S B N：9784491034638
■ 参考テキスト	テキスト：「自分事の問題解決」をめざす理科授業 著 者：村山哲哉 出 版 社：図書文化 I S B N：978-4-8100-3640-4 テキスト：小学校教科書「新しい理科」3～6 年 出 版 社：東京書籍株式会社 出 版 年：2015 年 I S B N：978-4-487-10456-7（6 年）

○2019（平成 31）年度以降の入学生

この科目はテキスト科目ですが、対象者の方へは講義内容を補うスクーリングを実施します。

日 時	令和 3 年 12 月 18 日（土）14：20～15：20
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10 号館（岡山県高梁市伊賀町 8）
■ 事前提出物	課題内容については『添削課題集』に掲載しています。
■ 提出期限	令和 3 年 11 月 19 日（金）大学必着
■ 使用テキスト	「わくわく理科 5」（出版社：啓林館） 「【理科編】小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説」 文部科学省ホームページよりダウンロードができます。

講義概要・一般目標

本講義は、理科の授業を構想し展開する力を付けることを目標にしている。理科の授業をするためには、学習内容の系統性や基礎的な実験技能、児童理解、単元や授業の構成法、授業評価が必要である。この授業では、学習指導要領解説理科編を通して（1）理科教育の目標と構造、（2）授業を通して身に付けさせたい科学的な見方や考え方、（3）理科授業の配慮事項、（4）理科の評価、（5）理科の現代的課題について学修する。

到達目標

理科教育の目標と構造を把握すると共に、小学校理科の目標と内容を学年ごとに理解し、理科の単元計画、授業構成指導案作成ができるようにする。

評価方法

科目単位認定試験による評価

オフィスアワー（学生の問い合わせ・相談に応じる時間）

Web 学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施する。

担当する授業科目に関連した実務経験

小学校教員の実務経験があり、スクーリング（教育実習指導）の模擬授業で授業構成の仕方、指導方法を講義する。

そして添削課題にその内容は反映させる。

学修の進め方

1. 添削課題出題の意図及び課題の進め方

添削課題は、主に「学習指導要領解説 理科編」から出している。添削課題には、理科教育の基礎となる知識や考え方を問う問題と記述式問題がある。知識を問う問題は、理科教育の基本的な考え方や各学年で身に付けさせたい科学的な見方や考え方とその内容、配慮事項等について出題する。

記述問題の配点を多くしているのので、必ず書くこと。

2. 添削課題をまとめるにあたっての留意点

学習指導要領の各学年の目標及び内容を熟読しておくことが大切である。最初の四角のなかに、単元で身に付けさせたい資質、能力について書いてあるので、よく理解した上で、内容を読み進めると添削課題がまとめやすい。

3. 効果的な学修の方法

参考テキストは「学習指導要領解説 理科編」と関連付けながら読み進めると効果的である。また、理科の教科書のどのページでも良いので開き、学習指導要領解説の内容を読むと要点を覚えやすい。特に記述式の問題対策は、計画的に章を決めて読み進めることを望む。

4. フィードバックについて

フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返す。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

第1章 理科の目標及び内容

理科の目標である「自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物・現象についての実感を持った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。」が原点であることを学修する。

第2章 第3学年「物質・エネルギー」の内容と指導方法

5つの項目（(1)物と重さ、(2)風やゴムの働き、(3)光の性質、(4)磁石の性質、(5)電気の通り道）について学修を深める。

物の重さ、風やゴムの力並びに光、磁石及び電気を働かせたときの現象を比較しながら調べ、見いだした問題を追究することによって、それらの性質や働きについての教え方を学修する。

第3章 第3学年「生命・地球」の内容と指導方法

3つの項目（(1)昆虫と植物、(2)身近な自然の観察、(3)太陽と地面の様子）について学修を深める

身近に見られる動物や植物、日なたと日陰の地面を比較しながら調べ、見いだした問題を興味・関心をもって追究する活動を通して、生物を愛護する態度を育てるとともに、生物の成長のきまりや体のつくり、生物と環境とのかかわり、太陽と地面の様子との関係についての教え方を学修する。

第4章 第4学年「物質・エネルギー」の内容と指導方法

3つの項目（(1)空気と水の性質、(2)金属、水、空気と温度、(3)電気の働き）について学修を深める。

空気や水、物の状態変化、電気による現象を力、熱、電気の働きと関係付けながら調べ、見いだした問題を興味・関心をもって追究することによって、それらの性質や働きについての教え方を学修する。

第5章 第4学年「生命・地球」の内容と指導方法

4つの項目（(1)人の体のつくりと運動、(2)季節と生物、(3)天気の様子、(4)月と星）について学修を深める。

人の体のつくり、動物の活動や植物の成長、天気の様子、月や星の位置の変化を運動、季節、気温、時間など関係付けながら調べ、見いだした問題を興味・関心をもって追究することによって、人の体のつくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境とのかかわり、気象現象、月や星の動きについての教え方を学修する。

第6章 第5学年「物質・エネルギー」の内容と指導方法

3つの項目（(1)物の溶け方, (2)振り子の運動, (3)電流の働き）について学修を深める。

物の溶け方, 振り子の運動, 電磁石の変化や働きをそれらにかかわる条件に目を向けながら調べ, 見いだした問題を計画的に追究することによって, 物の変化の規則性についての教え方を学修する。

第7章 第5学年「生命・地球」の内容と指導方法

4つの項目（(1)植物の発芽, 成長, 結実, (2)動物の誕生, (3)流水の働き, (4)天気の変化）について学修を深める。

植物の発芽から結実までの過程, 動物の発生や成長, 流水の様子, 天気の変化を条件, 時間, 水量, 自然災害などに目を向けながら調べ, 見いだした問題を計画的に追究することによって, 生命を尊重する態度を育てるとともに, 生命の連続性, 流水の働き, 気象現象の規則性についての教え方を学修する。

第8章 第6学年「物質・エネルギー」の内容と指導方法

4つの項目（(1)燃焼の仕組み, (2)水溶液の性質, (3)てこの規則性, (4)電気の利用）について学修を深める。燃焼, 水溶液, てこ及び電気による現象についての要因や規則性を推論しながら調べ, 見いだした問題を計画的に追究することによって, 物の性質や規則性についての教え方を学修する。

第9章 第6学年「生命・地球」の内容と指導方法

5つの項目（(1)人の体のつくりと働き, (2)植物の養分と水の通り道, (3)生物と環境, (4)土地のつくりと変化, (5)月と太陽）について学修を深める。

生物の体のつくりと働き, 生物と環境, 土地のつくりと変化の様子, 月と太陽の関係を推論しながら調べ, 見いだした問題を計画的に追究することによって, 生命を尊重する態度を育てるとともに, 生物の体の働き, 生物と環境とのかかわり, 土地のつくりと変化のきまり, 月の位置や特徴についての教え方を学修する。

第10章 指導計画の作成と内容の取扱い

以下に示す内容に留意した指導案づくりの仕方を学修する。

- (1) 各学年の内容を通じて観察, 実験や自然体験, 科学的な体験を充実させることによって, 科学的な知識や概念の定着を図り, 科学的な見方や考え方を育成する指導案づくりを学修する。
- (2) 観察, 実験の結果を整理し考察する学修活動や, 科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりするなどの学修活動が充実する指導案づくりを学修する。
- (3) 観察, 実験, 栽培, 飼育及びものづくりの指導については, 指導内容に応じてコンピュータ, 視聴覚機器などを適切に活用した教え方を学修する。また, 事故の防止を学修する。
- (4) 生物, 天気, 川, 土地などの指導については, 野外に出掛け地域の自然に親しむ活動や体験的な活動を取り入れ, 自然環境を大切に, その保全方法を学修する。
- (5) 児童が主体的に問題解決活動を進めて, 学修の成果と日常生活との関連を図る方法を学修する。

単元計画, 指導案の作成, 模擬授業については, スクーリングで実施予定である。※

※○2019（平成31）年度以降の入学生

講義内容を補うスクーリングの詳細については、『添削課題集』の「テキスト科目における指導案の作成及び模擬授業等のスクーリング実施について」をご確認ください。

初等教科教育法（生活）

専門教育科目／2単位／3年後期開講／テキスト授業※

■ 担当教員	栗田 喜勝
■ 使用テキスト	テキスト：小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 生活編 著者：文部科学省 出版社：東洋館出版社(書店販売・注文可) 出版年：2018年 ISBN：978-4-491-03464-5
■ 参考テキスト	小林芳郎編「子どもを育む心理学」保育出版社 中山正雄編「実践から学ぶ社会的養護」保育出版社 寺見陽子編「子育て・子育て支援学」保育出版社 高井由起子編「子どもと家族をアシストする相談援助」保育出版社 小川修一著「こうすればできる！授業の技術と実践 生活科1・2年」株式会社ルック ※保育出版社発行書については、教育情報出版直販のみ（TEL06-6658-8741）

○2019（平成31）年度以降の入学生

この科目はテキスト科目ですが、対象者の方へは講義内容を補うスクーリングを実施します。

日時	令和3年12月19日（日）9：00～10：00
会場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10号館（岡山県高梁市伊賀町8）
■ 事前提出物	課題内容については『添削課題集』に掲載しています。
■ 提出期限	令和3年11月19日（金）大学必着
■ 使用テキスト	「新しい生活 下」（出版社：東京書籍 ISBN：978-4-487-11561-7） 「【生活編】小学校学習指導要領（平成29年告示）解説」 文部科学省ホームページよりダウンロードができます。

講義概要・一般目標

本講では、子供の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解させるとともに、「生活科」の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法(教材研究)を理解させ、授業設計に活用することができる能力を涵養する。また、学習指導案の構成を理解させ、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成する力を育む。なお、模擬授業は別途実施する。

到達目標

本講義は小学校教諭一種免許状取得のための必修科目であるが、小学校学習指導要領に定められた「生活科」の目標及び主な内容並びに全体構造の理解をテーマとして、①「生活科」の学習内容について指導上の留意点を理解している、②「生活科」の学習評価の考え方を理解している、③「生活科」と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができることを到達目標とする。

評価方法

学習状況確認のための添削課題及び学期末の定期試験(100%)

なお、添削課題については学習の発展に資するために、確認後、所見(コメント)を付してフィードバックするので参考にすること。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

児童養護施設の主任児童指導員・副園長として小学生の園内学習指導(生活科)に従事した。このような経験を踏まえ、生活科の学習指導の実践例を交えた授業を行い、履修学生の理解を深めさせる。

学修の進め方

〔添削課題出題の意図及び課題の進め方(学び方)について〕

本科目の添削課題については、専門知識修得状況確認のための①正誤解答式課題、②用語補充式課題、ならびに思考力・考察力確認のための③論述式課題の三部からなっており、多面的に学修内容の理解度を確認できるように構成されています。したがって、課題に取り組むためには、使用テキストの各章を熟読して、学びのキーワードとその意味について理解するとともに、章のテーマ・主題について考察を深めることが求められます。

〔フィードバック〕

フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを記載し返却します。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

第1章 総説

平成20年3月に学校教育法施行規則の一部改正と小学校学習指導要領の改訂が行われ、平成23年度から新小学校学習指導要領が全面的に実施されているが、この章では、小学校学習指導要領「生活科」の改訂における趣旨について、(1)改訂の経緯、(2)生活科改訂の趣旨として①生活科改訂の基本方針、②改善の具体的事項について、(3)生活科改訂の要点について①目標の改善、②内容及び内容の取り扱いの改善について理解する。

第2章 生活科の目標

第1節 教科目標

(1) 教科目標の構成

ここでは生活科の教科目標について、次の五つの構成要素を通じて理解する。①具体的な体験や活動を通すこと、②自分と身近な人々、社会及び自然との関わりに関心を持つこと、③自分自身や自分の生活について考えること、④生活上必要な習慣や技能を身に付けること、⑤自立への基礎を養うこと。

(2) 教科目標の趣旨

ここでは、上記(1)の五つの構成要素について、それらの趣旨について詳しく学ぶ。

第2節 学年の目標

学年の目標は、教科目標をより具体的・構造的に示したものであり、第2学年修了までに実現することを目指している。

(1) 学年の目標の設定

ここでは、①2学年に共通する目標の設定、②学年の目標を構成する四つの項目について学ぶ。

(2) 学年の目標の趣旨

学年の目標を構成する四つの項目の趣旨について学ぶ。

第3章 生活科の内容

第1節 内容構成の考え方

(1) 内容構成の基本的な視点と具体的視点

内容構成の基本的な視点である、①自分と人や社会とのかかわり、②自分と自然とのかかわり、③自分自身、の三項目について詳しく学ぶ。

(2) 内容を構成する具体的な学習活動や学習対象

ここでは、具体的な活動や体験を内容の一環とする生活科の特色について理解する。

(3) 内容の構成要素と階層性

生活科の複数の内容を組み合わせた単元構成について、各内容の構成要素と内容の階層性を通じて理解する。

第2節 生活科の内容

第1節で学んだ、①学校と生活、②家庭と生活、③地域と生活、④公共物や公共施設の利用、⑤季節の変化と生活、⑥自然や物を使った遊び、⑦動植物の飼育・栽培、⑧生活や出来事との交流、⑨自分の成長といった、生活科の内容について詳しく学ぶ。

第4章 指導計画の作成と内容の取り扱い

この章では、第3章で扱った生活科の内容に関する指導計画作成上の配慮事項と内容の取り扱いについての配慮事項について理解する。具体的には次のような事項について配慮することを学ぶ。(1)自分と地域の人々、社会及び自然とのかかわりが具体的に把握できるような学習活動を行い、校外での活動を積極的に取り入れること、(2)動植物の飼育・栽培については、かかわりが深まるよう2学年にわたって継続的に取り扱うこと、(3)国語科、音楽科、図画工作科など他教科との関連を積極的に図り、指導効果を高めるように工夫すること、(4)道徳教育との関連を考慮した指導を行うこと。

第5章 指導計画の作成と学習指導

第1節 生活科における指導計画と学習指導

指導計画の作成と特質について、〈1〉具体的な活動や体験が十分にできる時間的な視点、〈2〉主体的な活動の広がりや深まりを可能にする空間的な視点、〈3〉学習の対象にじっくりと安心してかかわることのできる心理的な視点の重要性を学ぶ。また、学習指導の特質についても学ぶ。

第2節 年間指導計画の作成

年間指導計画の作成において配慮すべき点として、〈1〉児童に実態に対応する、〈2〉地域の環境を生かす、〈3〉指導体制を整える、〈4〉授業時数を適切に割り振る、〈5〉2年間を見通し立案することの重要性を学ぶ。

第3節 単元計画の作成

単元計画として、〈1〉内容の組み合わせ、〈2〉学習活動の組織化、〈3〉発達・成長への配慮、〈4〉評価のあり方について学ぶ。

第4節 学習指導の進め方

学習指導の進め方として、〈1〉振り返り表現する機会を設ける、〈2〉伝え合い交流する場を工夫する、〈3〉試行錯誤や繰り返す活動を設定する、〈4〉児童の多様性を生かすことの意義について学ぶ。

模擬授業及び情報機器の活用

スクーリングで実施予定です。※

※○2019（平成31）年度以降の入学生

講義内容を補うスクーリングの詳細については、『添削課題集』の「テキスト科目における指導案の作成及び模擬授業等のスクーリング実施について」をご確認ください。

初等教科教育法（英語）

専門教育科目／2 単位／2 年後期開講／テキスト授業※

■ 担当教員	池上 真由美
■ 使用テキスト	テキスト：小学校英語はじめる教科書 著 者：吉田研作（監修）、小川隆夫、東仁美 出 版 社：mpi 出 版 年：2018 年 I S B N：9784896437430（旧 ISBN：978-4-89643-584-9） テキスト：小学校学習指導要領解説 外国語活動編 外国語編 新版 著 者：文部科学省 出 版 年：2018 年 (文部科学省ホームページよりダウンロード可)
■ 参考テキスト	テキスト：「Let' s Try! 1、2 指導編」「We Can! 1、2 指導編」 著 者：文部科学省 出 版 年：2018 年

○2019（平成 31）年度以降の入学生

この科目はテキスト科目ですが、対象者の方へは講義内容を補うスクーリングを実施します。

日 時	令和 3 年 12 月 19 日（日）13：10～14：10
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10 号館（岡山県高梁市伊賀町 8）
■ 事前提出物	課題内容については『添削課題集』に掲載しています。
■ 提出期限	令和 3 年 11 月 19 日（金）大学必着
■ 使用テキスト	「Let' s Try 1」（出版社：東京書籍） 「【外国語活動・外国語編】小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説」 文部科学省ホームページよりダウンロードができます。

講義概要・一般目標

小学校外国語活動及び外国語科において、英語を教えるため必要な基礎理論（教育法・教材・指導案等）を学び、模擬授業（別途実施）を行って実践的な指導力を身に付ける。

到達目標

テーマ：小学校英語教授法と授業計画案の作成

到達目標：小学校英語教育に関する基礎理論を理解し、その指導法、教材作成、評価等に関する実施方法の習得を目標とする。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー（学生の問い合わせ・相談に応じる時間）

Web 学修支援システムを使用して実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

第 14・15 回の模擬授業の指導は、公立小学校における指導経験のある元教員が行い、実践的な知識・技能を身に付けるようにする。

学修の進め方

・添削課題は、学修指導に沿って学んでいただく中で特に理解してほしい、重要なものを取り上げるようにしています。分からないときはテキストにもう一度戻って、課題のある章を確認するようにしてください。

・添削課題は、空所補充問題と論述問題に分かれています。論述問題は資料を丸写しするのではなく、どこが重要箇所かを確認しながら、自分でまとめてみてください。

・学修の手引には、テキストで特に学んでいただきたいポイントが書かれています。そちらをまず読みテキストを読み進めていただく方が、理解を深めやすいと思います。

・フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

- 1 「小学校英語はじめる教科書」(テキスト①)は、実際に小学校で外国語教育に取り組むための基礎的な知識・技能がわかりやすく解説されています。巻末には、クラスルーム・イングリッシュや歌やチャンツの音声や動画を実際に視聴することができるアプリコードが掲載されており、自学できるようになっています。しっかり活用して、基礎的な実践力を身に付けてください。なお、テキスト①については、次のポイントに留意して読み進めてください。

第1部 外国語の指導法

- Unit 1 . . . 小学校外国語教育の歴史と目的を概観する。
- Unit 2・3 . . . 小中連携と多様性への対応を考える。
- Unit 4・5 . . . 主体的・対話的で深い学びと様々な指導法について学ぶ。
- Unit 6・7 . . . 音声から文字へつなぐ指導と言葉への気付きを考える。
- Unit 8・9 . . . クラスルーム・イングリッシュとスモールトークの指導について学ぶ。
- Unit 10・11 . . . 題材の選定と教材、学習到達目標と指導計画の作成について学ぶ。
- Unit 12・13 . . . 学習指導案の作り方、効果的なチーム・ティーチングを学ぶ。
- Unit 14・15 . . . ICTの活用と学習評価の方法を知る。

* 高学年の指導の実際をアプリコードを通して体験してください。

第2部 外国語に関する専門的事項

* この章の内容は、「子どもの英語」のスクーリングで扱います。

第3部 外国語活動の指導法

- Unit 1・2 . . . 外国語活動から外国語科への接続を考える。
- Unit 3・4 . . . 発達段階に応じた授業の工夫を考える。
- Unit 5・6 . . . 児童の認知・情緒発達に即した指導法について学ぶ。
- Unit 7・8 . . . ことばへの気付きをもたらず指導を考える。
- Unit 9・10・11 . . . 中学年に適した活動と教材、英語によるやり取りの仕方について学ぶ。

* 中学年の各種活動を、アプリを活用して体験してください。自分で指導してみたいユニット(単元)をテキスト③の中から一つ選び、実際に1時間の授業を組み立ててみましょう。

- 2 「学習指導要領解説(外国語)、(外国語活動編)」(テキスト②)は、「学習指導要領」について詳しく解説したものです。「第1章」には改訂の経緯など、「第2章」には目標及び内容などが書かれています。熟読して、理解を深めてください。
- 3 「Let's Try! 1、2 指導編」(テキスト③)は、実際に小学校の中学年で使用されている教材の指導編です。高学年において、令和2年度からは、「We Can! 1、2」に代わって各社の教科書が使用されますが、それらは、この「We Can! 1、2」の内容がベースとなって作成されています。各学年の指導内容と指導方法に目を通し、学習の概要をとらえておくことを勧めます。

※○2019（平成 31）年度以降の入学生

講義内容を補うスクーリングの詳細については、『添削課題集』の「テキスト科目における指導案の作成及び模擬授業等のスクーリング実施について」をご確認ください。

特別支援教育（初等教育）

専門教育科目／2単位／3年前期開講／テキスト授業

■ 担当教員	藤吉 晴美
■ 使用テキスト	テキスト：はじめての特別支援教育―教職を目指す大学生のために 著者：拓植雅義 出版社：有斐閣アルマ 出版年：2010 ISBN：9784641220386
■ 参考テキスト	テキスト：教員をめざすための特別支援教育入門 著者：大塚玲 出版社：萌文書林 出版年：2015 ISBN：978-4-89347-200-7

講義概要・一般目標

2007年（平成19年）4月、学校教育法の改正により「特殊教育」から「特別支援教育」へ名称が変更となった。文部科学省（2007）は、「特別支援教育は、障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒の一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うもの」とし、すべての学校において障害のある子ども達の支援を実現していく方向へと転換が図られた。

したがって、特別支援教育は限られた学校で行われるものではなく、あらゆる保育園・幼稚園、小学校等において、さまざまな障害のある子どもひとりひとりのニーズに応じた適切な指導と支援が求められている。本科目では、すべての教師が備えるべき特別支援に関する基本的な知識を身につけるため、以下の内容について学修する。

まず、「特別支援教育の理念とシステム」として、特別支援教育の理念、歴史的変遷、学習指導要領の理解をする。次に、「子どもの理解と指導・支援」として、障害のある子どもについて理解を深め、ひとりひとりに対応した指導・支援の充実を図る方法について学習する。

そして、「保護者や関係機関との連携」として、子どもに関わる多くの関係者の役割の明確化、分担などについて確認する。

到達目標

本科目の目標は、特別支援教育の目指す理念と、それを支える制度の仕組みに関する知識を身につけ、保育者・教育者として、ひとりひとりの子どものニーズに応じた適切な支援を行うための基礎力を獲得することである。特に、保育や教育場面で出会うことの多い発達障害・軽度知的障害の幼児・児童の心理的特性の理解、学習過程の理解、ニーズに応じた支援の方法を具体的に学修する。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー（学生の問い合わせ・相談に応じる時間）

Web 学修支援システムを使用して実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

精神科臨床と母子保健活動に20年以上携わってきた実務経験を活かし、発達障害、特に自閉スペクトラム症への発見・支援に関する、保護者や関係機関、特に保健師との連携における留意点を踏まえた上で、添削課題を作成した。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

本講義は、「はじめての特別支援教育」をテキストとして使用し、テキストの章立てにしたがって学修を進めます。

第Ⅰ部 特別支援教育の理念とシステム

第Ⅰ部では、特別支援教育の理念と基本的な考え、教育の歴史と現行制度、支援システムの構築と法的整備、特別支援教育コーディネーター、個別の指導計画と個別の教育支援計画がテキストに示されています。これらは、保育・教育の場で特別支援教育を行うための基本となる知識と言えます。

まず、第1章の理念と基本的な考えを読み、従来行われてきた特殊教育との比較を通して、現行教育の理解を深めていきましょう。次に、第2章の教育の歴史と現行制度では、障害のある子どもの教育の歴史と、現在の教育制度や各学校の制度について紹介されています。特に、学習指導要領の理解は重要です。第3章では、支援システムの構築と法的整備について学んでください。これを理解した上で、第4章の特別支援教育コーディネーターへと学修を進めていってください。特別支援教育コーディネーターは、校内における特別支援教育のキーパーソンです。役割と活動の実際を理解しましょう。第5章では、個別の指導計画と個別の教育支援計画を学びます。個に応じた特別支援教育が展開できるための計画立案を学修してください。

第Ⅱ部 子どもの理解と指導・支援

第Ⅱ部では、障害のある子どもについて理解を深め、個に応じた指導・支援の充実を図る方法について学びます。障害の正しい理解を図るため、障害によって生じる学習や生活上の困難性の理解、障害のある子どものもつ強みや弱みの理解、弱みにたいする適切な教育的配慮、子どもの強みを活かしていく支援のあり方について学修していきましょう。

まず、第6章では、LD・ADHD、第7章では、自閉スペクトラム症（テキストでは自閉症スペクトラム）、第8章では、情緒障害・言語障害、第9章では、知的障害、第10章では、肢体不自由・病弱・身体虚弱・重複障害、第11章では、視覚障害・聴覚障害、第12章では、多様な状態を併せもつ子どもについて理解し、それぞれに応じた指導・支援のあり方を学びましょう。

第Ⅲ部 保護者や関係機関との連携

第Ⅲ部では、「連携」をキーワードとして、教員、保護者、医療・福祉などの関係機関が互いに信頼し合い、役割を分担し、スムーズな引継ぎが行えるように、それぞれの立場の者が担っている役割について理解を深めることがねらいです。

まず、第13章では、保護者との連携、第14章では、専門機関や地域との連携を学びましょう。障害のある子どもとその家族にとって、医療機関や福祉機関とのつながりが重要になってきます。どのような社会資源があるのかも含めて学修を進めていってください。第14章では、障害の早期発見・早期支援が連携とどのように関連しているかについて理解しましょう。特に、乳幼児健康診査の果たしている役割について、理解を深めていってください。さらに、保育所・幼稚園への入所・入園前の指導・支援、保育所・幼稚園における指導・支援について理解し、小学校・特別支援学校へのスムーズな入学のために連携が果たす役割を理解しましょう。第15章では、高等教育機関への進学や就労支援、さらには成人・高齢者への支援について、社会保障制度も含め学修してください。

学修の進め方

テキストを熟読してください。読みながら、特に関心を持った内容について、書籍や専門雑誌なども読んで、最新の情報に触れていってください。

添削課題は、全てテキストの中から出題しています。テキストを読めば必ず回答できます。

記述問題も、テキストの内容から回答できますが、テキストの文章をそのまま書く必要はありません。自分で文章を組み立てて、わかりやすくまとめてください。

フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントをつけて返却します。

道徳教育の理論と方法（初等教育）

専門教育科目／2 単位／3 年前期開講／テキスト授業※

■ 担当教員	川上 はる江
■ 使用テキスト	テキスト：道徳教育を学ぶ人のために〔四訂版〕 著 者：小寺正一 藤永芳純 編集 出 版 社：世界思想社 出 版 年：2016 年 I S B N：9784790716884
	テキスト：小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 著 者：文部科学省 出 版 社：廣済堂あかつき 出 版 年：2017 年 7 月上旬
■ 参考テキスト	テキスト：楽しく豊かな「道徳の時間」をつくる 著 者：横山利弘 監修 牧崎幸夫 広岡義之 杉中康平 出 版 社：ミネルヴァ書房 出 版 年：2015 年 4 月

○2019（平成 31）年度以降の入学生

この科目はテキスト科目ですが、対象者の方へは講義内容を補うスクーリングを実施します。

日 時	令和 3 年 8 月 28 日（土）16：40～17：40
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10 号館（岡山県高梁市伊賀町 8）
■ 事前提出物	課題内容については『添削課題集』に掲載しています。
■ 提出期限	令和 3 年 7 月 23 日（金）大学必着
■ 使用テキスト	「小学どくとく 生きる力 2」（出版社：日本文教出版）
	「【特別の教科 道徳編】小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説」 文部科学省ホームページよりダウンロードができます。

講義概要・一般目標

この授業では、道徳教育の目標や意義を理解すること、必要な指導の原理と技法を習得することを目的にしている。学習指導要領を手がかりに、道徳教育の目標や内容項目、指導方法、評価の仕方について理解する。テキストでは、道徳教育の歴史と発達理論などを学習し、道徳教育の現在を定位する。さらに実践という意味では、学校における道徳教育の全体構造や、道徳教育の授業理論、指導法を学修し、実際に指導案を作成することができるようにする。

到達目標

1. 戦前と戦後における道徳教育の歴史を振り返り、その教育的特徴や変遷を理解する。
2. 学習指導要領に明記された道徳教育の考え方、あり方を理解する。
3. 道徳性の発達理論を踏まえて、道徳教育の指導法、指導原理を習得する。
4. 道徳教育の原理を踏まえて、「道徳の時間」の指導案が作成できる。
5. 作成した指導案を基に、模擬授業を行い、指導方法や板書の仕方、評価について実践的に学ぶ。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施する。

担当する授業科目に関連した実務経験

小学校教員として実務経験があり、スクーリング(教育実習指導)の模擬授業で授業構成の仕方、指導方法を講義する。そして添削課題にその内容は反映させる。

学修の進め方

1. 添削課題出題の意図及び課題の進め方

添削課題は、各章の要点となる部分を問題にしている。また、学習指導要領解説道徳編からは、目標や内容を中心に出題している。テキストは道徳教育の歴史からはじまり、道徳性の発達理論、アメリカの道徳教育、学校における道徳の実践などがまとめてある。学修の方法としては、各章を丁寧に読みながら要点、重要語句を整理することを勧める。

2. 添削課題をまとめるにあたっての留意点

課題をもらって「問題を見ながら答えが書いてあるページを探す」という方法は、理解も深まらず記憶にも残らない。テキストの各章を熟読し概略を掴むこと。その後、要点は自分の言葉で簡潔にまとめることを勧める。

また、学習指導要領の第3章はP26, P27の表を熟読するとよい。学習指導要領の第2章、第5章は特に重要である。

3. 効果的な学修の方法

テキストでは、発達理論や歴史、道徳教育の理論の概略は覚えてほしい。大きな特徴と流れを自分の言葉でまとめると、整理されて覚えやすい。全体像を理解した上で詳細な点を学修するとよい。道徳性の内容については、発達段階ごと(低, 中, 高学年ごと)にまとめて記述してあるので、その内容は確実に覚えておくこと。

4. フィードバックについて

フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返す。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

1. 現代社会と道徳教育

道徳とは、社会が個人に要求する「規則」という面と、人間の内面的な「規範」という2つの意味をもつ。したがって、道徳教育においては、道徳の二つの側面を視野におさめて実践を展開する必要がある。社会の規則や規範を強要してみても、それが必ずしも内的道徳性の形成を意味しないところに、道徳教育の難しさがある。テキストの第1章および「小学校学習指導要領解説 道徳編」(平成29年7月)を参照のこと。

2. 道徳教育の歴史

学校における道徳教育は、明治の「修身科教育」に始まる。ただし、昭和20年の敗戦に至るまでの歴史は必ずしも単純ではない。西欧の近代的学問の普及を重視する開明派と儒教道徳派との覇権争い、天皇制国家観のもとでの修身科、さらに台頭する軍国主義との関係など、道徳教育の展開はじつにめまぐるしい。まずは、この点を明らかにした後、戦後の教育改革と道徳教育について考察する。

3. 道徳性の発達理論、授業理論

テキストの第3章では、「道徳性」と「発達」の意味を踏まえて、有力な道徳性発達の理論、すなわち、超自我の形成を主張するフロイト、道徳性が他律から自律へと段階的に発達することを実証的に研究したピアジェ、ピアジェの理論を発展的・実証的に補完・検証したコールバーク、他律から自律への橋渡しとして社会律の段階を設定し有力な提言をしたブルの理論を取り上げ、功績と残された課題を考察する。

4. 道徳教育の理論と実践

現在の学校教育において道徳教育が目指している基本的方向を理解するには、テキストの第5章および「小学校学習指導要領解説 道徳編」が有益である。それらの資料をもとに、道徳教育の目標や指導内容、さらに、全体計画の作成方法と留意点などを理解する。その後、第6章と「小学校学習指導要領解説 道徳編」で「道徳の時間」の意義と特質、指導案作成の仕方について具体的に学修する。

5. 教材研究, 模擬授業, 評価

教材研究, 指導案の作成, 模擬授業, 評価についてはスクーリングで実施予定である。※

※○2019（平成31）年度以降の入学生

講義内容を補うスクーリングの詳細については、『添削課題集』の「テキスト科目における指導案の作成及び模擬授業等のスクーリング実施について」をご確認ください。

「特別活動及び総合的な学習の時間の指導法（初等教育）」

専門教育科目／2 単位／2 年後期開講／テキスト授業※

■ 担当教員	川上 はる江
■ 使用テキスト	テキスト：小学校学習指導要領解説 特別活動編 著者：文部科学省 出版社：東洋館出版社 出版年：2017年7月 ISBN：978-4-491-03469-0
	テキスト：みんなでよりよい・学級・学校生活をつくる特別活動小学校編 著者：国立教育政策研究所教育課程研究センター 出版社：文溪堂 ISBN：978479903209
	テキスト：小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間 著者：文部科学省 出版社：東洋館出版社 出版年：2017年7月 ISBN：978-4-491-03468-3
■ 参考テキスト	テキスト：総合的な学習の時間 著者：森田真樹 篠原正典 出版社：ミネルヴァ書房 出版年：2018年3月 ISBN：978-4-623-08191-2

○2019（平成31）年度以降の入学生

この科目はテキスト科目ですが、対象者の方へは講義内容を補うスクーリングを実施します。

日 時	令和3年12月18日（土）15：30～16：30
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10号館（岡山県高梁市伊賀町8）
■ 事前提出物	課題内容については『添削課題集』に掲載しています。
■ 提出期限	令和3年11月19日（金）大学必着
■ 使用テキスト	「【特別活動編】小学校学習指導要領（平成29年告示）解説」 文部科学省ホームページよりダウンロードができます。

講義概要・一般目標

特別活動、総合的な学習の時間を考慮しながら次の6点について学修する。

1. 学習指導要領における特別活動の目標、主な内容、教育課程における位置づけ
2. 学級活動、児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質
3. 学級活動の指導案作成、模擬授業の実践と評価
4. 学習指導要領における総合的な学習の時間の目標、主な内容、教育課程の位置づけ
5. 総合的な学習の時間における年間指導計画作成の仕方、単元計画の作成の仕方
6. 総合的な学習の時間についての指導と評価の方法、その留意点

到達目標

特別活動は、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点をもちながら自主的、実践的に活動することを通して、集団活動の意義や行動の仕方、合意形成の仕方などの資質、能力を育成する。また、総合的な学習の時間は、探求的な見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えて

いくための資質、能力を目指す。これらの教育方法上の特徴ゆえに、教科指導とは異なる役割を担っている。本授業では、下記の3点を目標に学修する。

1. 特別活動・総合的な学習の時間の意義、目標、内容を理解する。
2. 特別活動の指導方法を実践的に理解する。
3. 総合的な学習の時間の指導計画を作成し、指導と評価の考え方を理解する。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施する。

担当する授業科目に関連した実務経験

小学校教員の実務経験があり、スクーリング(教育実習指導)の模擬授業で授業構成の仕方、指導方法を講義する。そして添削課題にその内容は反映させる。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

「学習指導要領解説 特別活動編」は理論的なことと、配慮事項の基本がまとめている。「楽しく豊かな学級・学校を作る特別活動 小学校編」には、写真や図などで実際の授業の様子や環境構成に至るまでの具体が丁寧に示してある。学習指導要領で分かりにくい部分を補う上で効果的であるので、2冊を併用して学修することを勧める。

1. 特別活動の目標と主な内容(第1章,第2章)

第1章では、特別活動の改定の主旨と要点が述べられている。どのような変遷を経て今に至るのかを知った上で学修すると、今後の進むべき方向性が明らかになる。特別活動の目標、意義は、学習指導要領解説の第2章に明示されており、特別活動が教育課程内の重要で不可欠な位置を占めていることが分かる。具体的には、望ましい集団活動や体験的な活動を通して、実際の社会で生きて働く社会性を身につけるなど、児童生徒の人間形成を図るとともに、社会で生きて働く際に必要な資質能力を育てることを意図している。特別活動の特徴を記してあるところなので重要である。

2. 各活動,学校行事の目標及び内容(第3章)

教育課程では、小学校の場合、学級活動、児童会活動、学校行事、クラブ活動で構成される。中学校の特別活動は学級活動、生徒会活動、学校行事である。この授業では、小学校に照準を合わせ、前記4種の活動のそれぞれについて、その目標や活動内容、指導計画、内容の取り扱いなどの理解を深める。

「楽しく豊かな学級・学校を作る特別活動 小学校編」に、学級活動の進め方、環境構成の仕方、指導案の書き方などの具体が写真や図入りで記述してあるので、学習指導要領と並行して読み進めると授業のイメージが分かり実践的理解を深めることができる。2冊を併用して学修することを望む。

3. 指導計画の作成と内容の取り扱い(第4章)

指導計画の作成に当たっての配慮事項や内容の取り扱いについての配慮事項を中心に学修する。指導と評価についての関連や、異年齢集団、高齢者との関わりの重視、地域連携のあり方等についても記述してある。特別活動を児童による主体的・対話的で深い学びにするためにどうするか、学級経営の充実と生徒指導との関連、道徳科との関連をどのように考えるかなどについて熟読し、要点をまとめながら学修を進めてほしい。

4. 学習指導案作成,模擬授業と評価

学習指導案の作成や指導案に基づく模擬授業、授業の振り返り、評価についてはスクーリングで実施予定である。「学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」は理論的なことと、内容、配慮事項の基本がまとめている。

1. 総合的な学習の時間と主な内容（第1章）

第1章では、総合的な学習の時間の改定の主旨と要点が述べられている。どのような変遷を経て今に至ったのかを知った上で学修すると、今後の進むべき方向性が明らかになる。総合的な学習の時間の目標、意義は、学習指導要領解説の第2章に明示されており、教育課程内の重要で不可欠な位置を占めていることが分かる。

2. 総合的な学習の時間の目標及び内容（第2章、第3章）

ここでは、総合的な学習の時間の目標、特質に応じた学習のあり方、各学校において定める目標と内容の考え方などを学修する。特に、探求的な見方、考え方や教科横断的・総合的な学習を行うことなど、詳細に説明があるので熟読を要する。各学校において定める目標及び内容については、今回の改訂で詳しく記述してあるので、要点をまとめておく必要がある。

3. 指導計画の作成と内容の取り扱い（第4章、第5章、第6章、第7章）

指導計画の作成に当たって配慮事項や内容の取り扱いについての配慮事項を中心に学修する。各学校が定める内容についての考え方、求められる知識、技能についての学修、全体計画・年間計画の作成の仕方などについての基本的な考え方、探求的な学習するためのポイントについて記述してある。児童による主体的・対話的で深い学びにするための単元の流れ、授業構成を考えながら学修を進めてほしい。

4. 総合的な学習の時間の評価と配慮事項（第7章、第8章）

総合的な学習の時間の評価の考え方、評価に基づいて活動を充実させるための体制作り、環境構成、地域との連携のあり方などの具体が説明してある。評価の仕方や学習指導案についてはスクーリングで実施予定である。

学修の進め方

1. 添削課題出題の意図及び課題の進め方

添削課題は、「学習指導要領解説 特別活動編」「学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」から出している。添削課題には、特別活動、総合的な学習の時間を理解する上での基礎となる知識や考え方を問う問題と記述式問題を出題している。記述問題の配点を多くしているため、必ず記述すること。特に、学級活動、クラブ活動、児童会活動、学校行事についてそれぞれの目標と内容をまとめておくこと、また、総合的な学習の時間の目標と内容を整理しておくことを勧める。

2. 添削課題をまとめるにあたっての留意点

課題をもらって「問題を見ながら答えが書いてあるページを探す」という方法は、理解も深まらず記憶にも残らない。概略も掴めていないので、配点の多い記述問題の部分が解けない。過去の解答を見ると、長文が書いてあっても的はずれの箇所を基に記述してあったり、完全に自分の意見であったりする場合が多いので減点となっている。

記述問題の配点は大きいので必ず、自分の言葉で簡潔にまとめること。

3. 効果的な学修の方法

参考テキストは「学習指導要領解説 特別活動編」と関連付けながら読み進めると効果的である。まず、テキストを一読し概略を掴む。次に各章を丁寧に読みながら、学習指導要領で内容を確認する。そして、要点を整理しながらノートにまとめる。また、「学習指導要領解説 特別活動編」、「学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」は熟読しておくこと。特に記述式の問題は、一読しておかないと解けない問題を出題している。計画的に章を決めて読み進めると良い。

4. フィードバックについて

フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返す。

※〇2019（平成31）年度以降の入学生

講義内容を補うスクーリングの詳細については、『添削課題集』の「テキスト科目における指導案の作成及び模擬授業等のスクーリング実施について」をご確認ください。

教育の方法と技術（初等教育）

専門教育科目／2 単位／2 年後期開講／テキスト授業

■ 担当教員	山本 泰弘
■ 使用テキスト	テキスト：教育の方法と技術〈第三版〉 著者：柴田義松 山崎準二 出版社：学文社 出版年：2019.3 ISBN：978-4-7620-2869-4
■ 参考テキスト	テキスト：教育の方法と技術〈三訂版〉 著者：平沢 茂 出版社：図書文化 出版年：2018.2 ISBN：978-4-8100-8701-7

講義概要・一般目標

「子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、技術を学ぶ」ことを目標に、基礎的・基本的事項を学修する。主な内容は下記に示す。

（1）教育方法史，（2）カリキュラム論，（3）授業論，（4）教育の技術，（5）教育評価について学修する。

到達目標

「子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、技術を学ぶ」をテーマとして、教授法の基礎理論とともに授業設計の仕方、学習指導の方法、学習形態、教育機器、教具の活用などについて基礎的・基本的な事項を学ぶ。到達目標は以下のとおりである。

1. 教授法の歴史，教育方法の基礎理論を理解する。
2. 授業，保育を構成する基礎的な要件（児童生徒，教員，教材，環境）を理解する。
3. 授業設計の仕方，指導法，学習形態，情報機器の活用等について理解し，必要な技能を身に付ける。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施する。

担当する授業科目に関連した実務経験

小学校教員の実務経験があり，その経験を添削課題に反映させる。

学修の進め方

1. 添削課題出題の意図及び課題の進め方

添削課題は，各章の要点となるところを問題にしている。テキストは教育方法史からはじまり，カリキュラム論，授業論，教育の技術，教育評価がまとめてある。やや難解な文章もあるが，構造的に分かりやすくまとめてあるので理解しやすい。各章を丁寧に読みながら要点，重要語句を整理することを勧める。

2. 添削課題をまとめるにあたっての留意点

課題をもらって「問題を見ながら答えが書いてあるページを探す」という方法は，理解も深まらず記憶にも残らない。概略も掴めていないので，配点の多い記述問題の部分を解くことができない。過去の

解答例を見ると、長文が書いてあっても的はずれの箇所を基に記述してあったり、完全に自分の意見であったりする場合が多いので減点となっている。記述問題の配点は大きいので必ずテキストの要旨を基に自分の言葉で簡潔にまとめること。

3. 効果的な学修の方法

一読し概略を掴み、その後計画的に1章ずつ要点をまとめ、整理すること。特に第2章「カリキュラム論」、第3章「授業論」、第4章「教育の技術」、第5章「教育評価」は、具体的であり学校現場に出るときには必要な知識となる。指導案を作成したりパワーポイントを作成したりすると具体的に理解が進む。余力がある人は挑戦してほしい。

4. フィードバックについて

フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返す。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

1. 教育方法史

過去から現在に至るまでの主だった教育の方法について主張点を学ぶ。ソクラテス、コメニウスの教授法、ルソーの合自然性の教育、ペスタロッチの開発教授法、ヘルバルト派の5段階教授法、19世紀、20世紀の多様な教育改革、近代日本の学校と教育実践改革が簡潔に記述してある。要点と時代を整理しながら理解することが大切である。

2. カリキュラム論

教育課程の内容の変遷を学ぶ。まず、年代を追って、児童中心カリキュラム、学問中心カリキュラム、人間中心カリキュラムについての記述があり、次に、学習指導要領の歴史の変遷から様々なカリキュラムの基礎・基本や意義・課題などについて記述している。概略を頭に入れた後、熟読してほしい。

3. 授業論

実際の授業を行うことを前提に、具体的な方法について学ぶ。授業の構造と意義、学習指導案の意義と作成手順、授業の目標づくり、対話の役割と方法、教材研究、発問の種類と機能、新しい実践課題などについて記述してある。授業についての基本的な考え方であり、教職を目指す者は熟知しておく必要がある。

4. 教育の技術

教育における技能と技術を学ぶ。パーソナルコンピュータの進歩と教育への影響、ICT環境整備の推進状況、文部科学省が推進するICT機器の特長、活用方法と技術、ICT推進の留意点について記述している。今回の改訂では、プログラミングについても必須となるので考え方は知っておいてほしい。また、板書とノート指導のあり方や机間指導のあり方など授業を行う際の具体的な技術などについても記述してある。いずれも教員として必要な知識であり、熟知しておく必要がある。

5. 教育評価

教育の目標は人格形成にある。そのためには、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をいかに形成するかが大切である。学力をつけるために、全国学力学習状況調査が取り入れられているが、学力の概念、日本の子どもたちの学力の状況、教育評価の種類、評価の目的、評価の仕方など具体的に記述してある。教育活動において評価は指導と一体であり、熟読して理解しておくことを望む。

教育実習指導(初等教育)／教育実習指導

専門教育科目／2単位／3年前期開講／スクーリング授業

日 時	1日目 令和3年7月17日(土) 9:30～18:20 2日目 令和3年7月18日(日) 9:30～18:20 3日目 令和3年8月8日(日) 9:30～18:20 〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年7月9日(金) 必着	該 当 時間割	B
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10号館(岡山県高梁市伊賀町8)		

■ 担当教員	藤井 和郎／川上 はる江／鳥居 恭治／雲津 英子
■ 使用テキスト	幼稚園教育要領解説(平成30年3月)または小学校学習指導要領解説(平成29年告示)
■ 参考テキスト	テキスト：小学校教育実習ガイド 著 者：石橋裕子他編 出 版 社：萌文書林
	テキスト：幼稚園・保育園・養護教育実習ハンドブック 著 者：菊地明子 出 版 社：明治図書
	テキスト：実習日誌の書き方 著 者：相馬和子 他編 出 版 社：萌文書林

講義概要・一般目標

教育実習は、観察、参加、実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。学校教育の実際を体験的、総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につけることが求められる。

この授業は、教育実習を行うための事前指導にあたる。教職意識を高めるとともに、実習に向けた基本的な知識や技能の習得をめざす。授業は、教育実習の目的と心得などの講義だけでなく指導案を作成して模擬授業・模擬保育を行うなど教育実習に向けての実践的な内容を取り扱う。必要に応じて幼稚園実習組と小学校実習組に分かれて講義・演習を行う。なお、指導案作成や模擬授業・模擬保育の準備は、スクーリングの授業時間外(特にスクーリング第2日と第3日の間)にも多くの時間を要するので、あらかじめ予定しておいていただきたい。

この授業の目的は、受講生にとって幼稚園や小学校における教育実習が有意義なものとなるよう事前及び事後の学修をすることにある。したがって、教育実習終了後にも、教師としての実践力向上のための努力を継続することが望まれる。

到達目標

- 1 教育実習に対して、明確な目的意識や課題意識を持つ。
- 2 教材研究、幼児・児童の理解など、教育実習生として必要な知識、技術を習得する。
- 3 教育実習生として必要な授業・保育等の実践的な指導力を身に付ける。
- 4 教育実習生として遵守すべき義務等について理解し、その責任を自覚したうえで教育実習に参加する意欲を高める。

評価方法

教育実習指導の評価は、教育実習Ⅰ、教育実習Ⅱ、教職実践演習と合わせて後期に行う。
なお、模擬授業・模擬保育、スクーリングへの参画状況、科目単位認定試験により総合的に中間評価をする。この中間評価が「否」になった場合は教育実習を行うことができない。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施する。

担当する授業科目に関連した実務経験

この科目は、小学校教員、小学校校長、指導主事等の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

- (1) 教育実習をさせていただく校園の概要や地域の特色等について調べる。
- (2) 自分にとっての教育実習の意味を考える。
- (3) 教育実習生として必要な心構えを考える。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

- (1) 教育実習に対する自身の意欲や心構えを再確認する。
- (2) 子どもの理解、教材研究や指導案作成のために必要な知識や情報を補強する。

〔学修のポイント〕

(1) 実習までの準備

実習の意義や目的、実習の方法、実習生の心得およびマナー、「幼稚園」や「小学校」という教育機関についての理解、子どもとのかかわり、教職員との人間関係の構築、教材研究、実習に必要な実践技能、実習日誌の書き方などについて理解する。

(2) 教育実習の心得

- ・「何もかもすべて学ばせていただきます」という謙虚な気持ちで臨む。
- ・ 幼児や児童の立場からすれば、実習生も教師の一人だということを強く意識し、「教師である」という自覚を失わない。
- ・ 教師にふさわしい言葉遣い、服装、マナーに、日頃から注意しておく。
- ・ 幼児や児童に対し、彼らの大切な時間の一部を提供してもらっているのだという感謝の念をもつ。
- ・ 幼児や児童に楽しくかつ充実した授業・保育が展開できるように周到に準備をする。
- ・ 人前で落ち着いて話すための度胸と精神力を養っておく。
- ・ 教育実習にどのようなねらいをもって臨むか、自己課題を明確にする。

(3) 実習日誌

実習日誌は、実習における実践を記録し、かつ、実践のその記録が、批判的な検討にも耐えるデータベースとなることが求められる。そのためには、実習日誌を作成するためのノウ・ハウが必要となる。どのような視点を持ち、どのように書けばよいのかについてしっかり学ぶことが大切である。

(4) 模擬授業・模擬保育

教育実習において授業実習・保育実習は大きなウェイトを占める。スクーリングにおいても、時間をかけてしっかりと取り組む必要がある。

(5) 実習後の学修

実習期間中の貴重な体験を振り返り、そこからみえてくる諸課題を今後の学修に結びつけ、教師としての実践力向上のための努力を継続することが望まれる。

(6) スクーリング最終時限で講義(授業)全体に対する、フィードバックを行う。

学修指導

1 日 目	講義 1	教育実習の目的と心得・・・・・・・・・・	担当	藤井・川上・鳥居・雲津
	講義 2	実習に向けた準備と実習日誌の書き方・・・・・・・・	担当	藤井・川上・鳥居・雲津
	講義 3	模擬授業・模擬保育のための基礎知識・・・・・・・・	担当	藤井・川上・鳥居・雲津
	講義 4	指導案の作り方・考え方①・・・・・・・・・・	担当	藤井・川上・鳥居・雲津
	講義 5	指導案の作り方・考え方②・・・・・・・・・・	担当	藤井・川上・鳥居・雲津
2 日 目	講義 6	グループワーク：指導案の作成①・・・・・・・・	担当	藤井・川上・鳥居・雲津
	講義 7	グループワーク：指導案の作成②・・・・・・・・	担当	藤井・川上・鳥居・雲津
	講義 8	グループワーク：指導案の作成③・・・・・・・・	担当	藤井・川上・鳥居・雲津
	講義 9	グループワーク：指導案の作成④・・・・・・・・	担当	藤井・川上・鳥居・雲津
	講義 10	作成した指導案の診断・・・・・・・・・・	担当	藤井・川上・鳥居・雲津
3 日 目	講義 11	模擬授業および講評①・・・・・・・・・・	担当	藤井・川上・鳥居・雲津・外部講師
	講義 12	模擬授業および講評②・・・・・・・・・・	担当	藤井・川上・鳥居・雲津・外部講師
	講義 13	模擬授業および講評③・・・・・・・・・・	担当	藤井・川上・鳥居・雲津
	講義 14	模擬授業および講評④・・・・・・・・・・	担当	藤井・川上・鳥居・雲津
	講義 15	模擬授業および講評⑤・・・・・・・・・・	担当	藤井・川上・鳥居・雲津
	講義 16	科目単位認定試験・・・・・・・・・・	担当	藤井・川上・鳥居・雲津

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

前ページの[スクーリングまでの事前学修事項]を参照する。

また、小学校実習を希望する人は、模擬授業の「学年・教科・単元」を決め、教材研究をしておく。

幼稚園実習を希望する人は、模擬保育の幼児の姿を想定し「年齢・その日の中心的活動内容」を決め、環境構成と生活の流れを考えておく。

〔準備するもの〕

小学校実習を希望する人は、あらかじめ決めた学年・教科の教科書およびその教科の学習指導要領解説（平成 29 年 7 月）を持参する。

幼稚園実習を希望する人は、幼稚園教育要領解説（平成 30 年 3 月）を持参する。

「学修の手引」に記載の「参考テキスト」は各自の必要に応じて購入する。スクーリングへの持参は不要である。

〔その他〕

教育実習終了後、事後指導としてレポート課題を課す。

レポートの提出は教育実習終了後、原則 2 週間以内（消印有効）に『教育実習ノート』と併せて通信教育事務課宛に送付する。（実習先からの『教育実習日誌』の返却が遅れる場合などは、返却後『教育実習日誌』と一緒に提出する。）

なお、レポートは「教職実践演習（必修）」で使用するので、必ず控えを取っておく。

（1）事後指導レポート課題

「実習を終えて、改めて考えたこと・学んだこと」

（2）様式設定

① 用紙のサイズは、A4、横書き、2 ページで作成し、両面印刷（1 枚）で提出する。

- ② 余白は、上下左右3cmで設定する。
 - ③ 文字数・行数は、40字×40行で設定する。
 - ④ フォントはMS明朝、フォントサイズは10.5ptで作成する。
- (3) 提出締切・提出先（『教育実習日誌』も併せて提出すること）
実習終了後、原則2週間以内に通信教育事務課に送付
※実習先からの『教育実習日誌』の返却が遅れる場合などは、返却後、『教育実習日誌』と一緒に提出する。

教職実践演習（幼・小）

専門教育科目／2単位／4年後期開講／スクーリング授業

日 時	1日目 令和4年1月22日（土）9:30～18:20 2日目 令和4年1月23日（日）9:30～18:20 3日目 令和4年1月29日（土）9:30～18:20	該 当 時間割	B
	〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和4年1月14日（金）必着		
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10号館（岡山県高梁市伊賀町8）		

■ 担当教員	藤井 和郎／川上 はる江／鳥居 恭治／雲津 英子
■ 使用テキスト	適宜、資料を配付する
■ 参考テキスト	テキスト：幼稚園教育要領解説(平成30年3月) 著 者：文部科学省 出 版 社：フレーベル館
	テキスト：小学校学習指導要領(平成29年告示) 著 者：文部科学省 出 版 社：東洋館出版
	テキスト：小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編 著 者：文部科学省 出 版 社：東洋館出版

講義概要・一般目標

教職実践演習は、教職課程の他の授業科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて、学生が身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて最終的に確認するものであり、いわば全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置付けられるものである。学生はこの科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることが期待される。このような科目の趣旨を踏まえ、①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科、保育内容等の指導力に関する事項を学修する。

到達目標

- 1 教育に対する使命感や情熱を持ち、常に子どもから学び、共に成長しようとする姿勢が身に付いている。
- 2 挨拶や服装、言葉遣い、他の教職員への対応、保護者に対する接し方など、社会人としての基本が身に付いている。
- 3 子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、適切な指導を行うことができる。
- 4 子どもの反応や学習の定着状況に応じて、授業計画や学習形態等を工夫することができる。

評価方法

スクーリングへの参画状況、科目単位認定試験により総合的に評価する。なお教職実践演習の評価は、教育実習指導、教育実習Ⅰ、教育実習Ⅱと合わせて後期に行う。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施する。

担当する授業科目に関連した実務経験

この科目は、小学校教員、小学校校長、指導主事等の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

前ページの〔スクーリングまでの事前学修事項〕を参照する。ただし、「教育実習を終えての報告と反省」は既に提出済みなので、手元にコピーがある人は当日持参する。

〔準備するもの〕

- ・「教職履修カルテ」
- ・「教育実習日誌」（手元にある人は、当日持参する）
- ・「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編」（小学校実習のみ）

〔その他〕

特になし。

教育実習Ⅰ(初等教育)／教育実習Ⅰ

専門教育科目／2単位／3年通年開講／実習

■ 担当教員	藤井 和郎／川上 はる江／秀 真一郎／雲津 英子／近江 望
■ 使用テキスト	教育実習日誌・指導案は大学専用の実習簿を使用 ※「教育実習日誌」は教育実習指導のスクーリング時に配付する
■ 参考テキスト	幼稚園教育要領 幼稚園教育要領解説 小学校学習指導要領 小学校学習指導要領解説

講義概要・一般目標

教育実習は、観察、参加、実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。学校教育の実際を体験的、総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けることが求められる。

教育実習においては、幼児・児童や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校(園)の幼児、児童の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解するとともに、大学で学んだ教科・領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面・保育で実践するための基礎を身に付けることが必要である。

期間は限られているが、目的意識をしっかりと持ち、教育実習に取り組んでもらいたい。

到達目標

- 1 幼児、児童又は生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。
- 2 指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実に即して記録することができる。
- 3 教育実習校(園)の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解することができる。
- 4 学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことができる。

評価方法

「幼稚園教育実習評価表」又は「教育実習成績報告票」、教育実習日誌の記述内容及び事後指導レポートにより総合的に評価する。なお教育実習Ⅰの評価は、教育実習指導、教育実習Ⅱ、教職実践演習と合わせて後期に行う。

担当する授業科目に関連した実務経験

この科目は、小学校教員、小学校校長、指導主事等の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。

学修指導

指導としては、教育実習期間中に行われる「実習巡回指導」と、実習終了後に行う「教育実習事後指導」が中心となる。

特に事後指導では、自らの実習体験を発表し合いながら、グループディスカッションを行うことを通して、自らの実習体験を客体化したり、相対化したりする。

また、グループディスカッションを通して検討すべき課題を設定し、それをテーマにグループ研究を行う場合もある。

学修の進め方

〔教育実習の事前学修事項〕

- (1) 教育実習に対する自身の意欲や心構えを再確認する。
- (2) 子どもの理解、教材研究や指導案作成のために必要な知識や情報を補強する。

〔教育実習中の学修事項〕

- (1) 幼児、児童との関わりを通して、その実態や課題を把握する。
- (2) 指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実に基づいて記録する。
- (3) 教育実習校（園）の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解する。
- (4) 学級担任や教科担任等の補助的な役割を担う。

〔教育実習終了後の学修事項〕

- (1) 実習期間中の貴重な体験を振り返り、そこから見えてくる諸課題を今後の学修に結び付け、教師としての実践力向上のための努力を継続する。
- (2) 事後指導レポートをA4用紙1枚（両面）にまとめる。

教育実習Ⅱ(初等教育)／教育実習Ⅱ

専門教育科目／2単位／3年通年開講／実習

■ 担当教員	藤井 和郎／川上 はる江／秀 真一郎／雲津 英子／近江 望
■ 使用テキスト	教育実習日誌・指導案は大学専用の実習簿を使用 ※「教育実習日誌」は教育実習指導のスクーリング時に配付する
■ 参考テキスト	幼稚園教育要領 幼稚園教育要領解説 小学校学習指導要領 小学校学習指導要領解説

講義概要・一般目標

教育実習Ⅱは、教育実習Ⅰの経験を踏まえた上で、教育者としての実践的力量的形成を図ることを企図している。すなわち幼稚園・小学校に身を置き、幼児・児童と向き合うことで発達の実際や接し方について理解を深める。

幼稚園実習では、指導教員の指導を受けながら、見学・観察・部分保育、全日保育、研究保育などを順次体験することになる。また小学校実習は、見学・模擬授業・研究授業などから構成される。

見学・観察実習においては、指導教員の授業・保育を観察の視点をもって見させていただかなければならない。ただ漠然と授業・保育を観察しているということがあってはならない。また、授業実習・保育実習に当たっては、幼児や児童に対し、彼らの大切な時間の一部を提供してもらっているのだという感謝の念をもち、幼児や児童に楽しくかつ充実した授業・保育が展開できるように周到に準備をする必要がある。

到達目標

- 1 学習指導要領・幼稚園教育要領及び児童・幼児の実態等を踏まえた適切な学習指導案・指導案を作成し、授業・保育を実践することができる。
- 2 学習指導・保育に必要な基礎的技術（話法、板書、学習・保育形態、授業・保育展開、環境構成等）を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面で情報機器を活用することができる。
- 3 学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解する。
- 4 教科指導以外の様々な活動の場面で適切に児童・幼児と関わることができる。

評価方法

「幼稚園教育実習評価表」又は「教育実習成績報告票」、教育実習日誌の記述内容及び事後指導レポートにより総合的に評価する。なお教育実習Ⅱの評価は、教育実習指導、教育実習Ⅰ、教職実践演習と合わせて後期に行う。

担当する授業科目に関連した実務経験

この科目は、小学校教員、小学校校長、指導主事等の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。

学修指導

指導としては、教育実習期間中に行われる「実習巡回指導」と、実習終了後に行う「教育実習事後指導」が中心となる。

特に事後指導では、自らの実習体験を発表し合いながら、グループディスカッションを行うことを通して、自らの実習体験を客体化したり、相対化したりする。

また、グループディスカッションを通して検討すべき課題を設定し、それをテーマにグループ研究を行う場合もある。

学修の進め方

〔教育実習の事前学修事項〕

- (1) 教育実習に対する自身の意欲や心構えを再確認する。
- (2) 子どもの理解、教材研究や指導案作成のために必要な知識や情報を補強する。

〔教育実習中の学修事項〕

- (1) 学習指導要領・幼稚園教育要領及び児童・幼児の実態等を踏まえた適切な学習指導案・指導案を作成し、授業・保育を実践する。
- (2) 学習指導・保育に必要な基礎的技術（話法、板書、学習・保育形態、授業・保育展開、環境構成等）を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面で情報機器を活用する。
- (3) 学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解する。
- (4) 教科指導以外の様々な活動の場面で適切に児童・幼児と関わる。

〔教育実習終了後の学修事項〕

- (1) 実習期間中の貴重な体験を振り返り、そこから見えてくる諸課題を今後の学修に結び付け、教師としての実践力向上のための努力を継続する。
- (2) 事後指導レポートをA4用紙1枚（両面）にまとめる。

外国語活動

専門教育科目／2単位／3年前期開講／スクーリング授業

日 時	1日目 令和3年6月19日(土) 9:30~18:20 2日目 令和3年6月20日(日) 9:30~18:20 3日目 令和3年6月26日(土) 9:30~18:20 〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年6月11日(金) 必着	該 当 時間割	B
会 場	吉備国際大学 岡山駅前キャンパス(岡山県岡山市北区岩田町2-5)		

■ 担当教員	山本 泰弘
■ 使用テキスト	テキスト:「Let's Try! 1」(市販版指導編) 著 者:文部科学省 出 版 社:東京書籍 出 版 年:2018年 I S B N:978-4-487-25970-0 テキスト:「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編」 著 者:文部科学省 出 版 社:開隆堂 出 版 年:2018年 I S B N:978-4-304-05168-5
■ 参考テキスト	テキスト:「Let's Try! 2」(市販版指導編) 著 者:文部科学省 出 版 社:東京書籍 出 版 年:2018年 I S B N:978-4-487-25971-7

講義概要・一般目標

「小学校学習指導要領解説(外国語活動編)」を理解し、小学校の外国語活動の授業で子どもたちが実際に使用している教材を使って、外国語活動の授業の中身を実際に体験しながら、自信を持って小学校の子どもたちに外国語活動の授業ができるようにしていきます。

到達目標

- ・小学校外国語活動の目標や内容を確実に理解し、外国語活動の授業を行う基礎的・基本的な知識や技能を習得することができる。
- ・外国語活動の学習計画や指導案の作成方法を理解し、授業づくりに生かすことができる。
- ・子どもたちが主体的・対話的に深く学び、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成することのできる外国語活動の授業の在り方を考え、教育者としての指導観を持つことができる。

評価方法

授業態度及び科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

外国語活動は、平成23年度から小学校5・6年生で全面実施されましたが、私は、小学校で教諭・教頭として、移行期を含め授業実践に長期にわたり取り組んできました。また、校長として授業方法等に関して研修等で教員に指導も行ってきました。さらに退職後は、令和2年度からの小学校3・4年生での全面実施を視野に、小学校非常勤講師として授業実践に取り組んできました。こうした実務経験を生かし、学校現場で使用している教材による授業体験、教案作成や模擬授業などを通して、より実践的な講義（授業）を行います。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

文部科学省のホームページには、学習指導要領や学習指導要領解説、補助教材などの資料が数多く掲載されています。また、書店の教育コーナーにも、小学校外国語活動に関する本や資料がたくさん並んでいます。目を通していただければ、講義の理解が進むと思います。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

授業の最後にみなさんにしていただく模擬授業を参考にして、自分なりにいろいろな授業を組み立ててみてください。また、文部科学省のホームページや小学校外国語活動に関する本や資料などを参考にしたり、地域の小学校のオープンスクールなどで実際の外国語活動の授業を参観したりして、学修を深めることをお勧めします。

〔フィードバック〕

スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行います。

学修指導

1 日 目	講義1 オリエンテーション
	講義2 「外国語活動」の基本理念
	講義3 小学校学習指導要領（外国語活動）解説
	講義4 教材の構成と内容①
	講義5 教材の構成と内容②
2 日 目	講義6 第二言語習得と指導の留意点
	講義7 指導者の役割・指導法・指導技術
	講義8 指導者の英語表現
	講義9 授業研究（授業映像の視聴）
	講義10 指導目標や学習計画の立て方・評価方法・学習指導案の作成方法
3 日 目	講義11 学習計画・指導案作成
	講義12 模擬授業の準備
	講義13 模擬授業と授業の振り返り①
	講義14 模擬授業と授業の振り返り②
	講義15 講義のまとめ・振り返り
	講義16 科目単位認定試験

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

本スクーリングの使用テキストは必ず目を通しておいてください。文部科学省のホームページには、学習指導要領や学習指導要領解説、補助教材などの資料が数多く掲載されています。また、書店の教育コーナーにも、小学校外国語活動に関する本や資料がたくさん並んでいます。これらについても目を通していただければ、スクーリングでの学修内容の理解が進むと思います。

〔準備するもの〕

使用テキスト・参考テキスト・ファイル・ノート・筆記用具・はさみ・スティクのり・マジックペン（黒）など

※当日、スクーリングで使用する資料を配布するので、ファイルなどが必要です。

※模擬授業の教材作成で、はさみ、スティクのり、マジックペン（黒）などが必要です。

〔その他〕

最終日（3日目）には、グループ分かれて模擬授業をしていただき、学修を深めていきます。

文部科学省や教育委員会などのホームページで小学校外国語活動の授業について把握しておいてください。また、お知り合いに小学校の先生や小学校外国語活動に携わっている人がおられれば、どのような授業が行われているのかを聞いておいてください。模擬授業の参考になると思います。さらに、自分は模擬授業をどの単元でするのがいくつか候補を考えて、スクーリングに臨んでいただければ、模擬授業の指導案作成や準備がよりスムーズに進むと考えます。